

# econoforum

KWANSEIGAKUIN UNIVERSITY

SPRING 2020

社長・業界人  
〈インタビュー〉

私には私のやり方がある

大学周辺  
ラーメン巡り

千差万別の個性

経済学部生  
ファッション特集

私の日常と服と靴



- 3 ゼミ紹介
- 31 社長・業界人インタビュー
- 44 高校生から大学生へのQ&A
- 48 ラーメン巡り
- 52 ファッション特集
- 59 シリーズチャペル〈経済と人間〉
- 69 シリーズチャペル〈人間を考える〉
- 79 シリーズチャペル〈経済と倫理〉
- 85 シリーズチャペル〈経済学と聖書〉
- 86 チャペル講話 卒業生を覚えて
- 87 基礎演習リポート一覧
- 100 研究演習Ⅱ 卒業論文一覧
- 116 経済学部懸賞論文について
- 117 エコゼミ紹介

# ECONO FORUM

2020年より、経済学部現役学生自らで経済学部の魅力を発信していく雑誌として『エコノフォーラム』は生まれ変わりました。VUCA (Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性) とよばれる不安定な現代を生き抜く人材には経済学のような論理的な思考能力だけではなく、デザインやアートといった感性の能力も必要と言われています。『エコノフォーラム』では、学生達が織りなす論理と感性のハーモニーによって、多様な価値観を認め、語り合える、新たな世界を切り拓くプラットフォームの醸成を目指します。

## 巻頭言 経済学部での学びで自分を鍛える

経済学部長 豊原 法彦

経済学と聞いてどのようなイメージをもたれるでしょうか。「経済」という言葉は高校で勉強している公民の中の政治経済というジャンルとして学んだり、ネットやテレビのニュースでも出てくるので馴染みがあるでしょう。ところが「経済学」となるとピンとこないかもしれません。でも、経済学部が提供するカリキュラムをしっかり学んでもらえると、卒業する（経済学士になるといいます）ときには、蕩々と経済学についてわかりやすく説明できるようになっています。

そのために経済学部では、講義科目だけでなく、演習科目と呼ばれるいわゆるゼミを開講しています。つまりバubbンな形で基本的な考え方や最新の理論、さらに議論を展開するために必要な知識（数学、語学力など）などを講義を通じて学び、アクティブな形で演習科目でテーマごと仲間たちとディスカッションし、発表するというアウトプットのプロセスをマネジメントできるためのカリキュラムを用意しています。また、本学部ではディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）として、必要なスキルを【関心・意欲】、【知識・理解】、【技能・表現】、【判断・問題解決】にわけています。また、大学としてはKwansei コンピテンシーとして、知識、能力、資質という各点について皆さんの力を涵養できるようなカリキュラムを用意しています。すでにいろいろな科目を受けられた方は、自らの学修課程を顧みるとき、これらについて感じられることと思います。

このエコノフォーラムは皆さんのそうした学びの記録であり、1996年に創刊されて以来、学生の皆さんが教職員と協同して制作してきました。そして今回大きくバージョンアップしようとしていることにも大きな意味があります。つまり創刊当初は当時の制約条件のもとで最適であると思われたことが、時の変化と共に構成員も代替わりし、バックグラウンドになる教育課程なども進化してきたことで制約条件、目的関数共に変化してきたために、最適解がシフトしたことからコンセプトや構成、内容を毎年更新していくことが重要となります。



例えば当初は高校では余り行われてこなかったディベートや総合的学習といったアクティブラーニングが近時では普通に取り入れられたり、当初は始めた携帯電話・PHSがスマホに取って代わられるなどICT環境が進化し、さらに大学では当時は単位の数さえそろえれば良いという考え方でカリキュラムを捉えていたものが、教育の質を保証することが重要だということで、学修過程を明らかにしながら学び続ける力を獲得することに力点が置かれるようになってきました。

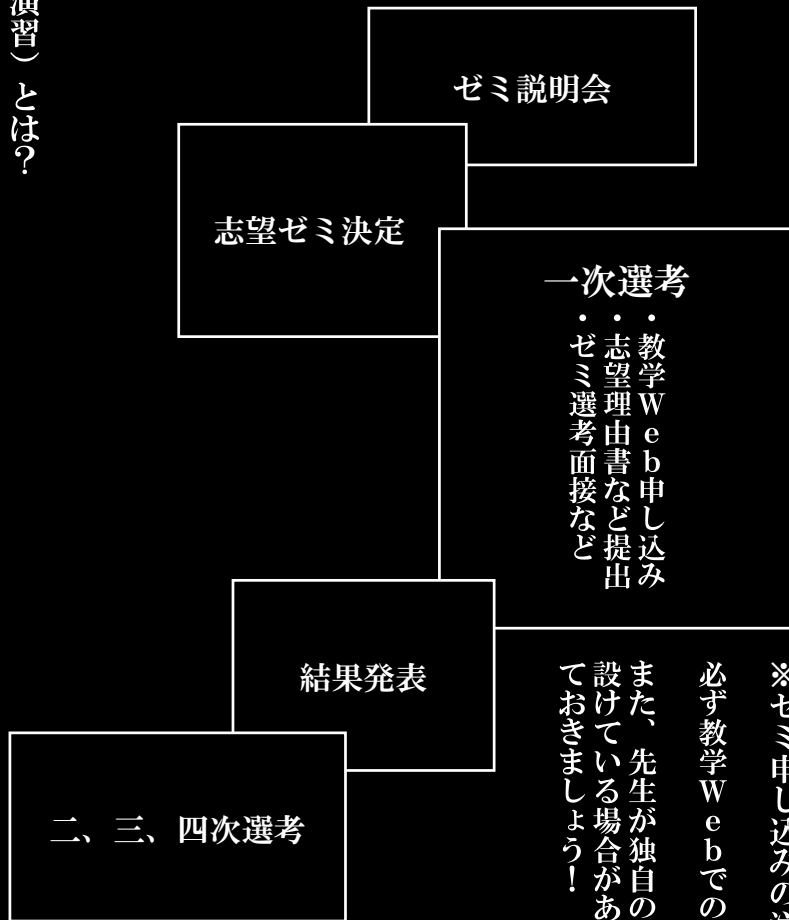
その結果生まれた本誌も例外ではなく、学生の皆さんの可能性があらわれたのもでもり、経済学部の大切な財産のひとつであると共に、各構成員の切磋琢磨の結果といえます。

エコゼミ委員会の皆さんをはじめとし発行にご尽力いただいたすべての方々に感謝を申し上げますとともに、本紙が今後ともにさらに充実したものとなっていくことを願っています。

# ゼミ紹介

ゼミ（研究演習）とは？

【期間】 2年生の秋学期から始まり、原則4年生の秋学期まで  
【内容】 自身の研究したい分野に分かれて、より深く・専門的に  
経済学を学び、研究します。



一次選考  
・教学Web申し込み  
・志望理由書など提出  
・ゼミ選考面接など

※ゼミ申し込みの注意点  
必ず教学Webでの申し込みを忘れずに！  
また、先生が独自の「受け入れ条件」を  
設けている場合がありますので、気を付け  
ておきましょう！

次ページより、それぞれのゼミ情報を掲載しています。

2019年度現在、開講しているゼミは学生の代表がゼミについて紹介しています。

※募集予定のゼミは直前に変更されることがあります。  
ご注意ください。

# スケジュール

2回生秋学期  
ゼミ合宿（夏休み）  
ビジネスコンテストの  
見学（11月）  
全回生縦コン（11月）  
合同ディベート大会

3回生春学期  
ゼミ合宿（春休み）  
合同ディベート大会  
2.3回生縦コン（6月）

3回生秋学期  
全回生縦コン（11月）  
ビジネスコンテスト  
発表会（12月）

4回生通年  
卒業研究

## 研究テーマ

企業金融・財務分析・コーポレートファイナンスなど

## 研究内容

企業金融を主に扱っています。2年生の秋学期から財務三表を用い財務分析を学びます。卒業論では、それを活かして企業分析を行います。

# 秋吉ゼミ

## ゼミについて一言

秋吉ゼミでは、「コーポレートファイナンス」をメインテーマに勉強しています。

授業は班活動が多く仲が深まります。

先生も優しくとても楽しく学んでいます。

縦コンやゼミ合宿などイベントも企画されています。

企業金融に興味がある方は是非！

男女比もしくは人数 《5期生》

男子12人・女子16人

## 秋吉先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 銀行が証券業務を兼営することの効果

Q 担当されている主な講義

A 金融政策論、国際金融論

Q 望ましいゼミ生像

A ゼミ活動に積極的に取り組める学生

## 座右の銘

「幸運は用意された心にもみ宿る」

# スケジュール

2回生秋学期  
90秒間新聞スピーチ  
ビブリオバトル  
ディベート (11月)

3回生春学期  
3分間新聞スピーチ  
事務事業評価  
ディベート (6月)

3回生秋学期  
学会発表 (10月)  
バーチャル市議会に  
て成果発表 (11月)  
ディベート (11月)

4回春学期  
卒業論文作成  
4回生秋学期  
卒業論文作成  
卒業旅行  
ディベート

## ゼミについて一言

男女仲良く、明るく元気なところがこのゼミのアピールポイントです！楽しむだけでなく、やるときはやるというメリハリを付け、それぞれがお互いを高めあっています。上村先生も優しく学生の意見もきちんと聞いてくれるので、お父さんのような存在です。

## 男女比もしくは人数

男子10人・女子14人

## 上村先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 行財政運営、行政改革、社会保障

Q 担当されている主な講義

A 財政学A、B、海外学習活動（ドイツインターンシップ）

Q 望ましいゼミ生像

A 論理的思考、協調性、やりぬく力を持つ学生

## 座右の銘

～Mastery for service～（関学生ならこれでしょう）

## 研究テーマ

地方自治体の事務事業評価と政策提言

## 研究内容

西宮市の事務事業評価について、事業内容を評価後ロジックモデルを作成し有効性と効率性の観点から評価を行っています。

研究成果については、令和元年10月の兵庫県自治会にて報告し、11月末に西宮市議会における「バーチャル市議会」において報告する予定です。

# 上村 ゼミ

# スケジュール

2回生秋学期  
何もしてませんでした

3回生春学期  
飲み会

3回生秋学期  
未定

4回生春学期  
未定  
4回生秋学期  
未定

研究テーマ  
マクロ経済理論

研究内容

Mankiw (マンキュー) の Macroeconomics (著作) でマクロ経済理論を学び、それらの理論から仮設を立てて実証します。

# 岡田 ゼミ

ゼミについて一言

皆ゼミについていくのに必死で決して楽とは言えませんが、教授は見捨てずに分かるまで指導してくださります。英語・経済学だけでなく、プレゼンを通じ、論理的なプレゼンの仕方も実践的に学べます。

男女比もしくは人数 ≪2期生≫

男子4人・女子1人

岡田先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A マクロ経済学

Q 担当されている主な講義

A マクロ経済学とその応用A、中級マクロ経済学、上級マクロ経済学

Q 望ましいゼミ生像

A 自分で考えて行動できる学生

# スケジュール

2回生秋学期  
合同ゼミ：ディベート  
(学習院大学と  
関西学院大学)

3回生春学期  
ゼミ合宿

3回生秋学期  
合同ゼミ：研究発表  
(京都産業大学と名古屋大学)  
合同ゼミ：研究発表  
(法政大学と神戸大学)

4回生通年  
就職活動  
卒論

研究テーマ  
企業経済

研究内容

2年生では企業の経営戦略やイノベーションの基礎、因果関係と相関関係について学びます。  
3年生では、グループに分かれてそれぞれテーマを決め、先行研究の文献を読み理解を深め、研究を進めていきます。

ゼミについて一言

私たちの代は先生を含めて14人の少人数ゼミなので、全員の仲がいいです！

ゼミのある日はお昼ご飯をみんなまで食べています。

また、合同ゼミや夏合宿などみんなで一丸となってゼミ活動に取り組む生徒参加型のゼミです！

男女比もしくは人数 《5期生》

男女比 10:3

加藤先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A イノベーションとアントレプレナーシップに着目した実証研究

Q 担当されている主な講義

A ベンチャービジネスA、企業経済学A・B

Q 望ましいゼミ生像

A ゼミのテーマに関心を持っており、積極的に取り組む人、ルールを守る人

※その他

当ゼミは「研究志向」が強いので単にゼミに所属しておきたい人はお勧めしません。

将来、大学院に進学希望する人を歓迎します。

# 加藤 ゼミ



# スケジュール

2回生秋学期  
・経済数学の基礎  
・新聞発表

3回生春学期  
・輪読  
・新聞発表

3回生秋学期  
・企業研究  
・卒論事前研究

4回生春学期  
・卒論研究、作成  
4回生秋学期  
・卒論作成

研究テーマ  
マクロ経済学

研究内容  
ラムゼーモデルを用いて日本経済を分析することを目指しています。

## ゼミについて一言

研究課題の報告の際には、アドバイスや意見をたくさん下さる優しい先生です。  
研究は自分の興味のあるテーマを選ぶことができます。

男女比もしくは人数 ≪4期生≫

男女比 4..1

國枝先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容  
A マクロ経済学・経済成長  
Q 担当されている主な講義  
A 経済と経済学の基礎A、上級マクロ経済学I  
Q 望ましいゼミ生像  
A 熱心な学生

# 國枝 ゼミ

# スケジュール



栗田ゼミHP→

2回生秋学期  
色々な意味で基礎力強化  
Smilocal・TtW活動

3回生春学期  
アフリカ渡航に向けて  
研究テーマを決定

3回生秋学期  
アフリカ帰国後論文執筆  
論文大会出場

4回生春学期  
就職活動  
卒業論文のテーマ決め  
4回生秋学期  
卒業論文執筆  
Smilocal・TtWで論文  
大会出場

## 研究テーマ

人それぞれです。開発経済学を中心に、好きなことを研究できます。

## 研究内容

開発経済学を中心に研究しています。  
途上国だけでなく日本の発展・開発について、時にはフィールドワークを交えながら研究します。

## ゼミについて一言

活動内容が多く、様々なことを学び、考えることができるゼミです！

ゼミ生皆、何事も本気で取り組む。特にスポーツ大会や“ふじやライブ”では、めんどくさがらず（恥ずかしがらず）本気で楽しむことが、新しい自分に出会うきっかけになります！

## 男女比もしくは人数 ≪5期生≫

男子12人・女子11人

## 栗田先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 途上国における人材育成と技術移転、農業新技術採択・普及におけるネットワーク効果etc…

Q 担当されている主な講義

A 開発経済学、中級開発経済学、アジア経済論A・B、海外学習活動etc…

Q 望ましいゼミ生像

A 他人に正しい配慮ができる人

## 好きな言葉

「迷子になる、つまり世界の手がかりを失って、

はじめて私たちは自分自身を探し始める」

# 栗田 ゼミ

# スケジュール

2回生秋学期  
コンピュータを用いた  
計量経済学の理論を学ぶ

3回生春学期  
マーケティング戦略  
企業戦略  
ミクロ、マクロ経済  
学の理論・政策手法

3回生秋学期  
京都合宿(夏)  
所得税法の理論・演習  
→所得と資産形成の  
理解を深める

4回生春学期  
ゼミの懇親会として合同  
コンパを行う  
就活実践ゼミナール  
4回生秋学期  
卒業論文作成

研究テーマ  
日本経済・経済政策  
モットー「世界規模で経済を学ぼう」

研究内容  
マーケティング・リサーチと計量経済学、日本の産業と国民生活の将来  
国際経済視点での企業戦略、所得税と法人税演習

ゼミについて一言

社会に出てから役立つスキルを学びたいという方はぜひとも桑原ゼミにお越しください。  
京都での夏合宿や神戸大学とのイベント大会など、楽しいイベントも盛りだくさんです。お待ちしております。

男女比もしくは人数 ≪30期生≫

男子8人・女子12人

桑原先生にインタビュー

- Q 現在のご研究内容
- A 流通システムと産業組織から世界を読みとく
- Q 担当されている主な講義
- A 流通経済論A・B、経済事情H(中国経済の産業と流通)
- N (アメリカ経済の産業と流通)
- Q 望ましいゼミ生像
- A 経済政策に関心のある真摯な学生

座右の銘

〜清江(せいこう)一曲 村を抱きて流る  
長夏(ちようか) 江村 事事(じじ) 幽なり〜

# 桑原 ゼミ

# スケジュール



## 研究テーマ

- ・統計学
- ・計量経済学

## 研究内容

2年生ではエクセルの基本を学びます。  
3年生では統計ソフトRを使い、統計学をより深く、本格的に学んでいます。

## ゼミについて一言

古澄先生はとても面白く、優しい先生です。  
私たちの学年はみんなで飲み会もしていて、気楽で楽しい雰囲気です。  
パソコンが好きな人や統計学に興味のある方は是非お越しください！

男女比もしくは人数 《4期生》

男子15人・女子6人

## 古澄先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A ペイズ統計学

Q 担当されている主な講義

A 経済学のための統計学入門 A・B、計量経済学

Q 望ましいゼミ生像

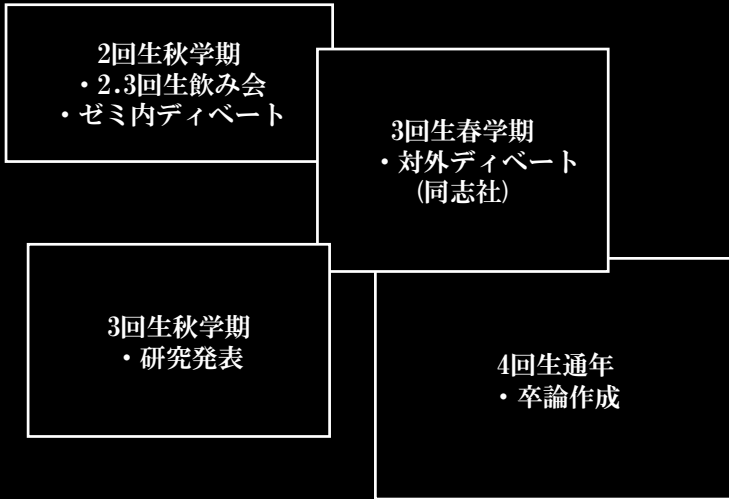
A まじめな学生

## 座右の銘

「自分の好きなことをする」

# 古澄 ゼミ

# スケジュール



研究テーマ

社会保障制度(年金・医療・介護・生活保護など)

研究内容

社会保障制度をもとに社会を良くするために行うべき政策は何なのかを研究します。

# 田畑 ゼミ

ゼミについて一言

人数は25〜30名程度。

難しく感じられていた社会保障制度も先生が分かりやすく解説してくれます！

皆さんも一緒に有意義な時間を過ごしていきましょう！

男女比もしくは人数《6期生》

男女比6..4

田畑先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 人口の高齢化が経済成長に及ぼす影響について

Q 担当されている主な講義

A 人口と経済発展A・B、マクロ経済学とその応用B

Q 望ましいゼミ生像

A 粘り強く課題に取り組む学生

座右の銘

「人事を尽くして天命を待つ」

# スケジュール

研究テーマ  
ゲーム理論

研究内容

2年生では、テキストの輪読を中心にゲーム理論の基礎を学びます。  
3、4年生では、学生が日常のふとした疑問などを徹底的にゲーム理論の観点から研究していきます。

2回生秋学期  
・ハロウィンパーティー  
・模擬店出店  
・合同ゼミ

3回生春学期  
・縦飲み会  
・BBQ  
・夏合宿

3回生秋学期  
・ハロウィンパーティー  
・模擬店出店  
・インゼミ大会  
・合同ゼミ

4回春学期  
・BBQ  
・夏合宿  
4回生秋学期  
未定

ゼミについて一言

田村ゼミでは、ゲーム理論を学生中心となって主体的に学習しています。

常にゼミの中心には学生がいて、自分たちで考え取り組んでおり、自由度が高いゼミです。

男女比もしくは人数 《2期生》

男子38人・女子29人

田村先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 耐戦略的な資源配分メカニズムの設計可能性の分析

Q 担当されている主な講義

A 経済学のための数学入門A、

市場と制度の経済学A・B

Q 望ましいゼミ生像

A 勉強も遊びも自ら楽しんで取り組める学生

座右の銘

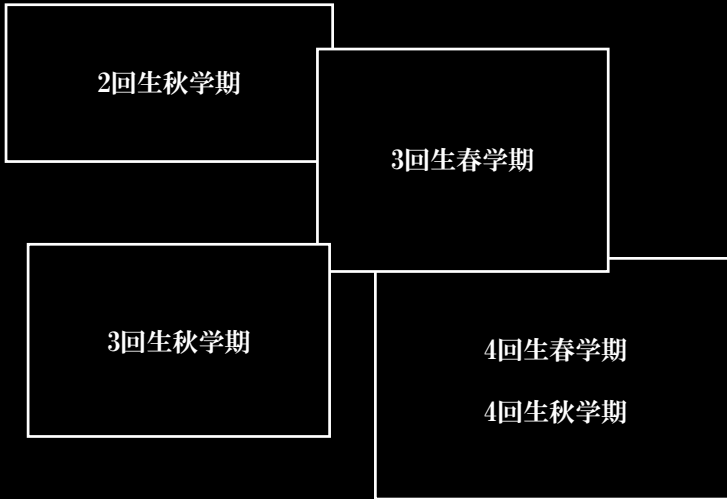
「楽しみながら取り組む」

# 田村 ゼミ

# スケジュール

研究テーマ  
時事問題

研究内容  
時事問題についての勉強



ゼミについて一言

20人くらいの大人数ゼミです。

日本の経済、政治問題などいろいろなトピックに取り  
組むゼミです。

興味がある方はぜひどうぞ！

男女比もしくは人数

人数・20人

寺本先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 日本茶の文化史、近代日本経済史、平成史

Q 担当されている主な講義

A 経済の歴史と思想、学際トピックSE(2014)、

日本経済史I・II、経済史B、上級日本経済史

Q 望ましいゼミ生像

A 日本史に関心があるひと、実地調査を厭わない人、  
ゼミ活動に十分な時間を割ける人

# 寺本ゼミ

# スケジュール

2回生秋学期  
顔合わせ会  
文献の研究

3回生春学期  
インゼミ大会の  
準備  
ゼミ合宿

3回生秋学期  
インゼミ大会  
大会終了後フィード  
バック  
打ち上げ

4回春学期  
卒論準備  
縦コン  
4回生秋学期  
卒論制作  
卒業旅行

ゼミについて一言

利光ゼミでは自主性を大事にしているので研究プランやイベント、合宿の計画は生徒中心に企画することが出来ます。そのようなゼミなので忙しい人でも自然と仲良くなり、研究も遊びも充実したゼミ生活を送ることが出来ます。

男女比もしくは人数 ≪2期生≫  
人数：19人

利光先生にインタビュー

- Q 現在のご研究内容
- A ネットワーク効果と互換性に関する理論的研究とその応用
- Q 担当されている主な講義
- A 国際経済学、中級国際経済学
- Q 望ましいゼミ生像
- A 何事にも積極的に行動する人

座右の銘

才能は有限、努力は無限

研究テーマ

企業の海外進出、国際政策、ASEAN、EUなど

研究内容

国際経済学を専門とするゼミですが、専門に関することを幅広く自由に研究することができます。

# 利光 ゼミ



# スケジュール

研究テーマ

- ・統計学
- ・コンピュータ

研究内容

エクセルやRを用いて経済データを統計データを統計的に分析。  
また、調べたデータを基にプレゼンを行う。

2回生秋学期  
情報リテラシー  
(ビジネスレターの  
書き方・エクセルの利用)

3回生春学期  
Rを用いた  
統計分析

3回生秋学期  
実際のデータを用いた統計分析

4回生春学期  
卒論研究(文献発表)  
4回生秋学期  
卒論作成(プレゼン)

ゼミについて一言

コンピュータや統計学と友達になります！  
ハマると楽しいかも？

男女比もしくは人数 ≪22期生≫

男女比9..1

豊原先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 景気の予測

Q 担当されている主な講義

A 経済学のための統計学入門 A・B

Q 望ましいゼミ生像

A パソコンを含め、何かのマニア

座右の銘

～ 艱難は忍耐を、

忍耐は練達を、

練達は希望を生む～

# 豊原 ゼミ

# スケジュール

3回生春学期  
春のゼミ合宿  
研究テーマ決定  
12本の先行研究

4回生春学期  
就職活動  
卒論に向けた研究活動  
4回生秋学期  
卒論完成  
卒業旅行

2回生秋学期  
輪読での基礎学習  
ゼミ対抗ディベート大会

3回生秋学期  
ゼミ合宿  
インゼミ大会  
データ分析の学習

ゼミについて一言

一言でいえば楽しいゼミです。年によって差はあるかもしれませんが、皆いつも賑やかで楽しいゼミです。しかし、勉強するときはしっかりと勉強するメリハリも兼ね備えています。そして一番の魅力はやはり西村先生の可愛さです。

男女比もしくはは人数《10期生》

3回生男子11人・女子9人

西村先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 親の働き方が子供の Well-being (健康と幸福) に与える影響、女性活躍推進法の効果

Q 担当されている主な講義

A 経済学と経済学の基礎B、社会政策B、家計経済学A・B

Q 望ましいゼミ生像

A なんでも楽しもうとする学生

座右の銘

「やってしまった後悔はだんだん小さくなる」

研究テーマ

家計経済学、社会政策、行動経済学

研究内容

主に少子化や晩婚化、貧困問題などを中心に進めています。さらに行動経済学の勉強も有志でしています。

# 西村 ゼミ

# スケジュール

2回生秋学期  
9月：夏タテ合宿  
プレゼン&ディベート  
年末懇親会

3回生春学期  
プレゼン&リサーチ  
6月：タテ就活セミナー  
7月：インフラ施設見学  
9月：夏タテ合宿・リーダー

3回生秋学期  
11月：インゼミ大会  
12月：他大学との交流会  
年末：タテ懇親会

4回生春学期  
他己分析&自己理解  
9月：夏タテ合宿  
4回生秋学期  
卒論準備  
年末：タテ懇親会  
2月：卒業旅行企画

## 研究テーマ

電力や空港などのエネルギー、交通を中心とした規制改革の評価

## 研究内容

インフラや公共サービスに関する具体的なテーマを選出し、グループ別にパワーポイントで報告します。  
ディベート形式をとるのでアドリブ力を鍛えることができます。

# 野村ゼミ

## ゼミについて一言

多人数で行動しているため、様々な意見が飛び交います。それぞれのゼミ生が学内外で打ち込む何かを見つけて活動しているのがユニークです。卒業生も含めたタテのつながりを大切にしていくのも特徴です。

## 男女比もしくは人数 《23期生》

男子17人・女子20人

## 野村先生にインタビュ

Q 現在のご研究内容

A 電力改革・インフラ改革、航空自由化・航空民営化

Q 担当されている主な講義

A 規制経済論、経済事情M(2017) : Airline Competition and Airport Business、経済学トピックスF(2017) : Network Industry in Europe、エアラインの実務を学ぶ

Q 望ましいゼミ生像

A 自分の夢をつかもうとしている人

## 座右の銘

~Above us only sky 僕らの上にはただ空があるだけ~

# スケジュール

2回生秋学期  
新勧コンパ

3回生春学期  
他大学との共同ゼミ  
\*18年度は長崎大  
\*19年度は京都大

3回生秋学期  
インゼミ大会に向けて  
の論文作成  
インゼミ大会

4回生春学期  
卒論に向けた学習  
(就活があるので、ゆったりと)  
4回生秋学期  
卒論の中間プレゼン  
卒論の作成

ゼミについて一言

原田ゼミは、歴史・思想・文化・社会などの数値化できないものに注目して過去の経済学・経済思想を学び、そこに今日と同様の諸問題を見つけるなど、様々な目線から学ぶゼミです。数字が得意じゃないけれど歴史・文化が好きという人にはあっています。

男女比もしくは人数 ≪2期生≫

男女比3..2

原田先生にインタビュー

- Q 現在のご研究内容
- A ドイツの社会・経済思想史
- Q 担当されている主な講義
- A 経済の歴史と思想、文化と社会の経済学A・B
- Q 望ましいゼミ生像
- A 文化が好きな受講生を求めます

座右の銘

〜誰でも、つねに高いものを求めて務め励む人を  
私たちは救うことができます〜(ゲーテ)

研究テーマ

ドイツを中心とした歴史・文化・社会と経済学・経済思想の関係性について

研究内容

3年生は、19世紀ドイツの経済学者フリードリヒ・リストの思想について、  
研究しています。

4年生は、吉田松陰の思想と弟子たちによるその実現について、研究しています。

# 原田 ゼミ

# スケジュール

- 2回生秋学期
- ・ミクロ経済学の学習
  - ・計量経済学の学習
  - ・2回生の夏に夏合宿

- 3回生春学期
- ・グループ研究
  - ・計量経済学の学習

- 3回生秋学期
- ・9月ゼミ合宿(全学年)
  - ・他大学との合同研究発表(例年慶応大学、神戸大学、関西大学、聖心女子大学など)

- 4回生春学期
- ・卒論作成
  - ・夏合宿
- 4回生秋学期
- ・卒論作成

研究テーマ  
行動経済学、環境資源経済学

## 研究内容

- ・4つの研究テーマから2つ例を挙げると、
- ・ロコミによる経済効果の計測
- ・ペットボトルから紙容器に代替することの環境負荷削減効果

## ゼミについて一言

忙しいゼミという印象を持たれることがありますが、ゼミ生みんなの仲が良く、アットホームな雰囲気です。活動に取り組んでいます。

男女比もしくは人数 《10期生》

男子6人・女子13人

## 東田先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A (1)共有資源の自主的資源管理・森林、魚、などの共有資源を利用して住民が、どのような状況において資源を長期にわたって利用できるか

(2)貿易と制度・環境規制・政策、競争法に焦点を当てて、制度の調和あるいは望ましい国際ルールを考察する

Q 担当されている主な講義

A 経済と経済学の基礎A、

Topics in Economics (in English) D(2017)

Q 望ましいゼミ生像

A 勉強・研究を他のゼミ生と一緒に楽しめる学生

# 東田 ゼミ

# スケジュール

## 研究テーマ

- ・ 国際経済
- ・ 国際金融
- ・ 応用計量経済学

## 研究内容

国際経済、国際金融をテーマとして、プログラムを使った実証分析を行う。

2回生秋学期  
・ 国際経済の基本を学ぶ

3回生春学期  
・ データ解析

3回生秋学期  
・ グループ研究

4回生春学期  
・ 卒業研究の推進  
4回生秋学期  
・ 卒業論文の作成

## ゼミについて一言

熱意溢れる指導により、物事の本質を論理的に思考し、現実の社会問題に応用する力を身に付けるゼミです。全ての学生に積極的・能動的学習態度が求められます。

男女比もしくは人数

男子7人・女子1人

## 藤井先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 世界の低・中所得国の対外債務の在り方について

Q 担当されている主な講義

A 経済と経済学の基礎B、実証国際経済学A・B

Q 望ましいゼミ生像

A 志の高い人、礼節を弁えた人

## 座右の銘

「気の利いた言葉で

簡単に言い表せないものにこそ真実は宿る」

# 藤井 ゼミ

# スケジュール

2回生秋学期  
経済学基礎の復習

3回生春学期  
マクロ経済学

3回生秋学期  
マクロ経済学

4回生春学期  
卒業論文作成

4回生秋学期  
未定

## 研究内容

1年生で学習した経済学基礎をもとに海外の教材を用いて学習しています

## 研究テーマ

英語を用いた経済学

ゼミについて一言

少人数ですが、多くの質問が飛び交う雰囲気の良いゼミです。

男女比もしくはは人数

人数：10人

藤原先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 不完全競争一般均衡理論

Q 担当されている主な講義

A 現代経済入門B、国際経済政策、中級国際経済政策

Q 望ましいゼミ生像

A 毎日少しずつでいいのでプラスの方向に進む人

座右の銘

「特にありませんが、常にストイックでいようと心がけています」

# 藤原 ゼミ

# スケジュール

2回生秋学期  
・現代の金融入門

3回生春学期  
・金融

3回生秋学期  
・金融

4回生春学期  
・未定  
4回生秋学期  
・未定

研究テーマ  
金融

研究内容  
研究内容は金融です。幅広く金融について勉強しています。

ゼミについて一言

「金融」と聞くと、銀行や保険のイメージがあると思いますが、私たちは幅広く金融について勉強しています。

研究演習入門ではちくま新書の「現代の金融入門」、研究演習Ⅰでは有斐閣の「金融」という本を利用し、章ごとに班で研究、発表をし、疑問点を質問し合っています。また1期生との交流などもあります。

男女比もしくは人数 ≪2期生≫

男子10人・女子8人

堀先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 企業の設備投資とコーポレート・ガバナンスに関する分析  
(最近では株式市場の流動性の研究も始めています)

Q 担当されている主な講義

A マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、経済ビジネス英語A

Q 望ましいゼミ生像

A 何か質問されたら、黙ってないで何か答えてくれる人  
現状に満足せず、自分の能力を今よりも高めようと努力している人

座右の銘

～No free lunch～

# 堀ゼミ



# スケジュール

2回生秋学期  
ディベート大会

3回生春学期  
三大学合同ゼミ  
(関西大学・龍谷大学)

3回生秋学期  
研究発表

4回生春学期  
就職活動  
4回生秋学期  
卒業論文

## 研究テーマ

- ・ 太宰春台
- ・ ヘンリー・ラドウェル・ムーア
- ・ 豊岡市地域研究

## 研究内容

- ・ 人物研究、著書研究（『経済録』、「金星理論」）
- ・ フィールドワーク（地域課題の改善追求）

# 本郷 ゼミ

ゼミについて一言

いつも温かく見守ってください。本郷先生ご指導のもと、男女仲良く、遊びと勉強の両立がしっかりとできています。ゼミです！

個性の強いメンバーが揃っています☆

男女比もしくは人数 《7期生》

男子23人・女子9人

本郷先生にインタビュ

Q 現在のご研究内容

A (1)兵庫県内における狩猟と有害鳥獣捕獲について

(2)二十世紀前半の英米経済学

(3)江戸期の経済思想史

Q 担当されている主な講義

A 経済の歴史と思想、近代経済学史 A・B

Q 望ましいゼミ生像

A 知性・感性・身体バランスのとれた人

座右の銘

「士は己を知る者のために死す」（司馬遷）」

# スケジュール

## 研究テーマ

- ・震災復興・地域ブランド
- ・公共施設・人口減少対策
- ・観光など

## 研究内容

地域活性化を大きなテーマとし、地域の衰退に対して具体的などのような対策をとれば良いかを研究テーマに分かれ、座学やフィールドワークを用いて研究しています。

### 2回生秋学期

- ・縦コン
- ・3回生と合同夏合宿
- ・春合宿（春休み）

### 3回生春学期

- ・研究テーマ決定
- ・経済学部財政3ゼミ合同  
研究報告会
- ・縦コン
- ・2回生と合同夏合宿

### 3回生秋学期

- ・兵庫県自治学会で  
研究発表
- ・関西広域連合協議会  
・インゼミ大会

### 4回生通年

- ・就職活動
- ・卒業論文作成

## ゼミについて一言

2年生の間は財政学等の基礎知識を学び、3年生の春から少人数のグループに分かれ、本格的な研究活動に入ります。公務員志望のゼミ生が多いことも前田ゼミの特徴です。前田先生は、研究内容等について優しく、また時には厳しくアドバイスをしてくださるとても素敵な先生です。

## 男女比もしくは人数

男子14人・女子14人

## 前田先生にインタビュ

Q 現在のご研究内容

A 地方税財政、人口減少下の地域活性化政策、自治体経営

Q 担当されている主な講義

A 地域政策入門B、自治体経営論

Q 望ましいゼミ生像

A 自分に与えられた役割を責任感を持って果たしてくれる人

## 座右の銘

〜生まれるのは偶然、

生きるのは苦痛、

死ぬのは厄介（聖ペルナル）

# 前田 ゼミ

# スケジュール

## 研究テーマ

- ・ミクロ経済学
- ・ゲーム理論
- ・公共経済学

## 研究内容

チームに分かれて自分たちの身近にある疑問や問題点をミクロ経済学を利用して研究しています。

2回生秋学期  
・チームに分かれて、教科書の所定範囲をP P スライドにて発表

3回生春学期  
・チームに分かれて、研究テーマを設定し研究  
・ゼミ合宿

3回生秋学期  
・春学期に定めた研究を進める  
・インゼミ大会(他大学・他ゼミ)

4回生通年  
・個人の卒業論文制作

## ゼミについて一言

学生がやりたいことを、先生が全てするのではなく、学生自身に企画させてくれて最後は先生も一緒になって楽しむスタイルのゼミです。やるときはやる、楽しむときは楽しむといったメリハリがある人、協調性がある人、もしくはそれらを身に着けた人には向いているゼミだと思います。

## 男女比もしくは人数《11期生》

男子11人・女子9人

## 松枝先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 政府による規制がないときでも私企業が自発的に環境政策を進めるのは何故か。

企業・消費者・NGOなどによるロビー活動が環境政策の立案や、国際的な環境問題における協調関係の構築・維持にどのような影響を持っているのかなど

Q 担当されている主な講義

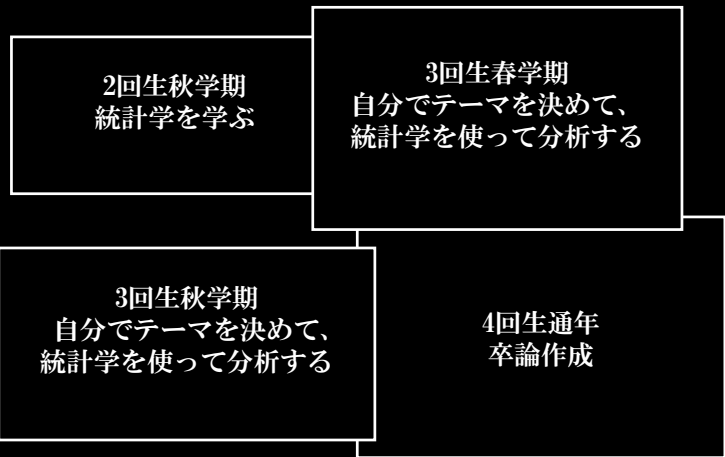
A 中級環境・資源経済学、海外活動学習、Topics in Economics (in English) A・B (2014)

Q 望ましいゼミ生像

A 普段から人間の行動や、個人の集まりである社会に興味を持って、その働きを自分なりに理解したいと考えている人で、他のゼミ生の意見を尊重できる学生。

# 松枝ゼミ

# スケジュール



研究テーマ  
自分が興味のあるテーマを決める

研究内容  
エクセルを用いてデータを分析する等、基本的には統計学を用いた研究を行う

ゼミについて一言

統計学は数学が苦手だからと敬遠されがちですが、先生が  
一から丁寧に教えてくださるので大丈夫です。  
自分の興味のあるテーマについて分析することはとても  
楽しいです。

ぜひ宮脇ゼミに来てください！

男女比もしくは人数 ≪3期生≫

男女比4:1

宮脇先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A マルコフ連鎖・モンテカルロ法とその計量経済学への  
応用

Q 担当されている主な講義

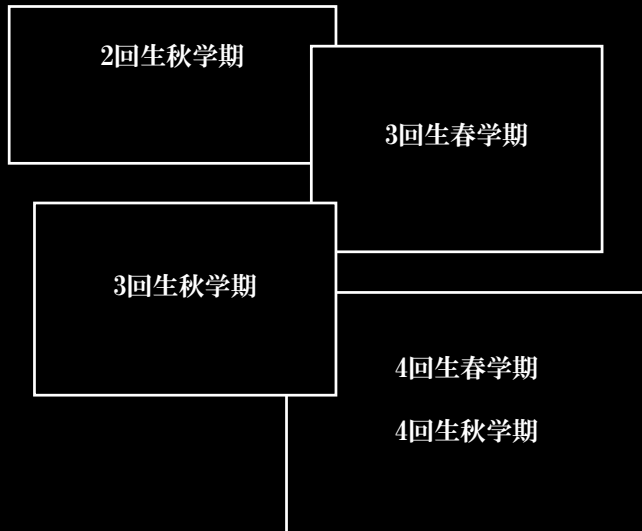
A 経済情報処理、中級計量経済学Ⅰ・Ⅱ

Q 望ましいゼミ生像

A 色々な経済データを分析してみようというやる気のある  
学生

# 宮脇 ゼミ

# スケジュール



研究テーマ  
都市問題について

研究内容  
エクセル (Excel) を用いて都市格差を調べる。

# 山鹿 ゼミ

ゼミについて一言

静かにパソコンに向かっていきます。

男女比もしくは人数《8期生》

男女比3..1

山鹿先生にインタビュー

- Q 現在のご研究内容
- A 人口移動と産業構造の変化の要因分析
- Q 担当されている主な講義
- A 地域経済論、地域データ分析
- Q 望ましいゼミ生像
- A エクセルや地理情報システム (GIS) を用いた分析に関心のある学生

# 小川ゼミ

## 小川先生にインタビュー

- Q 現在のご研究内容  
A 課税の分析（最適物品税、最適所得税、法人税競争など）  
家族の経済学（子育てのフリーライド問題、夫婦間交渉問題など）  
貿易政策（失業と貿易利益など）
- Q 担当されている主な講義  
A 経済学トピックスC・D（2019）
- Q 望ましいゼミ生像  
A 遊びと勉強のメリハリがつけられる人  
積極的に企画・提案のできる人

## 梶井先生にインタビュー

- Q 現在のご研究内容  
A 一般均衡理論とゲーム理論、古典の経済学的・ゲーム理論的分析
- Q 担当されている主な講義  
A 経済学トピックスG（2019）・H（2019）
- Q 望ましいゼミ生像  
A 身近な経済現象に興味がある学生  
数理的・論理的に考えられる、あるいはそれらを大切に考える学生

# 梶井ゼミ

# 久保ゼミ

## 久保先生にインタビュー

- Q 現在のご研究内容  
A 経済学史：経済学あるいは経済思想と社会制度とがどのように影響を与え合うのかを歴史的に考える。  
とはいえ、ゼミでは経済学史を教えるのではなく、現代社会の特定のトピックを手掛かりに、ゼミ生それぞれが自らの社会観・歴史観・経済観を客観的に捉え直す機会を提供することを第一に考えています。
- Q 担当されている主な講義  
A 経済学史A・B、Topics in Economics (in English) J (2016)
- Q 望ましいゼミ生像  
A 特にありません。多様なゼミ生を迎えたいと考えています。

## 小林先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

- A 「産業の集積」に関する実証分析  
①新規開業を促進／抑制する要因分析  
②地域の起業化支援施策の効果検証  
③地方圏への知識集約型サービス業の集積形成のための条件整備

Q 担当されている主な講義  
A 現代産業論 A・B

Q 望ましいゼミ生像

A 一生懸命「学ぶこと」に取り組んでくれる学生  
仲間と議論し、協力しながら、ゼミ活動を楽しんでくれる学生

# 小林ゼミ

# 高島ゼミ

## 高島先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 前近代日本の経済成長  
物価、賃金、生産、人口、地域経済などに関する歴史統計分析

Q 担当されている主な講義  
A 経済事情K(2019)  
経済学トピックスK(2019)

Q 望ましいゼミ生像

A 自分は何を勉強したいのかをしっかりと考えた上でゼミを選び、勉強をやり抜く意思のある者  
研究をしていて、易しい道としんどい道があったとき、しんどい道を選ぶ勇氣を持った者

## 安岡先生にインタビュー

Q 現在のご研究内容

A 社会保障に関するトピックス全般(特に年金制度、育児支援政策など)  
また、最近ではフィールドワークに基づいた貧困の研究も行っています。

Q 担当されている主な講義  
A 社会政策A、社会保障論A、  
経済学トピックスM(2019)

Q 望ましいゼミ生像

A ゼミ研究では経済モデルを用いた分析やデータを使った分析を行います、数学や統計学が得意でなくとも何かを学び取ろうという姿勢がある人

# 安岡ゼミ

# 日本の社長・業界人インタビュー

～迷ったら積極的な方を選ぶ～  
自分が動けば、未来が変わる。人生が変わる。

◎今年度エゴゼミ委員会では、**本学経済学部出身**である二名の先輩方にインタビューを実施しました。

## 【目的】

現在、社会でご活躍されている社長や業界人に取材できる経験は滅多にない機会です。

普段、就活で来る学生や社員には話さないような話題が飛び出すかもしれないですし、そうした生のメッセージを聞けることは、私たち学生団体の特権でもあると考えています。

“**社会で働く熱意や感情を伝える**”

その結果、本記事の読者となる学生の皆さんにその思いが伝わり、少しでも多くの共感を得ることが今回の取材の目的となります。

## 【目次】

- ①株式会社松尾学院（東進衛星予備校）  
代表取締役社長・松尾健一郎氏
- ②某大手損害保険会社  
自動車営業部・長谷川千馬氏





株式会社松尾学院（東進衛星予備校）

代表取締役社長  
（マツオ ケンイチ）  
松尾健一郎氏

取材の内容は次ページより以下の**三本立て**となります！  
①大学在学中の過ごし方・熱心に取り組んでいたこと  
②大学卒業後、現在の松尾学院に至るまで  
③今の若者に伝えたいこと

今回インタビューを受けて下さったのは、株式会社松尾学院の代表取締役社長である松尾健一郎氏。突然の取材依頼にも関わらず、快く快諾していただきました。終始楽しく、笑いもあり、大変和やかな雰囲気でした。取材することができました。



## 1. 学生時代の過ごし方・熱心に取り組んでいたこと

「父親が経営していた教材販売会社の教材販売をしていました。」

— 大学生時代は、自分にしか出来ないことをとことんやりたい。

自分自身の成長に繋がることをしたいと考えていて、

父親が経営している会社の教材販売業に携わっていました。

(大学1年8月頃)

一軒一軒、家に訪問して教材を売り込む形式なので、最初はどうしても  
上手いかず玄関先で門前払いにされたり、多くの挫折を味わいました。

「与えられた仕事をそのまま行うだけでは、お客様はつかない。」

「何とかして、教材を買ってもらおう工夫がいる。」

そう考えた私は、「ただ教材を売るのではなく、自分が家庭教師となり、  
志望校合格までの学習指導と進学指導という一切の受験サービスを売る」  
というアイデアを思いつき、実践してみました。

すると、そのアイデアが大ウケ（功を奏し）、顧客数はみるみる上昇。

同時に、自分では担当できないくらい顧客数が増え、友人に手伝ってもら  
っていました。

現役の大学生（神戸大学、関西学院大学）が今までにないユニークな指導  
法で家庭教師をするということで、結構な評判となり、教材もかなり売  
れました。

それも訪問販売でなく、口コミ。



そんな折、「そつだ！ 塾を開いて一斉授業にすれば、家庭教師の数に関係なく、もつと生徒募集に専念できるし、神戸大学・関西学院大学受験専門の学習塾は他にないのでウケるかも」と再びアイデアを思いついた私は、家庭教師仲間と共にすぐさま塾を開き、家庭教師から今度は塾講師と塾経営者に転換したのです。  
(大学1年3月頃)

※当初の塾は、父親の会社が100%出資の完全子会社として設立し、新たに姫路駅の近くにテナント契約して、神大と関学受験に特化した指導形態でした。

これが今に繋がる株式会社松尾学院の前身です。

(繰り返しますが、この話全て大学在学中の経験です(笑))

## 2. 大学卒業し現在の松尾学院に至るまで

「一般企業への就職はしていません。」

「やりたくないことは仕事にたくない。自分が命をかけてもやりたいことを仕事にする。〓学習塾の経営を本格始動させました。」

—大学卒業後は、学生時代からの塾講師の経験を活かして、本格的な塾の経営を行うことを決意します。

会社自体は、父親からそのまま引き継ぐことになりましたが、当時はバブル崩壊で株式の大暴落期です。

塾の経営を存続させるだけでも精一杯の中、新たに『個人情報保護法』が制定され、それまでの訪問販売業が軒並み倒産、大打撃をうけます。

また、当時でいう予備校の“御三家”（代ゼミ・河合・駿台）が全盛期だった時期でもあり、個人塾単体での経営は行き詰っていました。

「この状況を打開するには、大手の予備校と提携するしかないか。」とふと考えていた頃、東進ハイスクールの加盟校募集の案内状が届きました。



最初は、「東進に加盟するにもお金がかかりすぎるな。」

「そもそも映像授業なんて、ちゃんと成績が伸びるのか？」と思っていました。が、学習塾向け加盟説明会に参加してみたところ、**目から鱗です。感激しました。**

こんなに素晴らしい授業があるのか！

入試問題がスラスラ解ける！

この授業を一年間通して受け続けていたら、きっと難関大学にも受かるだろう。

そう思った私は、東進ハイスクールと提携することをその場で決意、**加盟**しました。迷いはなかったです。

やはり、対人形式の塾では講師によって、授業の質が大きく異なるということはデメリットでもありますので。

“予備校界カリスマ実力講師の授業を、地方にいながら、受けれる時間に受けることが出来る”ということが入会の決め手でしたね。

### 3. 今の若者に伝えたいこと

「勉強は大事！ ですが、プラスで自分のしたいこと、今後の未来について考えて大学生活を過ごして欲しいです。」

— 今後の日本では、AIの発達や様々な社会変化により、就職・労働環境は大きく変わります。

勉強ができるだけでは打ち勝つことができないのです。個人の能力が大きく問われる時代になります。

この状況をピンチとみるか、チャンスとみるか。

もちろん勉強も大切です。

勉強から学び取れることは沢山あります。

しかし、周囲と同じことをするだけでは、新しい変化に対応できません。

周囲と同じことをするのではなく、自分にしかできないような武器を身につけるため、新たな分野にも果敢に挑戦し、なんでも経験してみることを大切にしてほしいです。





今、松尾学院は更なるブランド力を身につけ、**日本一の東進衛星予備校になりたい。**という夢があります。

学生の皆さんは、まず自分が何で勝負できるかを考えて、周りと違う**自分だけの価値**を身につけてください。

アルバイト一つでも、本気で取り組めば、そこから何かを得ることはできます。

その姿勢を持ってほしい。

自分の付加価値を見いだせたら、今後の将来に打ち勝っていきます。

最後に、ワクワクするような大きな夢を持ち続けて、

**“Mastery for Service”** を実践できる人間になつて欲しいです。



某大手損害保険会社  
自動車営業部  
(ハゲワカズマ)  
長谷川 千馬氏

今回、インタビューを受けてくださったのは、経済学部OBの長谷川千馬氏。  
遠方からわざわざ駆けつけて下さり、終始温和で楽しいインタビューができました。

○大学時代最も力をいれていたことは何ですか？

ゼミ活動です。当時、私は他の学生と比べて、ただ目立っていたという理由でゼミ長を務めていました。その上で、リーダーシップで引っ張るのではなく、みんなを「**ラフォーシップ**」で支えるということを意識し、活動していました。

ただ就活に使うだけでは面白くない上に、せっかくならゆるからには、本気で取り組む。そうしたゼミ長の経験は自身の成長・視野が広がるいい機会だったと思います。





○フォローシップは、どこで学びましたか？

ピラミッドの画を書いてゼミメンバーの關係図を考えていたんです。その時にピラミッドを逆にした形からアイデアが生まれました。

○フォローシップは、どの場面で生きていますか？

一般的にディーラーは保険も売っています。私の立場は保険の契約が取れるようにディーラーを指導する仕事です。そのメンバーたちとチームを作り、自分より年上の人を相手に指導しています。ゼミで培ったフォローシップを生かし、自分が責任と失敗を被るから積極的に提案をしてほしいと発信しています。

チーム全員がもっと積極的に活動してもらうため、**下からメンバーを支え、動かしています。**

○就活時にやっておいたほうがいいこと、後悔していることは？

就活を始めた時期は3年生の夏休み前です。最初は、**自己紹介と他己分析**を徹底的に行っていました。自分のエントリーシートを先輩たちに見てもらい、ブラッシュアップを繰り返しました。面接では何を聞かれても同じクオリティで話せるように準備していました。

後悔していることは**英語**ですかね。英語をもっとやっていたらよかったと思います。

TOEICはやればやるほど取るから対策をしておくべきです。準備不足は企業側の方に簡単に見破られますよ。

○もっておくと良い資格

**やはり一番は英語**です。今後は海外勤務も増えるだろうから。他の資格も取るに越したことはないですが、英語は必須です。

○インターンに参加していない学生をどのように思いますか？

今熱中しているもの。自分の中の優先順位が何なのか。それを明確に持っていれば、自然と就活でも話せます。やっぱり、何かに熱中している人は輝いていますね。

実は、企業もそのような人を取りたいと思ってるんですよ。

ただ、色んなことに手を出していても中途半端な人はダメ。何をやらせても中途半端で終わってしまうから。

○趣味は何ですか？

ゴルフ、ウイスキーを飲むこと、洗車とかですかね？  
いつか、息子と自分のやりたいことをやるのが夢です。

○人生の中の最も大きなターニングポイントはいつでしたか？

**浪人時代**です。浪人時代は、周りが大学生活を楽しんでいる中、一人でひたすら勉強しなければならず、不安や孤独に押しつぶされそうになりました。

でも、人生を変えるため、藁にもすがる思いで、一日十三時間勉強していました。

浪人時代の挫折経験から反骨精神も養われたと思っています。

周りを見返したいと思って努力し続け、一年遅れて関学に入ったけれど、最高の仲間に出会えました。

浪人を経験したことで今の仲間と出会うことができ、関学に合格し、今の企業にも入れました。

浪人時代無くして、今の自分はありません。

○もう一度浪人時代に戻りたいと思いますか？

戻っても構わないです。毎日時間をかけて予備校に通っていたけれど、結局また同じ道を歩むんだと思います。  
今までの自分の人生に後悔がありませんから。

○今の価値観を学生時代に持っていたら何をしたいですか？

多くの新しい価値観に触れること。ダイバーシティの時代だからこそ、外国人との交流、海外旅行など、文化の違いを学びたいです。あとは、繰り返しますが、英語の勉強ですかね(笑)。本当に必要です。人生常に学ぶ姿勢が大事です。様々なところから学ぶ。先輩、後輩、取引先など全てから。

○大学生にこれだけは伝えたいことは何ですか？

絶対に何か一つに熱中したほうがいい！ 大学生活で何をしましたか？という質問に答えられないのでは、四年間が無駄です。本当に何でもいいから自分が熱くなれるものを探して取り組むべき。

体育会系の人が採用に有利なのは何か熱中しているからです。これだけは誰にも負けないということ突き詰めてください。

○部下から好かれる上司とは？

まずは相手の価値観を聞くこと。その人の考えを尊重しながら自分のアドバイスで軌道修正し、納得するまで話を聞く。長い目で見ると、時間を取って、徹底的に話すことが遠回りに見えて、案外近道なんです。そもそも、好かれることが目的ではなく、真の目的は組織全体を強くすること。質問力で相手に本音を言ってもらおう。

○自身が部下の立場として、部下として必要なこととは？

素直であることに尽きます。素直であることは本当に重要！

○最後に、長谷川さんの座右の銘を教えてください。

“努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのならば、それはまだ努力とは呼べない。” 王貞治さんの言葉で、プロであることを常に意識させられる言葉です。





関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



大学生として過ごす時間

**35040時間**

24時間×1460日

何かを成すには短い？  
でも、  
何もしないには長い。



# 高校生から 大学生へのQ&A

2019年度のオープンキャンパスで実施したアンケート（総数899票）をもとに、高校生が気になる「大学生への質問」をランキング形式にしてみました！ご協力いただき、ありがとうございました！

## 第1位

154票

テストは難しい？

安心してください。

簡単とは言えませんが、想像を絶するほど難しいわけではありません。もちろん科目によって違いはありますが、それは高校でも同じですよ。

高校と比較して、あえて違う所を挙げるとするならば

「100%コレ！この答え！」というものが減り

自分で考えて

答えを見つけなければならぬ

ということが多くなった点ではないでしょうか？



## 第2位

121票

学部によって何が違うの？

主として学ぶ内容に違いがあります。各学部で何を学ぶことができるのかについては、

ぜひ各自で調べてみてください。

調べるうちに勉強したいことが見つかるかもしれません。

経済学部のゼミ（研究演習）については本誌の3頁に記載されています。参考にしてみてくださいね！



### 第3位

99票  
どんな資格を  
勉強している？

人によっていろいろです。  
今回、この記事を書くにあたって、エコゼミ委員会のメンバーに取得済もしくは取得予定の資格について聞いてみたところ、最も多かった回答は

#### 日商簿記検定。

他にも、英検やTOEICのスコアアップ、秘書検定、ファイナンシャルプランナー検定、普通自動車免許と様々でした。  
選択必修外国語で受講している各言語の検定なども視野に入れているようです。



### 第4位

95票  
サークル・部活には  
入った方がいい？



サークルや部活……THE大学生というイメージあまりすよね。特にサークル。

たしかにサークルや部活に入っている人が多数派であると言えるでしょう。大学生の中には、いくつもの団体を掛け持ちしている人もいれば、それとは対称的に、何にも所属していない人もいます。

サークルや部活を頑張るもよし、習い事のような学校外での活動を頑張るもよし、将来を見据えて仕事で活かせるスキルを磨くもよしです。

せっかくの新しい事と出会うチャンスです。  
これから入学する皆さんには色々なものに興味を持って、まずは参加してみることをオススメします！



## 第5位

88票

大学生は暇？忙しい？

暇と言えば暇。忙しいといえば忙しい。人によってどう感じるか、どう過ごすかはそれぞれです。

大学生は行動のほぼ全てをやるのかやらないのか、頑張るのかそうでないのか、自分で選ぶことになりません。時間をどう使うのか、自分で選択してください。

暇は作るモノ！



## 第6位

77票

恋人って勝手にできる？

こんな質問もありました！

時間割を自分で作るのは大変？

いざ自分で時間割を組んでみようとする、慣れないうちにはコレが結構大変なのです。でも大丈夫！ 朗報ですよ！

エコゼミ委員会では、大学入学式後の数日間、履修相談会を開いているので現役の経済学部の先輩と一緒に履修を組んでくれます！ぜひいらしてくださいね！

なんと……なんと……勝手に

……できません！

これをお読みの皆さんもお分かりでしょうが、勝手にできません。

なんでやねん。

ただ、高校生の頃と比べて、自分の世界が広がるということは断言できません。世界が広がるとは、新しく出会う機会が増えるということとです。

勝手にできませんが、出会う人数は増えるので……

……応援しています♡



※経済学部の制度についての記述は、2019年度時点のものであり、今後変わる可能性があります。



甲東園  
・  
仁川編



三代目 麵家  
あくた川

濃厚な豚骨の家系ラーメン。  
ごはんはおかわり無料で  
関学生からも大人気。

# ラーメン巡り



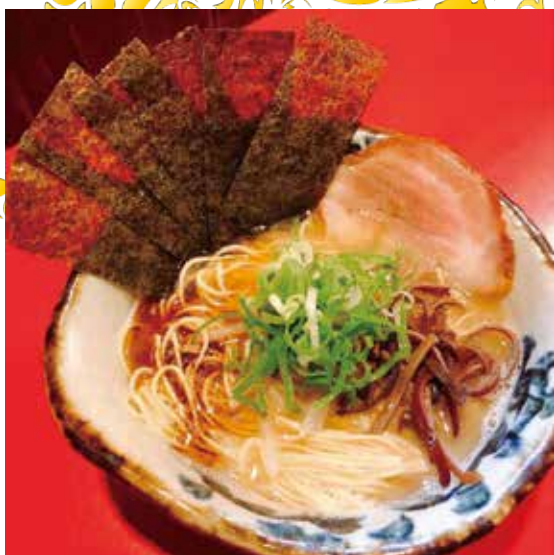
## 宮っ子ラーメン

本店

チャーシューは柔らかく、  
甘みのある国産豚肉。  
トッピングには新鮮な青ねぎを  
ふんだんに使用。

## 辛麺家 援

辛さを選べるので、  
辛いのが好きな人には勿論  
苦手な方にもおすすめ。



らあ麺と餃子のお店

## たか和

豚骨と鶏ガラをベースにした、  
こくと旨みのあるスープが特徴。

## しえからしか

仁川本店

旨みのある豚骨スープと柔らかい  
チャーシューがクセになる味わい。



# ラーメン



## 西北編

### ラーメン えだ屋

味噌、塩、醤油の3種類の  
ラーメンは、全てこだわりの  
素材を使用した優しい味。



### どうとんぼり神座

阪急西宮ガーデンズ店  
30年間門外不出のスープと、  
安心安全な素材を生かした  
店独自の味。

トッピングサービスマ  
130円引きクーポン  
※どうとんぼり神座  
阪急西宮ガーデンズ店  
のみ使用可  
※クーポン期限は2020年5月末日まで

# 関学



# 仁川



# 甲東園



# MAP



# 西北



Map data @2019 google



HUNG OUT WITH FRIENDS

SPRING 2020

関学の経済学部が季節を着飾る

フ  
ア  
ツ  
シ  
ヨ  
ン  
特  
集

WE ARE LOOKING FOR AN

Feeling of the day

写真 経済学部2年生



# BLUE

白の差し色でワンポイントアクセントを入れ、ベージュ色の帽子で秋をイメージしたファッション。大講義の時はラフな服装でゼミなど友人と授業で会う際は気合を入れて服を選ぶ。ピアスは5種類の中から気分でチョイス。よく行く店は安くおしゃれなRAGEBLUEなど。

写真 経済学部 2回生

# Under the tree

THE AUTUMN ISSUE / NOVEMBER 2019

## EASY TO USE MOST

クローゼットに入っている一番着なれた服をチョイス。履きやすいジーンズをベースとしたスタイルで、ヒールは身長アップのためほぼ毎日履いているという。

写真左 経済学部 2 回生

## THE COAT OF THE TREND

トレンドのコートを母から借りた大人っぽいコーデ。バイトの時は黒のスポンのため、普段着は茶色のワイドパンツを起用。ZARAやユニクロの商品をよく購入している。

写真右 経済学部 2 回生



LONG SKIRTS  
HAVE COME IN.

写真 経済学部 1回生





ON THE MODEL

経済学部 2回生

# Today feels like chestnut

学校に来ているが服装は銀座を意識したイメージ。リップはオレンジで季節に合わせて色を変えている。ボトムスは黒色のズボンで締めて、全体をすっきりさせている。ヒールはデートでは履かないため学校の時に履いてきているそう。

写真 経済学部  
2年生



Lemon coordinates

# ECONO FORUM

## ●シリーズチャペル＜経済と人間＞

新海哲哉・高林喜久生・野村宗訓・栗田匡相・宮脇幸治  
國濱剛・加藤雅俊・井口泰・上村敏之・白井洸志

## ●シリーズチャペル＜人間を考える＞

舟木讓・小川禎友・住吉誠・趙怡・カオティキヤングェット  
巖廷美・高島正憲・梶井厚志・岡田敏裕・増永俊一

## ●シリーズチャペル＜経済と倫理＞

西村智・井口泰・安岡匡也・栗田匡相・松枝法道・東田啓作

## ●シリーズチャペル＜経済学と聖書＞

井口泰

## ●チャペル講話 卒業生を覚えて

樂之者と希望／豊原法彦

※2019年度に行われた経済学部チャペルにおける連続講話の内容を講話者がまとめ、掲載しています。

## ●基礎演習：レポート一覧

## ●研究演習Ⅱ：卒業論文一覧

## ●経済学部懸賞論文について

2019年  
5月20日  
月曜日

私たちは可能なら自由にしたいことをして、束縛されずに生きたいと考えている。育った家庭が経済的に比較的豊かで、十分に教育を受けた人ほど、そう考えるのではない。以下の文は、基礎演習で用いたテキスト、松井彰彦著「市場って何だろう」第一章を読んで私が思うところをのべたもので、部分的に依拠している。

多くの人は、企業や役所等の組織に所属し働いて、生活の糧を得ている。これらの企業や役所は、企業ならば事業を通じて利潤を得ること、役所など非営利組織は企業では供給できない、公共サービスの社会や個人への提供が目的の「共同体」である。「共同体」は企業や役所だけではなく、地域社会や家族もそうである。現在は、自分の居住する場所である「地域共同体」を自ら選択できるが、分業が可能な経済システムが発達する前の農業・漁業等が中心の時代では、自らの居所を選ぶ自由はなかった。「共同体」では、それに所属する人々が、モノやサービスを分かち合

新海 哲哉 教授（理論経済学）

# 自由・リスクと従属・安定、自立と依存 市場と共同体について考える。

うと同時に、相手には自分に有用なモノやサービスを提供し、相手からは自分にとって有用なモノやサービスの提供を受けるので、「互恵的」お互いさま」という考え方が重要となる。「共同体」の本質的特徴は、それに属する人間が比較的頻繁に顔をあわせることである。こうした「共同体」では、そのメンバーが、「互恵的」でなく、「利己的な」行動をとった場合は、共同体の秩序を乱した場合は、「とが」で、罰を受ける。ひどい場合は、「共同体」の集団から締め出される（解雇や、村八分など）。

これに対し、工業やサービスの発達とともに、自分の「居場所」の移動が自由になると、人々が集まり、お互い「顔の見えない」集まりとなったのが、「都市」である。こうした「都市」では、モノやサービスの配分は、「共同体」とは異なり、「顔の見えないつながり」の人々間の市場取引で決まる配分となる。都市では移動が頻繁なので「地域共同体」は形成されにくく、企業など働く場所も多数あることから「転職」

が容易となる。こうした都市が築く現代社会では「最小の単位の共同体」である「家族」も、親の企業での転勤や単身赴任、子供の進学や就職による「自立」で分断され、子供を通じてつながりもなくなり「地域共同体」の維持が困難となる。

確かに、市場経済が中心の都市では、「共同体」に属することの束縛から逃れ、自由にできる。しかし、自由にはリスクも伴う。「共同体」に従えば、「給与」をもらい安定した生活ができるが「共同体」は永遠ではない。自ら「家庭」で豊かに育ち、十分な教育を受け才能のある人の中から一部は、「従属」を嫌い、「自立」を求める。企業や役所を飛び出して、「自立」のため「起業」し組織を作るかフリーランスとなれば、自らの労働、モノ、サービスを市場に供給し、生活の糧を得る必要がある。買い手がつかず、生活の糧が得られないリスクも負わねばならない。「共同体」を嫌い、自立と自由を求め一人籠る生活の中で、「つながり」

を求める人たちが狙って、詐欺や犯罪が増加するという悪い側面もあるが、通信技術やインターネット、ソーシャルネットワークサービスなど発達により、「共同体」より「緩い」つながりを求める人たちに、趣味の活動、ボランティアなど、従属のない、「顔の見えないつながり」も作ることができる。

社会変化が激しい現代では、従属しや合併、部局の統廃合などで、突然自分が「市場」に放り出される可能性もある。市場つつも、居心地のいい安定した、自分が属する企業や役所などの「共同体」の倒産では、「自立」して、厳しいが努力したなりに「成果」も得られるが、リスクも伴うので覚悟して生きる必要がある。そのためには、家族や勤務先など一つの「共同体」のみに依存するのではなく、地域、趣味、ボランティアなど様々な「緩いつながり」に依存先をも増やすことが、大切である。そうすることが、精神や身体の健康を維持するため、仕事と生活のバランスをとるため、わが身を守ることが、現代に生きる我々の「知恵」だと思ふ。

2019年  
5月27日  
月曜日

高林 喜久生 教授（財政学）

# 「経済効果」を疑う

みなさん方は、新聞や雑誌などで「〇〇の経済効果は××億円」といった新聞記事やニュースを目にしたことがあると思います。最近の関西では「大阪・関西万博の経済効果 約2兆円」、「IR（カジノを含む統合型リゾート）開業の経済効果 約1.3兆円」といった事例が挙げられます。また、「ネコノミクスの経済効果」や古くは「阪神優勝の経済効果」などが取り上げられてきました。今回は『「経済効果」を疑う』というテーマで、経済効果を見る場合の留意すべきポイントをお話したいと思います。

まず「経済効果（経済波及効果ということもあります）」とは、ある特別なイベントが追加的に起こったときに、そのイベントによって地域経済や日本経済に、どれだけのインパクトをもたらしたかを金額や増減率で表現したものです。すなわち水

面に投げた石の波紋が広がっていくように経済的な生産が次々に誘発され波及していく過程をとらえたものです。投げた石に相当する発生した新規需要を該当する産業部門別に割り当て、生産への波及効果を「産業連関表」を使って推計します。その新規需要による直接効果と生産波及による間接効果の合計が経済効果（経済波及効果）となります。

経済効果を見るときの留意点の第1は、経済効果には生産波及による原材料の生産も含まれていて、GDP（国内で生産された粗付加価値）より範囲が広いということです。GDPへの影響を見たいときは経済効果に付加価値率（国の場合は約50%、大阪府の場合は約57%です）をかけて同じ土俵に乗せることを行います。

第2は、経済効果の推計は追加的に起こったイベントを扱うというの

がポイントです。例えば、四季折々のお祝いの日の経済効果を考えてみましょう。「ハロウィーンの経済効果がバレンタインデーの経済効果を上回った」などと言われます。しかし、これらの日について基本的に経済効果はゼロです。なぜならこれらの日は毎年訪れるイベントで追加的イベントではないからです。四季折々の行事の効果は毎年のGDPに折り込み済みで、GDPの押し上げ効果を持ちません。「阪神優勝の経済効果」も追加的に阪神が優勝したときの経済効果を見ます。観客動員についても優勝しなかった年と比べて増加した観客動員をもとに計算します。甲子園球場の観客動員が、280万人から優勝によって300万人に増えたら20万人分だけが新規需要にカウントされます。これに対してオリンピックや万博は追加的イベントなので全額新規需要と

なります。

第3は、経済効果は一般にプラス面だけで評価しますが、試算には含まれないマイナスの経済効果も発生するので現実の効果は相当差し引かれることも重要な点です。例えば、阪神優勝の経済効果の場合、優勝を逃した他の球団のファンの消費は落ち込んでいくかも知れません。関西ではプラスかも知れないが日本全体で見れば経済効果はそれほど大きくないかも知れません。また、阪神ファンも阪神関連以外の消費を抑制している可能性もあります。

これから関西では大型イベントが次々と開催され、その経済効果が取り上げられることも多いと思います。産業連関表による経済効果の推計は有効なツールです。しかし、数字は一人歩きますがそれを鵜呑みにせずに、多角的に判断する必要があります。■

2019年  
5月28日  
火曜日

# 野村 宗訓 教授（産業経済） 公共交通の将来像

## ① ドライバー不足

近年、バスや宅配便のドライバーが不足しているというニュースを耳にします。過疎地のみならず大都市においても一部のバス路線を休止したり、委託先がなく廃止するケースが出ています。高齢者の免許返納が促されているのに、バス利用は便利になっているわけではありません。病院や買い物に行く時に自家用車を持っている知人をお願いして、同乗させてもらうことも可能です。しかし、必ずしも両者の都合がうまく合うわけではないですし、お互いに気を使ってしまいます。

人口密度の低い地域では鉄道・バス会社と宅配事業者が相互に協力して、「貨客混載」を導入するところも見られます。これはスイスやイギリスの山間部・過疎地で郵便配達車に人を乗せていたのを参考にしています。最近では、アプリでタクシー

をよび、カード支払いのできるシステムが開発され、利便性が高まっています。また都市部が中心となっています。Uberが最も有名ですが、地元の住民をドライバーとして採用する点で、地域への貢献度も大きいと考えられます。

## ② 施設改善の視点

誰が必要と供給のマッチングを考慮して設備投資をするのでしょうか。例えば、駅のトイレ、利用者数に比して貧弱だと感じたことがあると思います。駅前ロータリーがなるところでは送迎やタクシーの乗降が危険です。また、混雑駅ではプラットフォームにゲートが設置されているところがありますが、まだまだ普及していません。警備員の配置や防犯カメラの設置で安全基準をクリアしているという考え方には無理があります。今後、道路標識や緊急時の誘

導などで多言語案内も標準化する必要があるでしょう。

上ヶ原キャンパスについては、正門前のバス停が本学の学生数と教職員数から考えて、あまりにもアンバランスであることを目の当たりにしているところです。すべての人がバスを利用しているわけではないかもしれませんが、道路と歩道の安全を考慮した場合には、本学がバス・タクシー会社、自治体などの関係機関と協議して、計画的に改善策をとるべきではないでしょうか。特定の目標を実現するのに利害関係が一致しないから放置するのではなく、妥協点を見出す努力をすることが求められます。

## ③ 技術革新の進展

温室効果ガス削減の点から、EVだけではなくバッテリーで動く飛行機や船の実用化も近づいています。更に、リニア新幹線や垂直離発着型

の空飛ぶタクシーに加え、北米・欧州・アジアを2時間で結ぶスペースプレーンという宇宙船と飛行機の間的な乗り物も開発されています。将来の公共交通はガラリと変わります。SDGsの実現からも輸送機械の技術革新は望ましい方向をたどっていると考えられます。

CASeI(Connected, Autonomous, Shared Electric)とMaaS(Mobility as a Service)が注目されていますが、現在はIT・自動車会社による技術革新が先行しています。過去の公共工事があまり需要予測に基づき整備されてきた点は、批判的になりました。これからの公共交通も同じ轍を踏まないか懸念されます。シェアリングエコノミーやアプリが経済活動に深く関与する時代になっている点から、交通問題を地域の活性化と関連付けて理解することが求められています。

2019年  
6月4日  
火曜日

栗田 匡相 准教授（開発経済学）

# 未来のあなたには 何もなくてよろしい

「私は何のために、何をしに生まれてきたのだろう」と思うことがよくあります。「私のしたかったことは何だったのだ」と考えてみることにありますが、実は何もないので、誰かに頼まれればやり、おだてられればやったのです。」

宮本常一

これを読んでいるのは、まあ二十歳前後の人たちで、進路に困っていたり、選んだ進路に不安を持っていたりする人が多いのかな。指導教官という立場上のこともあるが、うちのゼミ生とは、よく飲みに行ったり、サッカーをしたり、アフリカの最貧国家に出かけたり、寒中水泳をしたりと、通常の教員と学生という枠を超えた妙な濃い付き合い（？）をしているため、年末年始となれば3年生から進路相談を受けることも多々ある。できうる限りきちんと話

を聞いて、それに対して思ったことを伝えていく。でも、学生達は別に私に行く道を指し示してもらいたく話して来るのではないんですよね（教員に能力が無いからという正しい批判はさておき）。自分が真剣に考えたことを、思っていることを聞いて欲しいと願っているのだと思う。真剣な願いを聞くことが出来る機会は人生の中で何度もあるものではないからこつちもできる限りそれに応えようとする。僕と学生の個人的な関係を考えればそれでハイおしまいなんだけど、でも一方で世の中は真剣な願いを求めない若者の自己責任を問うことこそあれ、世の中の大人がその真剣さを受けとめられる人間であるかどうか、あるいは若者を刺激できる魅力的な大人であるかどうかを問うことはほとんどないでしょう。はい、だから社会や大人に期待するのは金輪際やめましょう（無

責任！）。大体期待なんて言葉は未来のことで、どうなるのかよくわからないことなからさ。未来を頼っても意味がないんですよ。だからこつちがよくなるとか悪くなるとか確率的な話は、お勉強の中と人に優しくするためだけに使いたしましょう（学問を修める唯一で最高の大変有意義な使い道です）。自分が何者かを考える時に、どうやって生きていくのかを考える時に、少なくともあなたの人生というあなただけのことを考える時に、確率なんて持ち出して人や世間を頼っちゃダメですよ。重要なことは宮本常一みたいに周囲を「気楽に」受け入れられているかってこと。受け入れるのは他人だけじゃなくて、失敗したり、人を傷つけたりする自分もいるっていう辛いことも含めてですね（人間なんてそんなものとか確率的な方向に頭を使って必要は全然無いですよ）。そして

自分から色々引き受けに出かけて欲しい。世界には知らないことがたくさんあるから外へ出かけて、言葉が出ないほどの驚きや悲しみや喜びをまずは一杯で引き受けて欲しい。そんな君の真剣な人生を待っている人が、この世の中には必ずいます。未来とは期待ではなく確信としての連なりとしてのあなた自身です。その連なりにはたくさんの子どもも大人も様々なことが必要で、沢山関わってくれからワクワクしている。ただし未来の地にいるあなたは今のあなたとは別人だから、いくら確率的にその姿を想像しても無意味です。そんなくだらないことに頭を使わないで、きっかけなんて何でもいからまずは気楽にワクワクして飛び出すことから始めようね。

2019年  
6月11日  
火曜日

宮脇 幸治 准教授 (計量経済学)

# 因果と学士号の価値

データを用いた分析の主な目的として予測または因果が挙げられます。予測が目的の場合はより良い予測ができることが望ましいし、因果が目的の場合は何らかのメカニズムが解明されることが望ましいでしょう。今回は学士号の価値について考えながら因果についてまとめてみます。

まず因果とはどのように定義されるのでしょうか？ David Humeが1772年に出版した本 *An Enquiry Concerning Human Understanding* によれば

We may define a cause to be an object followed by another, and where all the objects, similar to the first, are followed by objects similar to the second. Or, in other words, where, if the first object had not been, the second never had existed.

であると定義されています。論理学で表現するなら「AならばB」かつ「AでないならばBでない」となります。ここで、ある命題の対偶は元の命題と真値値が一致することを用いれば、AとBが同値であることとなります。また、原文の *flow* という言葉が時間の経過を含意することを考えると、因果は同値な物事が時間の経過に伴って現れる現象と考えることができるでしょう。例えば、スイッチを押すと明かりがつくという関係はスイッチを押さなければ明かりがつかないため因果であるし、スイッチと明かりは同値なものです。一方、雨が降ると地面が濡れるという関係は雨が降らなくても地面が濡れることもあるため因果ではないし、これらは同値なものでもありません。

次に学士号の価値について考えてみましょう。学士号を取得すれば賃金が高くなると言われています。ゼミ生の古家君と濱口君の推計によれば、2016年時点で60歳から65歳の日本人男性の平均生涯所得には、学士号を持っている人とそうでない人で約5600万円の差が見られます。大学在籍費用を約700万円と見積もっても学士号は十分にその価値があると言えるでしょう。この推計に際して単純化（物価や割引率を無視）していること、進学率が上昇するに従ってこの差が縮小傾向にあることも合わせて指摘しておきます。

大学に行くことで能力が高くなるのか、そもそも能力が高い人が大学に行くのかということです。もし前者が正しければ学士号と賃金は因果関係があると言えるでしょう。一方、後者が正しいのであれば能力が高い人はいずれにしても高賃金を得ることができ、そのため学士号と賃金に因果関係はないと言えるでしょう。ここでは企業が労働者の能力を適切に測ることができ、それを用いて賃金を決定することが仮定されていますが、アメリカのデータを用いた分析では能力は賃金を決定する要素の一つであることが示されており、妥当な仮定であると言えます。ただし能力が賃金の決定に用いられるのは4年目以降であることも合わせて示されています。学士号と賃金の関係については今後の研究の発展が望まれる分野といえるでしょう。



2019年  
6月13日  
木曜日

# 育児を通して感じたこと

國濱 剛 専任講師（ベイズ統計学・計量経済学）

私には現在1歳の子供がおり、育児生活の真つ最中である。今回はこれまで子育てに関わる中で感じたことについて述べたい。最初に注意しておくが、結婚するかどうか、子供を持つかどうかは各個人のプライベートな選択であり、ここで話す内容は一方が他方に比べて良い悪いなどと議論するようなものではない。

最近の育児関連のニュースを聞いていると暗い内容のことが多い印象を受ける。都市部の待機児童、低水準な男性の育児取得率、出産後の困難なキャリア形成、家事・育児のワノイローゼ・虐待などが挙げられるが、このような報道に触れる度に、自分は問題なく子育てできるのかとほんやりした不安を覚えていた。実際に子供が生まれるとそれまでの生

活が一変し、身体的には寝不足などで常に疲労困憊であったものの、それ以上に育児は楽しいというポジティブな思いを自然と抱くようになった。子供は全力で泣いたり笑ったりと喜怒哀楽を全身で表現しながら日々懸命に生きており、その成長を近くで見ながら寄り添えることは大きな幸福感を与えてくれるが、これはそれ以前には思いもつかないことであった。

子供を連れて外出していると近所さんから「かわいいわね」と声をかけられることがあるが、その際に私が子供を抱っこしていたりベビーカーを押していると「イクメンね」などと褒められたりする。しばらくは何も考えずに喜んでいたが、ふと思いつくと妻が同じことをしているのも誰か褒めたりはしていない

かった。そもそもイクメンの対義語は思い浮かばないし、これは育児の担い手は母親であり、父親には同程度の育児関与は期待していないという社会的認識の表れのような気がした。実際に育児に関わってみると、授乳以外は父親でも基本的には同じことが何でもできることがわかる。少しづつ男性の育児参加が進んで状況は改善されていると思うが、依然として性別による育児関与のギャップが存在するのを感じた経験であった。

また、他にも育児を通して気づく点が色々あった。例えば、ベビーカーを押しながら駅や商業施設を訪れる際はエレベーターの位置を最初に調べる習慣がついたが、どこにあるのかわかりにくい、またはそもそも近くに設置していないこともあ

る。多くの場合、エスカレーターや階段が入り口付近にあるため、以前はそのような場所で不便を感じるようなことは特になかったが、ベビーカーや椅子の利用者にとっては同じ場所に対しても全く逆の認識を持ちうると感じた。

今回は私が育児を通して感じた点を簡潔に述べたが、育児に限らず、本を読んだり、映画を観たり、旅行に行ったり、異なる背景を持つ人と話をするなど、普段の生活の中にも視野を広げる機会は数多くある。考え方が柔軟な大学生のみなさんが毎日意識的に過ごし、新しい視点に多く触れることができるように願っています。

2019年  
6月17日  
月曜日

加藤 雅俊 教授（企業経済学）

# 経済における「エコシステム」を考える

エコシステムとは、一定の場所にすむ全生物とその環境を、物質循環とエネルギーの流れに着目して一つのまとまりとして捉えたものを意味しています。経済成長が鈍化し、人口減少と少子高齢化に直面する社会において、持続可能なエコシステムが求められています。

筆者の研究テーマの一つであるイノベーション研究の分野においては、「地域のイノベーションエコシステム」と呼ばれる、一定の地域で活動する企業、大学、研究機関とそれを取り巻くイノベーション活動の環境を、技術などの知識の流れに着目して一つのまとまりとしてとらえる研究フレームワークが注目されています。また、筆者が分析対象としているスタートアップ企業に関するテーマが中心となるアントレプレナーシップ研究の分野においては、「創業のエコシステム」と呼ばれる

研究フレームワークが提案されてきました。このフレームワークは、一定の地域内での「生産的アントレプレナーシップ」を可能にするような創業活動を取り巻く環境について、相互依存的な主体・要素の集合体としてとらえるものです。ここでは、後者について簡単に紹介します。

創業とは新しい企業（ビジネス）の誕生を意味します。新しい企業が登場することは、市場での競争を活発化させ、効率性を高める上で重要な役割を果たします。経済成長が低迷する中、企業の誕生を通じた経済活性化に期待が寄せられています。新しい企業の登場によって、類似した製品やサービスを提供する企業にとっては競争相手が増えます。競争の結果として価格の低下を招くかもしれませぬ。新しい企業は、既存の製品やサービスに対抗するために、新規性をもつ製品やサービスを

導入する必要があります。他方で、既存企業は、新しい企業との競争に打ち勝つために、イノベーション創出へのインセンティブが増す可能性がります。企業の誕生を通して新陳代謝がうまく機能し、新たなアイデアや知識の創出の可能性を高め、市場の効率性が増すことが期待されています。

しかし、誕生した企業の多くは、創業後まもなく市場から消えることが知られています。スタートアップ企業の中で、競争に打ち勝つて、イノベーションや成長を実現するのはほんの一握りであり、経済にインパクトを与えるには様々なハードルが立ちほだかります。イノベーション、生産性成長、雇用創出の重要な源泉となる、ユニコーン企業に代表されるような「高成長スタートアップ」を生み出すシステムを創ることが重要と考えられています。このよ

うなシステムこそが創業のエコシステムです。

創業活動の水準は、国の制度的要素が深く関わっています。創業活動の活性化のためには、人々の創業のインセンティブを高めるような環境をいかに整えるかという点が鍵を握ります。解雇制度などの規制が強い国ほど企業の設立やその成長が低い傾向がります。創業活動を活性化させるためには、倒産手続きの煩雑さや資金調達のしやすい金融システムの整備も重要な要素と考えられます。

このテーマに関心を持たれた方は、筆者が日本経済新聞（2020年3月末―4月上旬頃）「やさしい経済学」へ寄稿した連載記事（計10回）「スタートアップと経済活性化」をぜひご覧ください。

2019年  
6月20日  
木曜日

ヨハネによる福音書3…21「真理を行く者は光の方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが明らかになるために。」

讚美歌21528「あなたの道を」(Paul Gerhardt 作詞 J.M.Haydn 作曲)

現在、世界で起きていることは、私たちの日常の体験では想像がつかない未体験ゾーンにあります。世界経済危機後に、アメリカなど先進国経済と、中国など新興国経済のバランスは大きく変化したことを、どうか認識してください。

皆さんも、2018年以降の米中貿易摩擦の深刻化とその影響を心配しているでしょう。それは二国間だけの問題ではありません。日本や東アジア全体で、貿易・投資の縮小を招く可能性が高いからです。

実は2016年には、EUと中国の間の貿易摩擦は深刻化しています。それは、EUの対中貿易赤字が拡大するなか、EUが中国を市場経

井口 泰 教授 (労働経済学)

# 「真理への希望」 (経済と人間)

済として実質的には認めていないことが明らかです。社会主義市場経済が競争を歪めるという理由で、欧米諸国が中国に実施困難な改革を求めれば、貿易・投資摩擦の長期化は必至です。加えて、第5世代の情報通信技術を用い、周辺アジア諸国を情報通信技術で囲い込もうとする中国と、技術漏洩を警戒する欧米諸国の対立は、お互いを容赦しないレベルに達しています。

日本企業も、中国に進出する際、以前なら古い設備を移転し、最新鋭の施設の建設を避けました。近年、先端技術なしに競争的地位を維持することが困難です。現地法人は原則中国企業と合併で人事も「たすき掛け」で、技術漏洩を懸念するなら中国に進出すること自体不可能です。中国は2013年に「一带一路」戦略を掲げて以来、アジアだけでなく、アフリカに膨大な中国資本や人材が流入しています。東南アジアの

一部諸国も、中華経済圏のような様相を呈し、対中債務が極端に膨張し、各国内の政治的対立が生じてしまいました。

先進諸国では、新興国に比べ投資利益率が低く国内投資が停滞し、人手不足でも賃金があがりにくい状況です。さらに技術進歩の性格が影響を与えていると考えられます。人口知能や最新情報ソフトの開発は「熟練偏向型」で、特定の専門・技術者の雇用を生みますが、新技術を体化した資本財価格が労働賃金と比べて低下すると、全体として雇用の非正規化と低賃金が進行する恐れがあります。

東アジアでは、若年人口の伸びの低下と高学歴化も急速です。日本の大学の外国人留学生数は停滞していましたが、増加に転じています。これには、アメリカの留学生受入れ規制も影響があると考えられます。以上は起きていることのほんの一

部です。私はみなさんに、傍観者的な態度をとってほしくないのです。自分が当事者になって行動しなければ、真理をつかむことなどできないからです。(ヨハネ3…21)。急激に変化する世界で、「真理」を探究し、創造的働きに関与するために、ひとりひとりが異なる人生を生きる勇氣を持ってください。

特に、日本の社会科学系の大学院進学者は2.5%を下回る過去最低水準です。欧米では、数十パーセントの学部生が大学院に進学し、複数専攻し、複数の国で学んでいます。世界で、もっと視野を広げ、飛び込む勇氣がなければ、日本の人材が活躍できる余地は限られると思います。過度に思い煩うのでなく、独自の人生を生きる勇氣を持ちましょう。「神はあなたがたを顧みてくださるのだから、自分の思い煩いをいっさい神にゆだねるがよい」(ペテロI 1…15)。

2019年  
6月24日  
月曜日

上村 敏之 教授（財政学）

# A I・ロボットと地方創生

A Iやロボットと聞けば、人間の仕事を奪う、という話が有名です。

ニュースなどを観ていると、将来的に消滅する仕事があるとか、特に学生の皆さんにとつては、とても気になることが言われています。経済学に登場する生産関数によれば、工場設備や建物といった資本と、人間の労働力を組み合わせ、何らかの財サービスが生産されます。このとき、資本と労働に代替関係が成立するならば、A Iやロボットの発展によつて、労働が奪われることとなります。

すでに少しずつ、現実の社会で、資本が労働を代替しているようです。あるスーパーマーケットでは、支払いの際にセルフレジが登場しています。大手ファストファッションの店舗にもセルフレジがあまりありません。接客をロボットだけでこなす

テルがニュースになっていました。こういったことが進めば、確かに私たち人間の労働の機会が、徐々に奪われることになるかもしれません。

しかしながら、うまくA Iやロボットを使えば、むしろ雇用を生み出すことができるのではないかと感じています。特に、人口減少によつて、今後、ますます厳しい状況になる地方にこそ、A Iやロボットの出番があると思うのです。これに関連して、少し前にとっても興味深い話を聞きました。

東京のある喫茶店では、ロボットがウェイターとして働いているのですが、そのロボットは、地方に住む重篤な障害をもつ人が遠隔で操作しているのです。ある人は、ベッドに寝たきりですが、パソコンを通じてアバターロボットを操作しています。ロボットを通じて、障害をもつ

人が喫茶店のお客さんと会話することもできます。

この話の面白いところは、ロボットが仕事を奪うのではなく、人間の仕事を創っていることです。しかも、障害を持つ方々の雇用につながり、彼らのコミュニケーションも可能にしています。こういった遠隔操作技術がもっと発展すれば、東京一極集中の流れを食い止め、地方の人口減少を抑制し、本来の意味での地方創生に近づくと感じています。

東京一極集中の原因のひとつは、大学を卒業した社会人1年生が東京に集まることです。彼らは自発的に東京に集まっているわけではありません。企業が彼らを東京に呼んでいるのです。今の企業は東京に集まっているので、この傾向に拍車がかかっています。

遠隔でも仕事ができる環境が、A

Iやロボットの発展によつて実現するならば、東京に住む必要はありません。そのうち、どんな地方に住んでも、どんな国に住んでも、東京にいらるのと変わらず仕事ができる社会が到来するでしょう。本来、グローバル化とICT化が進んだ社会では、どんな場所でも世界で戦える環境が提供されるはずです。A Iとロボットをうまく推進できれば、都会と地方を遠隔で結びつけ、地方創生が実現できると感じています。

今後のA Iやロボットの発展で、地方に生きる人の仕事を創り出すことに活用できれば、私たちの人生の選択肢が増え、人間はもっと幸福になれるのではないかと思います。大それた未来を私は望んでいます。

2019年  
7月9日  
火曜日

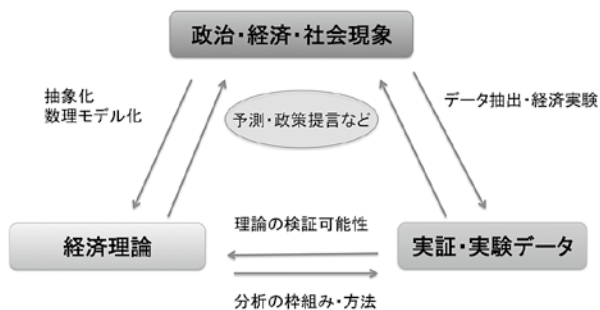
# 経済学部で身につけるべき技術

白井 洸志 准教授 (数理経済学)

経済学者に「経済学部とは何を勉強するところか」と聞いた場合、答えはおそらく十人十色以上あり、何が肝心なものかハッキリしないかもしれない。これは経済学の分析対象の多様さによるところが大きく、一口に経済学者とは言っても、ある人は労働問題を、ある人は環境問題を、またある人は経済学の応用数学としての側面を眺めて暮らしており、各々経済学への見方も違ってくる。

しかし、経済学そのものは「色々な分析対象があるので経済学の理論体系も様々」という構造にはなっておらず、むしろ分析対象の多様性にも関わらず、多くの分野に共通の考え方や分析ツールを持つのが特徴と云ってよい。すると、個々の分析対象に特別な事情を一旦忘れて、経済学部で身につけるべき技能とは何かを一般論として説明できそうである。今年度のチャペル講話で目指したのはこの点であり、その要旨は以下のとおり。

(図1) は経済分析一般のプロセス・視点を私なりにイメージしたも



(図1) 経済分析の基本的視座について、そのイメージ

のであり、技術的な面から言えば、経済学部で身につけるべき技能はこの絵を完成させる能力に集約されると考えている。

経済分析の第一歩は、分析対象を持つ論理的構造のうち特にカギとなる

るものを見極め、それを簡潔な数理モデルで記述することである。「経済と経済学の基礎」を含む理論経済学で登場する「経済モデル」というのはまさにそれであり、その解析を通じて経済現象に対する予測あるいは政策提言が与えられる。当面必要な分析手法はミクロ経済学とマクロ経済学の二つにほぼ集約されているので、それらを集中して学ばれたい。

一方、計算機の進化に伴って、実行可能なデータ分析の幅が飛躍的に広がり、その重要性が増している。数値的な分析を通じた経済予測・政策提言はもちろん、理論分析の妥当性を検証する役割もある。データ分析の技術は統計学や計量経済学で提供されるが、それらは経済理論とセットで初めて用をなす点に要注意。しばしば誤解されるが、それがどれほど詳細かつ膨大なものであれ、データそれ単体で言及できることは極めて少なく、実証分析の結果は分析者が前提とした経済モデルに大きく依存する。つまり、(図1)

補完的な関係にあり、その繋がりを意識して学ぶと得るものが大きいだろう。

上記の科目群を通じて分析ツールを備えれば、いよいよ各自関心のある社会現象について研究出来る。応用範囲として労働、環境、開発、貿易、財政、金融、医療くらいは即座に思いつくし、これが全てとは到底思えない。本学の経済学部でも相当数の応用科目群が開講されているが、ここでは分析ツールを応用して実際に(図1)を描く作業をすると考えればよい。

最後に(しかし最小にはなく)歴史・宗教および言語科目の重要性を強調しておく。社会現象はあくまでも人間(又はその集団)の行動と、その結果であり、背景にある人間についての理解が不可欠である。技術的な側面から(図1)を完成させる能力を支えるのが理論・応用経済学科目とすると、より「コク」のある絵を描けるか否か、少なくともその成否がこれらの科目群にかかっているはずである。

2019年  
11月5日  
火曜日

舟木 讓 教授 (キリスト教学・宗教哲学)

# 「違い」の持つ豊かさを気づく

国際化が急速に進み、またSNSの普及によって、多様な人々・言語・文化等々に身近に接する機会が日々増加する中、日本でこれまで当たり前と思われてきた文化・価値観・常識が必ずしも絶対でないということに改めて気づくときが増えている。

海外で生活したり何らかの交渉をしたりするときに痛切に感じられるのが、自らの思いをはっきりと相手に伝えることの重要さではないだろうか。特に日本語は主語が省かれることも多く、また対話する相手が、言葉の奥にある真意をくみ取ってくれることを期待しながら曖昧な表現をすることも多いと思われる。最近「忖度」という言葉は少し否定的に使われているが、本来は、相手の立場に立って相手の心の奥にある思いをくみ取り、互いが傷つかないように配慮する「思いやり」もここには存在

しており、「日本的」な「常識」としてはそれが美德というようにとらえられることもある。

しかし、海外では「はっきり」と自らの思いを相手に言葉化して伝えないと伝わらないという経験をした方も多いのではないだろうか。自らの思いをストレートに伝えることに躊躇し「謙遜」の意味で沈黙したり、曖昧に表現したりするだけでは当然ながら相手に思いは通じない。ただ、沈黙の奥にある思いをくみ取ろうとすること自体は否定されるべき姿勢ではないと思われる。ただ、ここで留意すべきは自らの考えや「常識」と同質のものを持っている人々との関係を重視するあまり、時に狭い視野で物事をとらえ、自らの経験や知見に収まらない異質なものを無意識に排除しようとする誘惑に負けしてしまうということである。

この世界・社会には本当に多様な人々が共に存在しており、その多様性・異質性に出会うときに困惑や緊張をおぼえ、そこから逃げてしまったくなることもある。しかし、自らの理解を超えるような多様性・異質性に真摯に向き合うとき、これまでは気づきもしなかった視点や人生観に出会うことが本来はできるはずである。

東京多摩市にあるサンリオのテーマパーク「サンリオピューロランド」で現在上演されているミュージカルの一つに「KAWAII KABUKI」という、ハローキティやダニエルなどのキャラクターが歌舞伎を演じているものがある。ここでは最初にキティーらが中心となったハローキティー一座という歌舞伎グループで「桃太郎」を演じるのであるが、そこに鬼ヶ島から「皆を笑顔にした」と願ってやってきた本物の鬼が

紛れ込むところから新たな展開が始まる。鬼は正体がばれた後、角の生えた鬼は結局一員になれないと絶望し、鬼ヶ島に戻り、自らの角をのこぎりで切ろうとするところまで追いつめられる。そこにこの鬼の思いを知ったキティーらがやってきて、「角があるというのは一つの個性」であって、それぞれいろいろな違いを持っていて当然、と伝え、ハローキティー一座に加わるよう呼び掛け、最後は他の鬼たちも加わって共に仲良く歌い踊り大団円を迎える。

見た目の違い・文化の違い・慣れ親しんだ「常識」の違い等々、本来私たちが生きる世界は数えきれない多様性に満ち溢れている。その現実は今一度向き合い、互いの違いを、この世界を真の意味で豊かにするきっかけとし、真の共生社会を求め続けたい。

2019年  
11月12日  
火曜日

小川 禎友 教授 (公共経済学)

## 『消費者余剰』

今から10年以上前の話だが、あるハンバーガーショップが平日だけハンバーガーの価格を半額にした(正確に言えば、平日でも夕方以降は半額ではなかった。しかし、議論を簡単にするために、平日半額とする)。当時の学生が、「学生には非常にありがたい価格設定で、お金がない消費者のことも配慮してくれる良い会社ですね」と同意を求めてきた。自由に使えるお金が少ない学生にとっては確かにありがたい話だが…。

消費者が2人いるとしよう。AとB。Aは子供がいるサラリーマンで、子供を連れてハンバーガーを食べに行く。彼自身は食べないが、子供がハンバーガーを食べて喜んでくれるので満足する。彼がハンバーガーに支払える最大限の金額は100円だとする。彼の手持ちが100円しかないということではなく、彼のハンバーガーに対する評価が100円であることを意味する。Bは学生で自由に使えるお金がそれ

ほどない。彼は最大限50円しか支払えないとする。ここで、店側はどのような価格設定をすべきか? 単純化のためにハンバーガーを作るコストはゼロだとしよう(ゼロでなくとも結論のエッセンスは変わらない)。

もし1個100円で販売したら、Aだけが購入し、店の売り上げは100円。1個50円なら、2人も購入するので売り上げは100円。30円なら売り上げは60円となる。店側の売上をさらに増やす方法はないか? Aは子供を連れて土・日曜日しか店に来ないとする。学生であるBは時間があるので平日でも店に行ける。ここで、土・日曜日だけ100円で売り、平日は半額の50円とすれば、Aは100円で、Bは50円でそれぞれ購入するので、店側の売上は150円となる。売り上げをさらに増やすことができた。

一方、価格設定が消費者に与える影響はどうか? 最大限支払える金額は消費者の便益、つまり消費する

ことから得られる満足度と考えられる。この便益から実際に支払った金額を引いた分を消費者余剰と呼ぶ。

この消費者余剰が大きいほど消費者にとつては当然うれしい。価格が50円なら、Aの消費者余剰は50(=100-50)円、Bの消費者余剰は0(=50-50)円。店側の売上は100円。店側の売上と消費者余剰を足せば150円。価格が30円だと、Aの消費者余剰は70(=100-30)円、Bの消費者余剰は20(=50-30)円。売上は60円。店側の売上と消費者余剰を足せば150円。そして、土・日曜日は100円、平日は半額とすれば、Aの消費者余剰もBの消費者余剰も0円で、店側の売上は150円となる。以上の3つのケースで、「消費者余剰+店側の売上」は150円である。お分かりだと思いが、価格設定によって変わるののは店側の売り上げと消費者余剰の配分だけである。価格が50円の場合に、Aの消費者余剰は50円だった

が、土・日100円・平日半額にすると、Aの消費者余剰であった50円すべてが店側のものになる。実は時間、曜日、男女などで異なる価格を設定することは、消費者に残る消費者余剰を供給者側が分捕る戦略として有効であることが知られている。100円という価格を基準にすれば半額という価格がありがたく感じるが、消費者余剰の概念を理解すればその裏にある企業側の戦略や消費者の損得を理解できる。

新聞やニュース番組で消費者余剰という言葉をとんと目にすることもないし、聞くこともない。しかし、道路・橋の建設、増税の影響、貿易自由化等のすべての経済政策評価は必ず消費者余剰を考慮する。学生諸君には、まずこの消費者余剰をしっかり理解して経済学を習得してほしい。

2019年  
11月14日  
木曜日

フロリアン・クルマスは『ことばの経済学』という本の中で、言語と経済は接触する点が多いと述べている。たとえば、当時はある国の言語の多様性と経済力に反比例の関係が見てとれたという。

また、この本の中では言語に行われる投資として辞書編集が挙げられている。辞書は、作成にかかわる人の数、年月、費用など他の本に比べて多くの先行投資をしなければならぬ。この世界にあるといわれる6000以上の言語すべてに辞書が存在するわけではない。ある言語の辞書が存在するのはお金をかける（投資する）価値がその言語にあるということであり、その言語の市場価値を示すひとつの指標になるのである。

人間はできるだけ労力を最小限にできるようにコミュニケーションをとる傾向がある。「きしよい」とい

住吉 誠 教授（英語学）

## 言語学と経済学の類似点への気づき

た、若者のことは遣いも「気色悪い」を短縮してできるだけ楽にコミュニケーションをとるといふ経済性（言語経済）で説明できる。学生が使う「キリ教」という科目名の短縮もしかりである。

言語学を経済学と絡めて眺めると、多くの「気づき」に出会う。私は、担当する基礎演習の学生のレポートから別の気づきを得た。レポートでは、何人かの学生が「行動経済学」について紹介した。従来の経済学は、「人間は合理的な存在であり、自分の最大の利益を確実に得るために合理的な判断をする」という「経済人モデル」にもとづいていたという。しかし、実際の経済活動を見ると人間が合理的な判断ばかりをしているわけではない。人間は非合理的にも行動するものである。これらの要素を勘案して経済を見るのが行動経済学ということであっ

た。

翻って言語学では、主に20世紀後半にさかんになった生成文法で「理想化された話し手」というモデルを考える。その「理想化された話し手」は言い間違いをしない。また自分の母語についてすべてのことを知っている合理的な存在とされており、「経済人」と類似のモデルである。20世紀後半の言語学、特に英語学は、この「理想化された話し手」モデルを使って大きな進歩を遂げた。

しかし、「理想化された話し手」は現実の世界にはいない。実際の経済が「経済人モデル」と異なることもあるように、実際の人間は「理想化された話し手」ではない。実際の英語の姿を見ていくと、とても合理的と言えないような表現や思ってもみなかったようなことば遣いで創造性を発揮していることも多い。

そこで、英語学でも、実際の人間

が使用した言語データをもっと観察しなければならぬという主張がされるようになった。近年のコンピュータの発達により一定の基準で収集された大量の言語データ（コーパス）の実例を眺め、英語のしくみ、ひいては言語の仕組みを考える大きな潮流がでてきた。

経済学と英語学では、扱う題材は異なっているが、人間の行動や振る舞いを考えるきわめて人間らしい学問ではないかと思う。知性、感情、意思、このようなものが経済活動にどのような影響をもつか。合理的ではない実際の人間の言語活動がどのようなものかというのを考えるのは大変興味深いものである。究極のところは言語学も経済学も「人間とは何か？」という問いにそれぞれの立場から解答を探しているのである。



2019年  
11月18日  
月曜日

# 趙 怡 教授 (比較文学・比較文化)

## ランバス一家と上海

関西学院では創立者ランバスがアメリカ人宣教師の両親の赴任先だった上海で生まれ育ったことは周知されている。ただ上海での活動は、「麻薬中毒療養所を開設」した程度のことしか知られていない。私は上海租界の歴史文化を研究しているので、ランバスと上海について調べてみた。

まず上海で発行された新聞のデータベースを検索すると、いくつかの記事がヒットした。中国語の『申報』には、ランバスが蘇州「博習医院」を開設したことを報じた記事(1883.11.20)、宣教師が現地の人と起こした土地売買の訴訟がランバスの仲裁によって解決された報告(1907.5.7)などが見られる。英字新聞 *The North China Daily News* からは中国の事情を紹介する氏の投書もいくつか発見できた。一九二一年ランバスが横浜で亡くなった時の訃報、上海の教会で葬式が行われた記事、教会関係者が書いた追悼文な

ども英字新聞や教会の関係誌に掲載されている。長年上海を離れたものの、依然流暢な中国語を話せたランバスは、「藍華徳」という中国名で現地の人々に親しまれていた。

アヘン戦争後に開港された上海は、外国人居留民が行政自治権や治外法権を持つ「租界」の設立と拡張によって発展した。中国の主権が著しく侵害された半植民地的な性質を持つ一方、世界の自由都市として近代化が進み、アジア随一の国際都市に変貌した。キリスト教の受容も日本以上に広がり、南メソヂスト監督教会(中国語訳は「監理公会」)は大きな影響力を持っていた。上海で三十年以上を過ごしたランバスの両親も草創期の宣教師として名を残している。

一九三五年に出版された『中華監理公会年議会五十週記念刊』に、教会の歴史と宣教師の伝記が掲載されており、ランバスの両親(「藍柏先

生」夫妻)に関する紹介も写真と共に含まれている。二人は教会建設や印刷所設置に尽力し、無料で宿泊できる小学校や女学校も数校設立した。夫婦の教えを受けた老人の回想によると、二人は温厚誠実な人で、自宅を礼拝室や教室として開放し、病人を自ら看病したこともあるという。

ランバス家の住居は、英米の共同租界とフランス租界の境となる川にかかった「鄭家木橋」の近くに建てられており、中国人の旧城にも近い。この界隈は、英(米)・仏・中三方の統治から逃れるごろつきが集まり易く、アヘン館や娼館も多く、治安の悪い地域だった。ランバス一家はここに住み続け、現地の人々と垣根なく付き合っていた。父親は手押し車や船で上海の郊外や蘇州まで伝道活動をしに行き、幼いわが子を同行させたこともあった。

このような両親のもとで育ったランバスは、自然に中国の人々との距

離も近かった。「医療伝道」の道へ進む志も、貧しい人々を救うために生まれたに違いない。彼はのちに「中国——一つの解釈」というエッセイのなかで、「率直な男らしい強さと忍耐力にかけては、中国人に勝る国民はない。中国人は粘り強く土にしがみついて、ほとんど不屈と言ってもよいくらいである」と語り、揚子江を遡る舟を引いている「隆々たる筋肉と青銅色の皮膚」を持つ苦力たちを「タイタン」と讃えている(『ウォルター・ラッセル・ランバス資料』二五頁)。中国人を「東亜の病夫」と揶揄して差別する西洋人が多かった時代に、民族や身分を超えて世界の人々を兄弟や隣人として見るランバスの世界観は、根底にキリスト教が唯一無二である思いがあったとはいえ、評価に値するだろう。そしてこの世界観を形成させたランバスの原点は、上海の「鄭家木橋」にあったのではないかと考える。

2019年  
11月21日  
木曜日

経済学では、人々の行動について分析するとき、重要な仮定をする。それは、合理的な人々という仮定である。合理的な人々とは、目標を達成するのに、与えられた条件下で、手立てを整えてベストを尽くすということである。ここで、まず、合理的な人々に与えられる条件にある「希少性」と目標を達成するとき、に直面する「機会費用」について、一緒に考えたい。

「希少性」とは、何かが足りない状況を表す言葉である。希少性を緩和するのに、使いたい量を減らすか、使える量を増やすかという2つの方法がある。使いたい量を減らすのは人間の意欲を制限することで、使える量を増やすのが優先されるべきである。また、「機会費用」というのは、一つのことを選択するのと同時に、他の選択を辞めざるを得ないことを意味する。だから、ある選

カオ ティ キャン グエツト 専任講師（開発金融論・応用計量経済学）

## 合理的な人々 〜未来の世代に残したい資産〜

択をする時に、すべての選択の費用（何を犠牲しなければならぬのか）と利益（何が得られるか）を検討する必要がある。

次に、日本のことについて一緒に考えたい。日本は戦後めざましい成長によって経済的大国となったが、90年代以降その成長率が減速している。直近の5年間の平均成長率をみても、1%前後の低い伸び率にとどまっている。さらに、生産に用いられている労働という生産要素も不足となり、日本の経済成長に懸念感が高まっている。深刻な労働力不足を解決するのに、日本政府はロボットの普及、外国人労働者の受け入れ、女性と高齢者の労働供給の増加等、様々な政策を実施している。これらの政策によって一定の成果を遂げれば、日本の経済は再びめざましく成長できるであろう。

さて、経済成長の目標を達成した

ときの日本の社会のイメージを考えてみよう。まず、ロボットの普及により、日常生活には、ロボットとの付き合いが増えていく。関学のチャペルの時間にも、ロボットがお話をしてくれる可能性も十分にある。また、高齢者と女性の労働供給の増加により、高齢者の休暇や、女性の子供との遊ぶ喜びも少なくなるだろう。加えて、外国人労働者の受け入れ拡大により、整っていない受入環境で働く外国から来た労働者も期待通りの日本らしい生活水準を堪能できるわけではない。そのような生活を日本にいる人々が実現したいと思っているのか、また、次の時代にこのような資産を残したいのか考える必要がある。

上記で紹介した「希少性」を日本における人手不足にあてはめると、ロボットの普及、外国人労働者の拡大などを通じて使える量を増やすこ

とができるので、妥当な選択である。しかし、「機会費用」をあてはめると、ロボット、外国人と共働することとなり、「純日本人社会」をやめなければならない。そして、経済成長の目標を達成する道を選ぶのであれば、みんなが期待した生活がある程度犠牲しなければならない。つまり、「希少性」を解決するとき、みんなの「機会費用」も無視してはならない。

いまこそ、人口減少が進んでいる状況に置かれていいる経済実態を改めて覚悟する必要がある。その中にいかに豊かな生活を送れるか、これから日本社会、そして世界を支える関学の学生に答えを見つけていただけることを期待してやまない。

2019年  
11月25日  
月曜日

世界はこれまでもこれからも益々グローバル化が進み、様々な局面においてボーダーがなくなりつつあります。このような、ボーダーなき時代に生きる我々は違う文化を享受するたぐさんの異文化圏の人々と接することになり、コミュニケーションをする必要が高まっています。そこで、今日は日本語者である私たちのコミュニケーションのスタイルについて考えてみたいと思います。

第二次世界対戦中から日本人特有のコミュニケーションの特色については研究され、「恥」と「罪」「タテ」と「ヨコ」「甘え」と「自立」など、いくつかの対立する鍵概念を用いて、日本人の対人関係におけるコミュニケーションのあり方が論じられてきました。しかし、これらの概念が日本人のコミュニケーションスタイルの全貌を明らかにするものとは決して言えませんが、首を領ける部分も多いはずで。

巖 廷美 准教授 (社会言語学)

## ローカライゼーション(Localization)とグローバルイゼーション(Globalization)の狭間で異文化コミュニケーションを考える

では、現代における日本人のコミュニケーションスタイルのいくつかの特徴について考えてみましょう。まず、「遠慮」と「察し」である。「遠慮」とは発信者が記号化しないメッセージで、「察し」とは記号化されなかったメッセージを理解することであり、日本のように、言葉を通して意味を明白に伝えるより、以心伝心、阿吽の呼吸のように、コンテキストへの依存度が高いコミュニケーションを好む高コンテキスト文化であると言えます。

また、「場面に拘束される定型表現や決まり文句が多い」特徴があります。「いつもお世話になります」、「毎度ありがとうございます」、「よろしく願います」、「つまらないものですが」、「すみません」など、現実の意味とあまり関係のない表現がある特定の場面で習慣的に使われることが多いことは周知のとおりです。つまり、「言葉のマニユ

アル化」が進んでいると言えます。こういう文化圏では、話者が各自の言葉を創造し表現することより、マニュアル通りに表現することがより多く求められると言えます。(断定的な表現を好まない)ことも一つの特徴として考えられます。イエス、ノをはっきり言わないで、あいまいな言い方をする場合も多くあります。1996年、ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎さんは「あいまいな日本の私」というタイトルで授賞式での記念スピーチを行いました。もちろん、このスピーチは具体的にコミュニケーションスタイルの曖昧さを指摘したわけではありませんが、大江さんは日本文化のキーワードの一つとして「曖昧さ」を認識していたと思われる。曖昧な態度から曖昧なコミュニケーションスタイルまで「曖昧さ」というのは日本らしいコミュニケーションスタイルの一つであると考えられます。

これまで述べてきたコミュニケーションスタイルは4次産業革命の台頭が叫ばれる情報化社会の中で果たしてどのぐらい有効なコミュニケーションの方法でしょうか。これらのコミュニケーションの方法では異文化圏の相手に理解してもらうことはなかなか難しいような気がしてなりません。だからと言って、日本人のアイデンティティーとも言えるコミュニケーションのスタイルをゆるゆるグローバルスタンダードにあわせて修正していくべきでしょうか。ここで立ち止まってグローバル社会の中でのローカライズされたコミュニケーションスタイルをどのように考えていくべきか、考えてみることは情報化時代を生きていくうえでますます大事なことであり、思うように

2019年  
11月26日  
火曜日

# 歴史と数字が出会う

高島 正憲 専任講師（経済史）

僕の経済学部における研究の専門分野は「経済史」となっている。経済史とは、過去にあった経済事象にかんする記述を対象としたもの、つまり歴史資料に「書かれた」経済そのものを研究すること、というイメージが一般的だろう。僕の研究もそうした学問体系に分類され、実際そうしたこともしているが、最近

は、資料に「書かれていない」数字を推計して歴史を数量的に描くようなことに取り組んでいる。

推計とは、その名のとおり推定して計算することである。具体的には、歴史のある時代における1人あたりの所得や日本全国の人口など、現代でいうところの経済指標について、歴史資料をもちいて何らかの統計的加工をほどこして算出することによって、歴史上の経済的実態を叙述する方法である。推計に必要な資料は不完全なものが多いため、時に

は大胆な歴史的仮説・仮定を設定して計算することもある。

つまり、歴史を叙述するといつても、その方法は資料に書かれた内容そのものから歴史を語るといふ作業ではなく、資料に書かれていないことや資料からでは分からないことを、歴史学以外のいろいろな方法を——それは主に経済学・統計学での手法であるが——を駆使して「歴史的事実」に可能な限り近づこうとする作業といつてもよいだろう。

このような歴史を経済統計の手法で測るといふ研究は、世界経済2000年の歴史について各国GDPを推計したアンガス・マディソンの研究が有名であるが、その起源は17世紀の英国でおこった政治算術派（Political Arithmetic）にはじまる。その創始者の1人であるウィリアム・ペティは、その特徴を以下のようにのべている。

「私は、比較級や最上級のことばのみを用いたり、思弁的な議論をするかわりに（中略）自分の言わんとするところを数「number」・重さ「weight」または尺度「measure」を用いて表現し、感覚にうったえる議論のみを用い、自然のなかに実現しうる基礎をもつような諸原因のみを考察するという手つづきをとったからで、個々人のうつり気・意見・このみ・激情に左右されるような諸原因は、これを他の人たちが考察するのみまかせておくのである」

要するに、具体的な数・重量・尺度という指標によって物事を分析することが重要であるということである。いうまでもなく、これは経済学の基本中の基本の考え方である。そう考えると、やや異端の歴史学にもみえる「数量をもって」歴史を叙述するという研究も、実はけっこう王道のアプローチなのかもしれない。

ところで、ペティが強調した「数・重さ・尺度」であるが、これは『旧約聖書外典』（アポクリファ・聖書の正典に加えられなかった文書）の一つである「ソロモンの知恵」第11章第20句にある一節「なんじはよろずのものを、量と数と重さにて定めたまえり」をヒントにしたものと考えられている。同様の表現はペティの他の著書にも登場する。この神が数・重量・尺度をもって考えることを人間社会に示したという聖典からの引用は、経済学がまだ生まれなばかりの頃に、具体的な数量をもってこそ世の中のしくみが説明できるとしたペティが、その考えをユニークなかたちであらわしたもののなのだろう。

\*ペティ著、大内兵衛・松川七郎翻訳（1955）『政治算術』岩波文庫（原著1690年）。

2019年  
11月28日  
木曜日

# 「縁を大切に」

梶井 厚志 教授（経済理論・数理経済学）

人生には様々な縁が複雑に絡み合っていて、それらが人格をつくりあげるようだ。自分はキリスト教信者ではなく、キリスト教と関係が深いとは感じていなかった。ところがよく思い起こすと、私の人生の重要な場面で不思議な縁があったと思いがたなるのである。

まず通った幼稚園がクリスチャンだった。もっとも当時私は北海道の田舎町に住んでいて、両親ともに車の運転をしなかったから、小さなバスで送迎してくれるその幼稚園以外に選択肢はなかった。仏教だろうが神道だろうが、子供が団体生活を学べればどこでもよかったのである。その幼稚園の記憶は全くないが、キリスト教の礼拝を初めて経験したのは、このような縁からである。

次は高校時代だ。東京のとある小さな教会で、毎週日曜日午後には催さ

れた英会話教室に、私は通ったのである。高校一年生の時の校内学力テストで、自分に全く英語力がないことを発見し、すがれるものには何でもすがろうと悟りを開いていた時期だった。母の知り合いの知り合いくらいに教会関係者がいて、この教室の存在を知ったという縁だったと思う。教室では、教会の礼拝にくる日本語のほとんどわからないアメリカ人が教師になって、日常会話の練習をした。

この英会話教室通いは長続きし、高校卒業後大学2年目くらいまで通った。長続きしたのは、無料の教室を運営してくれる教会関係者の熱意のためではなく、中高と男子校に通った私にとって、この英会話教室は女子と語れる貴重な機会だったからだ。英語の会話練習をするよりは、同世代の女子と日本語で話す

のが私の本当の目的であり、英語教室で費やす時間は、教室後の話題作りに必要な投資に他ならない。それゆえ、明らかに投資効率の悪い午前の礼拝には一度たりとも行かなかった。動機に問題ありとはいえ、毎週ネイティブのアメリカ人と会話を積み重ねた効果は絶大であった。のちにアメリカへ留学したときに、この4年ほどの会話体験は貴重な縁だったと実感したものである。

さて、英会話教室から足が遠のいてしばらくしてからのこと、教会にやってくるアメリカ人信者が、普通の家庭にホームステイをしたいのだが、引き受けてくれまいかと頼まれた。私の父母は英語をほとんど解かないので躊躇したが、教室で世話になってきたのを恩義に感じていたので、これも何かの縁だろうと考えて、結局引き受けることにした。2

年ほどの間に、全部で3名ホームステイを引き受けた。

そしてこの縁はさらに展開する。大学院留学が決まったものの語学研修の学校に行く金がなかった私は、この時ホームステイした人に紹介されたメリーランド州在住の牧師家族のところに転がり込み、一週間以上居候して大学院への入学に備えたのだ。突然やってきたどこの馬の骨とも知れない異教徒を、暖かく受け入れてくれたこの家族の度量には、本当に感心する。

そして今年閏月に転籍して、チャペルアワーでこのような話をしていく。これも何か大切な縁のほずである。

2019年  
12月3日  
火曜日

# 多様性

岡田 敏裕 教授（マクロー経済学）

「飛行機や新幹線などに小さな子供連れで乗り、周りの乗客に文句を言われた」ということをよく見聞きする。欧米の中の多くの地域では、少なくとも非難や冷たい視線を浴びることはあまりないだろう。

他国から、礼儀正しく、おもてなしの国」といわれる日本で、なぜこのような欧米との違いが生じるのだろうか。個人的な考え・感想だが、これは歴史的また人種的な要因で日本が極めて多様性が低い国だからだと思ふ。今回はこの点に関して主に述べてみたい。

始めに、欧米と日本の多様性の社会的変移について考えてみよう。欧米など様々な人種がいる国では、もともとある程度の多様性があるため、きつちりしたルールを作りづらく、ルールへの違反や個々の違いに寛容であると思われる。すると、更に考えや背景の違いを持つ人が増

え、非固定的な社会になる。そして、多様性の拡大は、様々な考え方や能力と文化を互いに認める相互影響により、創造性や生産性の拡大に寄与することになるだろう。

これと比較すると、日本は歴史的・人種的な要因により多様性が元来低い社会であると思われる。元々多様性が少ないので簡単に合意が形成され、ルールを多岐にわたり作りやすく、決められた基準やルールに反するミスや違いに厳しくなる（例えば、欧米では毛髪の色を規定する校則などは存在し得ないだろう）。

すると、非常に多くのルールの存在にもより、次第にルールを作った背景や理由を考えなくなり、ルールありきとなる。このような状況では、社会状況などが大きく変化しても、ルール変更を容易には許さず、ますます多様性の入り込む余地がなくなり、更に固定的で非ダイナミックな

社会へと向かうだろう。これはもちろん社会を構成する個々の組織にも言える。

日本は欧米と比較すると固定的で、ルール順守、規律、そして協調性を非常に求められる社会であるため、人の迷惑になることは最大限に避けるべきだと考えられがちである。そして、そのような社会では他人の迷惑行為に対して非常に厳しくなるのが自然であろう。逆に、多様性のある国では、迷惑はお互い様なので、ある程度は他人に迷惑かけても気にせず、他人の迷惑にも寛容になる。これが冒頭の飛行機の中の子供の話と大きく関係しているように私には思える。

このように述べると日本社会に対して、悪い印象しか持たないかもしれないが、必ずしもそうではない。多様性には、良い面と悪い面の二面性があり、多様性の少なさに起因す

ると考えられる調和や規律は、一面では企業の生産性を上げる要因であるし、多様性の少なさは、人々に安心をもたらす安全で安定的な社会につながる。少なくとも私にとつては、社会の安全性はかなり重要度が高い。アメリカの地域データを使用したハーバード大学のPutnam教授の研究によると、人種的多様性が大きいと、その地域に住む人々はより不安に感じ、幸せ度が減少することが示されている。

多様性の正味の影響を断定的に言うことは難しいが、個人の能力を伸ばすという観点では日本は多様性をもう少し意識したほうが良いと思う。様々なことに関して、他人と同じことに安心感を持ちすぎるため、個々の能力の向上の妨げとなつていくと感ずることが多い。

2019年  
12月5日  
木曜日

増永 俊一 教授 (アメリカ文化・アメリカ文学)

# 「朝食」(1933)——強欲の対極に在るもの

ジョン・スタインベックは、1962年にノーベル文学賞を受賞したアメリカの小説家である。「朝食」は3ページに満たない掌編だ。

「私は、どこか山中の谷間にいて、早朝で、凍えるほどに空気は冷たい。田舎道を歩いているとテントが見え、若い女が朝食の準備をしている。ほどなくテントから二人の男が出てくる。おもむろに年配の男が「私」に問いかける。「もう朝食は食ったか」と。献立は、ベーコンとオープンで焼いたパンと熱いコーヒーがそのすべて。

夜明けと共に次第に辺りの彩りが変わってゆく。調理用のストーブの隙間に見えるオレンジ色の炎も鮮やかだ。二人の男は真新しい上下のデニムを着ている。

ジュウジュウと音を立てて焼き上がるベーコンの匂い、パンが焼ける香ばしい匂いも漂い、涌かしているコーヒーの香りが鼻腔をくすぐる。

コーヒーはととても熱く、喉を焦がす。読者の嗅覚を刺激し、喉を通るコーヒーの熱さは、触覚によって感知される。

彼らは寡黙で、咀嚼する音以外聞こえない。この掌編の魅力は、五感すべてに訴える鮮烈な描写力にある。質素だが温かい食事を口にして、年配の男は「ああ、うまい」と呻く。さて、「私」が出会った彼らは、赤の他人を朝食に誘うほど裕福なのだろうか。そうではあるまい。

「俺たちはこれまでに12日もその仕事をしてるんだ」と若い男が言った。

娘がストーブの方から私に話しかけた。「この人たち、それで新しい服も手に入れたのよ」

二人の男は新しいデニム地の服を目を落とすと、二人して少し微笑んだ。

「その仕事」とは、そのあとに明らかになるように「綿摘み」の仕事だ。彼らは自分の土地を持たない日雇い労働者なのだ。「12日」も仕事にありつけ、温かい食事を取ることが出来、新しい服が買えるようになったことを彼らは素直に喜ぶ。その喜びを共有しようとするかのように、たまたま通りがかった「私」に声をかける。この慎ましい充足感に、「私」と共に読者も共感する。

何とこのベーコンとパンとコーヒーだけの朝食は美味しいそうなのかと。そして、決して裕福ではない季節労働者の心が、その温かい食事以上に温かいのかと。多くの人は、それを幸福な光景だと感じる。朝食を食べ終えて、「私」と彼らは静かにその場を去り、別れていく。

しかし、この美しく静かなエンディングには、実は痛ましい続きがある。翌年に出版された代表作「怒りの葡萄」の主人公たちもまた、季節労働者だ。しかし、「怒りの葡萄」で描かれている移動農民には「朝食」の季節労働者が味わった、あのささやかな充足感すら許されていない。1930年代の世界大恐慌を背景に、移動農民として追い詰められていく小規模農民の絶望。本作には、苛烈な資本主義によって追いやられてしまう農民に寄せる作者の共感と、暴力的な搾取に対する「怒り」が込められている。

資本主義の本義は飽くなき「利潤の追求」だ。与えるよりも、むしろ奪う。スタインベックは「季節労働者」に心を寄せたが、現在の文脈に置き換えるならば、「非正規労働者」と言った方が分かりやすい。「非正規雇用」の拡大の中で、この「朝食」で描かれるようなささやかな充足感と人間の温かさに、人々はますます憧憬の念を強めているのかも知れない。

2019年  
12月10日  
火曜日

西村 智 教授（労働経済学）

# 行動経済学で克服する ジェンダー格差

本日は、ハーバード大学のイリス・ボネット教授の著書『ワークデザイン』を紹介します。ジェンダー格差をなくすのはなかなか難しいことです。なぜなら、私たちの意思決定には、意図しなくても様々なバイアスがかかっている、そのことが適切な判断の妨げになっているからです。ボネット教授は、行動経済学の知見とツールを活用して、私たちがどのようなバイアスを受けているのか、また、それらを除去するための行動デザインを提案しています。

ここで、1つのお話を聞いてください。「父と息子が交通事故に遭った。父親は死亡、息子は重傷を負い、救急車で病院に搬送された。運び込まれた男の子を見た瞬間、外科医が思わず叫び声をあげた。手術なんてできない、その子は私の息子だから、と。」少しでも混乱した人は手を挙げてください。落ち着いて考え

ると外科医が男の子の母親であることに気づきますが、混乱するのは、私たちの意識の中に外科医＝男性（父親）というバイアスがあるためです。アメリカでは女性外科医の割合は3分の1、日本では10%以下なので、私たちの脳が外科医＝男性と判断するのは不思議ではありません。このように典型的な事象に基づくイメージはステレオタイプと呼ばれます。

心理学では、私たちの思考モードは「システム1」と「システム2」の2種類に分けられます。システム1は直感的、自動的に作動し、情報を素早く評価するのに適した思考モードです。一方、システム2は、意識的な推論がベースになり、苦勞して意識を集中させないと作動しません。時間はかかるけれども、抽象的な分析と規範に基づく思考をするのに適したモードです。外科医＝男

性というステレオタイプに基づく判断は、システム1の作動によるものです。このような判断は、行動経済学では、代表性ヒューリスティクと呼ばれる。システム1を作動させると、手っ取り早く世の中を理解できます。ですから、私たちの脳はまずステレオタイプに基づき判断を行います。ところが、やっかいなことに、一度、ステレオタイプに基づく判断がなされると、その後に入ってくる情報はすべてバイアスががかかった形で解釈されます。自身がどのくらいステレオタイプに基づいているかは潜在連合テスト（IAT）を行うことで判ります。IATで無意識バイアスの強い男性は、真に優秀な女性社員に対しても、無意識に「低評価を下し、バイアスの強い女性は、自らを、無意識に「ステレオタイプ（女性＝家庭）」に縛りつけるそうです。

このような無意識のバイアスは、行動デザインによって克服することができます。70年代、アメリカの5大オーケストラでは女性演奏家の割合がわずか5%でしたが、審査員と演奏家の間をカーテンで隔てるブランド・オーディションを導入したことにより35%に増加しました。たった一枚のカーテンが審査員達の意思決定を変えたのです。

経済学者達は統計データに基づいて判断をすることが多いでしょう。しかし、このような合理的な判断にも無意識のバイアスがかかっていることが多いことを自戒の念を込めて記しておきます。興味を持たれた方は、是非ボネット教授の『ワークデザイン』を読んでみてください。



2019年  
12月13日  
金曜日

# 井口 泰 教授 (労働経済学)

## 「天、共にあり」 (経済と倫理)

詩篇23…4「たとえ死の陰の谷を歩むとしても、私はわざわいを恐れませぬ。あなたがともにおられますから。」

讚美歌「久しく待ちにし 救いの主 来たり、とらわれの民を 解き放ち たまえ、喜べ、インマヌエル 来たりて救いたもう」(讚美歌21、231 ラテン語聖歌の最初の部分)

アフガニスタン・ペシャワールで30年以上も、医師として、さらに気候温暖化に伴う水害にも耐えうる農水路建設に、現地の人々と共に働いてきた中村 哲さんが12月4日に殺害されました。ペシャワール会を支援する一人として、私にとっても、あまりに大きいショックです。

中村さんは、その著書で、ヘブライ語の「インマヌエル」を「天、共にあり」と訳しておられます。

アフガニスタンは、1980年代のアフガン内戦とソ連軍介入で、200万人以上の死者を出し、周辺

諸国に400万人以上が難民となりました。この近辺の地域は、アルカイダの発祥の場所と言われます。2000年には、大旱魃で農村が疲弊し、400万人以上が餓死寸前で、感染病が大流行し、100万人が流民化したと言われます。日本のNGOペシャワール会は、現地にハ

ンセン病の病棟を建てて医療協力を進めていました。2001年9月の同時多発テロ後、アメリカ軍の報復攻撃が始まって農村は、さらに疲弊しきつてしまいました。

栄養失調と清潔な水の欠乏を解決できず、医療協力の限界を知った中村さんは、大旱魃と飢餓対策のために、20キロにも及ぶマルワリード用水路の建設と砂漠の緑地化事業を開始しました。それは現地の農民たちの伝統を尊重しつつ江戸時代に建設された日本の灌漑施設(佐賀藩)の知恵を生かし、さらに地域の村落共同体を復興させて、流出した人々の帰還を可能にする複合的で困難極ま

る事業だったので。

しかし、パキスタン国境の近いこの地域は、外国の軍隊が引き揚げ、治安は悪化の一途をたどりまし

た。2008年に同僚の伊藤和也さんがテロ組織に誘拐・殺害されました。用水路の完成をひかえ、帰農や人材養成を開始する大事な時に、日本人即時帰国の号令がかかったことは大変な試練でした。実際、米軍の誤爆で多くの民間人が命を落としました。

それにもかかわらず2010年には、洪水にも渇水にも耐えられる用水路が開通し、補修を繰り返したうえ完成し、十数万人の帰還に向けた農村の緑地化と復興が進んだのです。

荒廃した農村を気候変動にも耐えられるように再建し、故郷を自ら維持し発展していく事業を支えたのは、地元民との相互の尊敬と信頼であり、軍事による平和でも、経済成長でもなかったのです。自然は制御できないものであり、自然と和解してこそ、そこに恩恵が与えられること

を、この事業は身をもって証明したのです。最新鋭の技術と、コンクリートや重機主体の水路建設の場合、その後の取水・排水の制御や施設の維持・補修を地元民自身で行うことができず、災害発生などで事態が悪化した例がいくつもあるからです。

アジアのインフラ整備と経済成長のための国際プロジェクトが進む中で、農村の荒廃が放置され、国内の経済格差が拡大し、若者を中心に人口流出が進む開発の発想を深く考え直さねばなりません。私は今日の「経済と倫理」でデジタル化とグローバルゼーションについてお話する予定でしたが、変更しました。日本人たちは難民経験が希薄で、アフガニスタンも遠い国でした。しかし中村哲さんは、アフガニスタンの人々と日本の私たちの心のつながりを作ってくださいました。それが、平和で協力しあうアジアへの礎石となりました。それは、永久に消えることはありません。

2019年  
12月16日  
月曜日

カナダのキングストンはトロントから列車で東に2時間ほどの距離であり、オンタリオ湖の湖畔に位置する小さな都市である。そこで、私は関西学院大学よりランバス留学の機会を与えられて、1年間をそこで過ごした。

まずカナダに住んで思ったことはリサイクルショップがあちこちにあることだ。中に入って見ると、様々なものが売られている。テレビから家具、そして服まで売っている。そして、私がカナダから引越すとき、ほとんどの家具（家具という家具はほとんどなにに等しかったが）は誰かに譲り、処分するものはほぼゼロだった。

一方、日本ではそのようなリサイクルショップはあるのだろうか、カナダのように気軽に無料で引き取ってくれるところは少ない。先日、テールとベッドフレームを処分するこ

安岡 匡也 教授（社会保障）

## 環境とマクロ経済 〜日本とカナダの違いの視点から〜

とになったが、かなりきれいなので、捨てるのははばかられ、リサイクルショップに連絡したものの、このブランドの場合は買い取り手数料がかかるということで、しかもかなりかかるため、その業者からおそらく粗大ごみで出した方が安く上がると思いますがと伝えられたのだ。ここに日本とカナダの違いを見るこ

とができた。  
カナダは何かと環境への意識が高いと思う。住んでいたマンションでは分別回収のボックスがあるものの、非常に住民の方は細かく分別して処分している。このマンションの規模に対して可燃ごみが少ないのだ。また、分別ボックスの中をのぞいてみると、こんなものまで回収するのか？とびっくりしたものだ。日本では普通に可燃ごみ行きのものだ。

また、日本では最近、レジ袋の有

料化が進んでいるが、カナダではとくにそれは導入されていて、私が住んでいる頃に導入されたのは紙製のストローであった。プラスチックでは環境が汚染されるということだ。もちろん、このような活動は望ましいもので、日本でも導入されるべきであるが、しかし、紙ストローは時間が経つとストロー自体が湿ってきて、吸い上げ能力が低下するのである。これは改良が必要であろう。

マクロ経済学では一国の経済活動を測る指標として国内総生産というものがある。これは、一定期間に国内で生み出された付加価値の合計と言われるものであり、この数値が高いほど、経済的に豊かということになる。基本的に消費者が購入する消費財の生産が多くなれば国内総生産の水準も高くなる。従って、リユースなどといった他の人が使ったもの

をそのまま譲り受けて使用する場合は何も新しい財は生み出されないもの、他の人が使ったものは別の人の手に渡らず処分され、その別の人には新しく作られたものを購入する場

合、財が生み出されるために、国内総生産を増やすこととなる。  
しかし、古い新しいの違いはあるものの、その人にとって使用する上で何ら違いがないのに、リユースした場合は国内再生産にはカウントされず、処分して新しく作った場合には国内総生産にはカウントされて、後者の方が経済的に豊かということになるのは疑問を持った。国内総生産は真の豊かさを測ることはできないと考えられているが、それをこのカナダで垣間見えたように思う。

2019年  
12月17日  
火曜日

栗田 匡相 准教授（開発経済学）

# 隔たり、迷い、帰還

「シモーヌ・ヴェイユは、大西洋の向こうの友人への手紙にこう書いてある「わたしたちはこの隔たりを、友情によって織りなされたこの距離を愛することにいたしました。なぜなら、互いを愛することのない者は隔てられることもないのですから」。ヴェイユにとって、愛とは彼女と友人の隔たりを染めて満たしている大気のことだ。たとえその友人が戸口まで来訪したとしても、決してふれあうことの出来ない隔たりがどこかに残されている。近づいて胸に抱いたとしても、両手が包むのは謎、知ることのできないもの、決して手に入れることの出来ないものだ。最も近いものにさえ密かに遠いものが浸み入っている。結局のところ、私たちは自らにどれほどの深さがあるのかほとんど知らない」

レベッカ・ソルニット

「私はとても幸せよ。だって私が幸せじゃなかったら私は道を間違えてしまうの。私が道を間違えたら家族は生きていけないわ」。彼女の家は川のすぐ脇にあり、雨期には毎年のように家が水没する。家の周囲には家畜の糞尿と様々な廃棄物とがふれている。肉はほとんど食べられず、食べても安い内臓ばかり。子どもを学校に行かせ続けるのは難しく、お金が入り用になる年度の初めには毎年とても苦しい思いをする。それでも彼女は屈託の無い笑顔で、急な訪問者である見知らぬ外国人にも興味を示してくれた。ホテルへの帰途の中でどれだけ頭を巡らしても、道を間違えることの出来ない彼女の幸せに私の想像力が届くことはいずれ無かった。

ド経営の豚親父の罪を着せられて服役してるの。裁判官を買収するのは一〇〇万円で作れるから、あいつにとっては大した金額じゃないみたい。これまでも何回かそういう罪で捕まってるけど、すぐに出てくるわ」。知り合いの家族がマダガスカル刑務所に服役している。しかも罪を着せられてだ。やつすいテレビドラマを見ているわけではない。全くの意味不明だ。刑務所から脱獄した複数の服役囚が近隣の村に潜んでいる可能性があるので注意するようにとというラジオのニュースが調査中に流れたことがある。平和ほけの日本人にはそのニュースを正しく理解することは出来なかった。そして今、知人の家族が服役している事実を前に、なおさら脱獄のニュースを正しく理解することが出来なくなってしまった。

をそれでも測ろうとしていつも何かをつかみ損ねる。計り知れなさは計り知れないまま時間をかけて受けとめることが必要なのに、隔たりの絶望故に我々は眼前に展開されている世界から目を背けることに成功するのだ。そしてその成功の後には忘却が到来し、我々はつかみ損ねた何かをつかむことが出来なくなる。でも世界の悲劇に真の亀裂を入れるためには、忘却の彼方からまた計り知れない現実の方へ立ち戻る必要がある。かつていた場所に立ち戻ったときに我々は本当に世界を、自らを、隔たりの意味を知ることが出来るのだ。だから君はあの場所へ帰還しなければならぬ。彼らのためだけではなく、あなた自身の人生のために迷うことを恐れるべきではないのだ。

2019年  
12月19日  
木曜日

アメリカ合衆国やカナダを訪問するといつも頭を悩まされることがある。それは、レストランで食事をして、タクシイに乗ってもチップを渡さなければならぬという慣習だ。数日間の滞在ならほぼキャッシュレスでやり過ごすことができるような国においても、私は空港から市内へのシャトル運転手と、ホテルのベッドメーカーへのチップのため1ドル、2ドルといった細かい現金が常にポケットに入っているようなチップのせいで少しためらってしまう。

ゲーム理論では複数の意思決定者の間で定着した慣習や起こりうるもつともらしい状況をゲームの解として説明しようとする。特に、相手の戦略を所与として、だれも自らの戦略を変えようとする状況を示す「ナッシュ均衡」がその代表格だ。

松枝 法道 教授（環境経済学）

# チップが面倒でしかたがない

チップが当たり前のアメリカ合衆国のレストランにおいて、受け取りを拒否するウェイターは少ないだろうし、客がチップを置かずに店を出てしまうと何かとても恐ろしいことが起きるのであることは想像に難くない。個人的には、怒り心頭したウェイターが包丁を振りかぶって客を追いかける姿が目につく。それに対して、日本のレストランでは、テーブルに小銭が置かれていたら、ウェイターが小走りにその小銭を客に届けてくれるような気がする。もちろん、客はチップを置く必要がないので、意図的にそんなことはしない。つまり、チップのあるレストランも、チップのないレストランもどちらもナッシュ均衡として説明できるのだ。

では、チップがあることで得をする人はいるのだろうか？ レストランのウェイターではない。彼らの市場

は十分に競争的なので、チップとして受け取る金額が給与からあらかじめ引かれているのだ。得をしている可能性があるのは、店のオーナーだ。しかし、それはウェイターに支払う給料が節約できるからではない。日本では客がオーナーに払った額の一部分が間接的にウェイターへ渡るのが、チップのある国では客から直接的にウェイターに渡る部分が存在する。さらに、その額に15%から20%が標準といった具合に幅が設けられているのも重要だ。それによって、ウェイターが良いサービスを提供すればチップが増えると思えば、ウェイターに努力するインセンティブが生まれ、良いサービスを受けた客はよりリピートする傾向にあるだろうから、チップはオーナーを利する、という理屈だ。

しかし、最近の実験経済学の研究では、Uberなどのライド・シェア

アでチップを導入したところ、アメリカ合衆国でもほとんどの客がチップを払わず、ドライバーのサービスがどうこうというよりも、チップを出すかどうかは客の人柄などといった要因の方がずっと大きいという結果が得られており、レストランでも同様の研究結果が報告されている。

アメリカ合衆国では黒人よりも白人、女性よりも男性のウェイターの方がより多くチップをもらう傾向があることを根拠にチップを法律で禁止すべきという議論をする人もいる。大きな動きにはなっていない。実際にチップを払ってウェイターを喜ばすのが好きという人もいるらしい。私のような旅行者にとっては、ただ単に、いつ、どれだけ払えばいいのか分かりにくいので勘弁してほしいと思う日々がこれからも続くことであろう。

2020年  
1月7日  
火曜日

東田 啓作 教授（環境経済学・国際経済学）

# 自由貿易と環境問題

自由な貿易が経済厚生を高めることは、経済理論で証明されているだけではなく、多くの統計データによつて示されています。また一九九〇年代以降生産工程のフラグメンテーションが深化し、複雑なグローバルバリューチェーンが形成されてきました。自由な貿易によつて私たちの生活はより速いペースで豊かになってきています。一方で、貿易が国境を越えた様々な環境問題を引き起こすことも事実です。貿易の利益をできるだけ損なうことなく、環境保護を実現していくための政策のデザインが必要なのです。

現実には起きている貿易に関連する環境問題は大きく3つのタイプに分けられます。1つ目は、輸入された製品を消費する際に負の外部性が発生する場合です。自動車の排気ガスやタバコの副流煙等が該当します。2つ目は様々な廃棄物や中古品の貿

易です。廃棄物がリサイクルされたり、中古品が再利用されたりすることによつて便益が生み出されます。

一方で、輸入国内のリサイクル過程で有害物質が放出されたり、中古品がそのまま処分場に投棄されたりすると深刻な環境問題が発生します。3つ目は、輸出国の生産段階において発生した排煙や排水などが輸入国の環境に負の影響を与える場合です。例えばメキシコの工場で生産された製品がアメリカで消費されるのと同時に、その工場からの排煙がアメリカの市民に影響を与えるような場合です。さらに、輸出国での生産工程で生態系が破壊され、輸入国の消費者がそのことから負の効用を得る場合があります。

一つ目のケースで鍵となる概念は内国民待遇です。世界貿易機関の基本原則の一つで「輸入品に適用される待遇は、国境措置である関税を除

き、同種の国内産品に対するものと差別的であってはならない」というものです。国内産品と輸入品に対して同じ規制や税を課すのであれば、政府は輸入品を対象に含めた環境政策を実施することができません。

2つ目のケースでは、有害な廃棄物の越境移動を禁止する条約（バーゼル条約）が締結されるなど、一定の条件を満たせば貿易を制限して環境保護とのバランスをとることが可能になっていきます。3つ目の問題は最初の2つよりも解決が難しい問題です。貿易の利益と環境保護とをバランスさせるために輸入国がどのような政策をとり得るかについて、まだ明確な合意に至っていません。生産段階での環境負荷の発生への対処は輸出国の選択です。輸出国、輸入国それぞれの経済発展の水準や価値観を反映した「差異ある責任」と、それに基ついた環境政策や貿易政策を

明確にする努力が続けられています。

- 1 関連する問題としては、例えば内記香子「WTOパネル・上級委員会報告書解説⑥」米国—マケララベリング事件（メキシコ）（DS381）—TBT紛争史における意義—「RIETI Policy Discussion Paper Series 13P-014」を参照してください。（<https://www.rieti.go.jp/publications/pdp/13p014.pdf>）
- 2 詳しくは、経済産業省が発行している『不正貿易報告書2019年版』などを参照してください。

2020年  
1月10日  
金曜日

「人間の心は、自分の道を考えている。しかし、主が一步一步を備えてくださる。」（箴言16・9・ルター訳聖書をもとに改訳）

讚美歌21・27「あかつきの空の美しい星よ、まことの光。エッサイの切り株の新しい枝よ、ダビデの子イエス。主よ、主よ、とうとい恵の光よ、わが王、わが主よ。」（ドイツで愛唱される讚美歌。16世紀後半の牧師Hilbig Neocianの作詞・作曲）

年老いたソロモン王の語る箴言は、預言者の書ではないのですが、ユダヤ教、キリスト教、それにイスラム教でも読まれる共通の聖典です。王は、人間は自分の生涯を見通すことなどできないと認め、私たちが日々、神様の言葉に聴いて一歩ずつ進むよう勧められています。

伝統的な経済学は、将来が全て予想できる前提でモデルを組立て、経済主体が利益を最大化することを合理的と考えました。しかし、それは

井口 泰 教授（労働経済学）

# 「あかつきの空の美しい星よ」

（経済学と聖書・第21回）

現実には可能なのでしょうか。

実際の経済活動では、一年先といえども将来を予測することが不可能です。近年、短期の利益を重視する傾向が強まる先進国では、企業は株主資本利益率を高めることに熱心な反面、突如、環境問題や製造物責任、消費者からの訴訟で経営が危機に瀕する事件も、頻繁に起きています。

経済学における功利主義的な仮説は、学生の皆さんの価値観にまで影響しているように感じます。個人の利益を追求し、競争に勝つことが人生の目標だと思っていたゼミ生がいます。大学教育は、単位をとって就職する手段だと割り切っている学生もいるのです。私は、それにショックを受けました。

今年も、地球温暖化対策への国際協調が進んだように見えながら、地球環境は破壊され続けています。各国の国内経済格差が拡大し、政治的にも社会的に不安定な世界が出現するリスクがあります。しかも現代

は、グローバル化とデジタル化が同時に進行する前代未聞の大きな変化の時代です。

心の余裕を失った人々は、世界の動きを正確に把握することが難しく、何がファクト（事実）で、何がフェイク（虚偽）か判断が難しくなります。その結果、人類に共通する正義の概念や、広く連帯する意識も、一層弱まっているようにみえます。

誤解しないでいただきたいのですが、ソロモン王は、人間がビジョンをもち、将来を積極的に計画する必要性を否定しません。大事業を成し遂げた王は、視野を広くもち、表面的な理解に満足せず、新たな人生を開く必要性を知っています。しかし、人間は一人でそれを実現することはできないし、多くの失敗や破綻のリスクも伴います。それでも自分の抱える困難や問題で、自分の心を一杯にしてはなりません。ほかの人々の困難と苦しみを放置せず勇気をもって行動すべきです。

日本の多くの方々は、仕事や生活に追われ、先を読む能力も努力も不足しがちです。新興国との新たな協力や連携の可能性と重要性に本当に気づいているといえません。専門外のことを広く考える能力の欠如もかなり深刻です。若い世代の海外留学では、9割以上が1か月未満の滞在で経験しなく、日本人の多くは世界で協働する経験と能力が決定的に欠けていると知るべきです。

しかし、神様は、困難で苦しいときこそ、それを乗り越えた世界を夢見る能力を与えてくださいます。イエスは、弱いところに最もはたらくてくださいます。ですから、皆さんも、毎日聖書を手に取り、その言葉から力をもらってください。冬の早朝、東の空に美しい星（金星）を見つけたとき、黙示録第22章16節の言葉を思い出してください。あなたのなかに生きる勇気が湧いてくるように祈っています。

2020年  
1月9日  
木曜日

豊原 法彦 経済学部長

# 「樂之者と希望」

関西学院大学経済学部をご卒業される皆さんに、心からお祝い申し上げます。

大学を卒業される皆さんは、所定の課程（24単位の履修）を修了され経済学士とされます。

この機会に皆さんに2つのことをお伝えしようと思っています。

1つめは、物事に対して自分のスタンスに関するもので、論語からの引用です。

論語—雍也<sup>ようや</sup> 第六・二十  
 白文：「子曰、知之者不如好之者、

好之者不如樂之者」

書き下し文：「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」

おおよその意味としては、「あることを楽しんでいっている人にそれを好きだという人は及ばないし、好きだという人にそれを知っているという人は及ばない」ということになりま

しょう。集合を使ってかなり乱暴な要約をすれば、

「知之者」は「好之者」を含み、「好之者」は「樂之者」を含む

ということになるかもしれません。

皆さんは、大学生として教室や課外活動、学外での活動を通じてさまざまな知識を身につけたことと思います。それはあくまで「知る」の段階です。それを深めるためには、それを「好き」になり、ついには「楽しい」と思えるようになることが重要です。

そして大学でたくさん獲得した「知る」をもとに、これからの様々な経験を踏まえて、それらが「好き」や「楽しい」に深化することになるかもしれません。そのためには常に関心と意欲を持って学び続ける必要があります。

2つ目は、外的ショックを自分の中でどのように対処するかに関する

もので、新約聖書「ローマ人への手紙・第五章三節」からの引用です。

「艱難は忍耐を生み出し、忍耐は練達<sup>かんたつ</sup>を生み出し、練達は希望を生み出す」

最近ではレジリエンス (resilience: もとは物理学の用語で、ばねやボールを壊れない程度にぎゅっと押ししたときに元に戻る力。復元力) と言われますが、想定外の困難に陥った時、一定の範囲内であればそれをま

ず正面から受け止め、それへ対応策を模索し、何度も飽くことなくチャレンジすることで改善の方向が見えてくるというのがこの言葉の1つの解釈です。

社会に出ると人知を超えたインシデントに直面するでしょうが、その時に自分の対応できる範囲内であれば全身全霊でもって対処しようという考え方です。そのためにも日ごろからの心身の準備、つまりシミュレーションをしつかりしておきま

しょう。備えあれば憂いなしです。

そしていざというときには最適な対応（＝リスクを評価した上でその時点で自分として最善と思われるもの。結果がどうであったかは歴史が証明してくれます）ができるように、クールヘッド&ワームハード（イギリスの経済学者アルフレッド・マーシャルの言葉）を旨として行動しなければなりません。

皆さんが大学で学んだのは知識だけでなく、それに基づく能力とそれに裏打ちされた資質なので、自らを信じて歩み進めることによって、本学が *kwansai university* として標榜している「*Mastery for Service*」を体現する世界市民」という目標に近づくことができます。そしていつでも関学に戻ってきて下さい。わたしたちは心から歓迎します。

## 1組 新海教授

伊藤 達也 諸国と比べて日本の問題について考える  
 坂田 俊輔 幸福と豊かさについて  
 海藻 健太 格差と経済の関係について考える  
 大内 崇生 男女の違いと幸福について考える  
 漆原 紫苑 仕事中の行動に影響を与える様々な要因について考える  
 片山 創 「行動経済学の使い方」について考える  
 名取 卓也 先延ばし行動について考える  
 金 バラム 女性の社会進出について考える  
 上田 晃輔 人はどのようなことでやる気を出すのかについて  
 花谷 晴流人 心が経済に及ぼす影響について考える  
 佃 厚志 年功序列について考える  
 平山 雄大 少子高齢化・年金について考える  
 佐久間 結聖 行動経済学の使い方について考える  
 ★谷上 太介 すべての人が社会の一員として活躍できるには  
 河合 翼 日本の工業化による今と昔、女性労働について考える

太田屋 遥 女性の社会進出について考える  
 崔 珉準 大学が多すぎる？について考える  
 田中 舜 性差による経済への影響と今後の社会の在り方について  
 金 明淵 日本の少子化と高齢化について考える  
 青山 陸人 オリンピックの経済効果について考える  
 田中 有紗美 希望と社会について考える  
 橋本 裕登 「税金」について考える  
 西田 結磨 こころと経済学の関連性について考える  
 新阜 聡太郎 「やる気を引き出す仕組み」について考える



## 2組 岡田教授

金光 崇志 バルト三国におけるデジタル化の進展に関する一考察  
 谷河 愛 人間とAIは共存できるのか  
 佐野 周祐 日本初のIR法案の先行き  
 濱田 拓也 地球温暖化と人間の関係性  
 浅野 明かり ペットビジネスの見直し  
 吉田 光 日本におけるキャッシュレス化の実現可能性について  
 都川 和香 少子高齢化と経済学  
 森本 祐也 介護事業倒産について  
 岡嶋 領健 UKプレミアリーグ～繁栄の背景～  
 松本 悠希 行動経済学と幸福  
 桧垣 辰具 なぜ日本ではラグビーがマイナースポーツであり続けるのか  
 杉原 由姫 消費税は増税すべきなのか  
 名村 天音 大企業の利益優先～ゲノム編集食品の安全性とは～  
 楊 宣 中国経済の持続発展はできるか

都留 れんか キャッシュレス化について  
 ★林 魁星 ベーシックインカム  
 森田 峻平 日本の自動車産業の今後  
 小林 亮輝 全米オープンの開催  
 片山 あかり インスタグラムがもたらす企業利益  
 藤井 欽也 日本の移民問題  
 小田 詩乃 バングラデシュの人々が苦しくなると地球も苦しくなる  
 田原 佑次郎 SNSによる企業利益  
 吉岡 駿 仮想通貨と将来の日本  
 高山 智也 体罰の必要性について  
 平嶋 直樹 AIと日本の経済



### 3組 厳准教授

藤本 奈那 広告が人々に与える影響  
 浅野 菜乃 休憩室の充実度と労働意欲の関係性  
 下原 涼太 日本人は意見を主張しないのか—日本人と外国人を比較して—  
 松原 光里 過疎地域から過疎化を脱却するには  
 山本 陽路 人口減少の中での町づくり対策  
 迫田 夏幸 消滅危機言語を守る根拠と動き  
 澤田 朗 増税することによる社会経済への影響  
 肖 丹麗 社会的格差はから見る男女差  
 園田 航大 敬老バスが高齢者に及ぼす影響について  
 畑山 知輝 組織の隠ぺい体質はなぜ根深いのか  
 坂元 伶緒 日本の少子高齢化による問題と対策  
 宮田 雅之 社会主義国における国家と民衆の対立及び世界経済への影響—香港の現状から見る中国—  
 ★作本 育海 日本語での特定場面における色覚認識の言語表現について  
 ★前井 美由 飲食店に対する Instagram の集客力—大学生を対象にしたアンケートをもとに—

原 百伽 インターネット上の口コミやレビューが消費者行動に与える影響  
 山本 真生 SNS じょうにおけるいじめ問題について  
 松並 璃子 外国別で WASHOKU の好みや違うのか  
 保田 恵里 日本での外見に対する印象について  
 坂本 美優 私たちはなぜ学び勉強し続けるのだろうか  
 小手川 菜波 プラスチックが環境に与える影響  
 本田 凌一 環境問題—主にプラスチックゴミの観点から—  
 奥村 ひなた 日本のプロ野球の歴史とファン獲得への取り組み  
 尾下 翔 ビデオ・アシスタント・レフェリー (VAR) の導入によるサッカー界の変化と賛否  
 熊井 彰洋 日本人はなぜ外国に比べて資産運用を敬遠するのか—投資への意識変化—  
 渡辺 健貴 野球人口減少について—今後の野球人口拡大—



### 4組 住吉教授

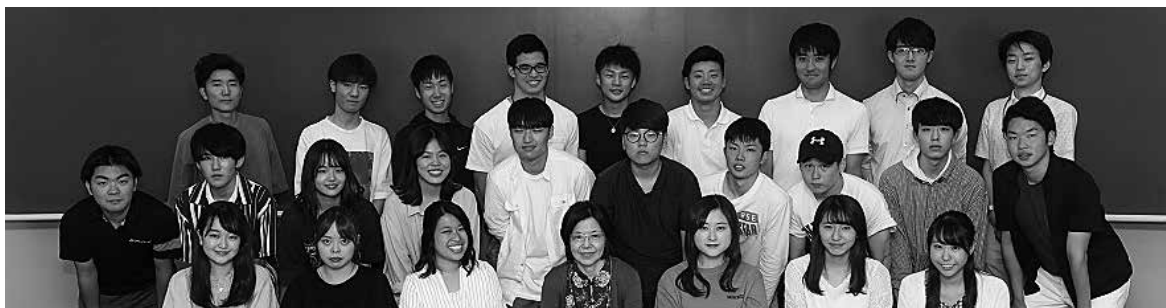
有田 舜一 旧エネルギーと新エネルギーが経済に与える影響  
 徳岡 秀仁 なぜメルカリは急成長を遂げたのか  
 長谷川 琢真 少子化と地方税  
 佐藤 新 茨城県の経済情勢と社会問題  
 西田 光岐 動画配信サービスの普及とテレビとの関係性  
 濱田 祐斗 オリンピックは開催すべきか否か  
 瀬田 響 キャッシュレス化の経済効果  
 出水 聖 関西地方における外国人観光客の増加の功罪  
 鈴木 博一 経済状況に伴う株の動向  
 越智 亮輔 地下鉄民営化が経済に与える影響  
 三宅 友哉 5G が世界に与える影響  
 桜川 長介 現代日本における教育格差—所得格差が生む教育格差—  
 塚本 祐香 なぜユニバーサル・スタジオ・ジャパンは来場者数が急増したのか  
 ★高谷 菜々子 日本の出版業界に未来はあるのか

濱田 拓弥 日本の文化・暮らしは本当に恵まれているのか  
 路 東明 中国不動産市場の現状分析  
 太田 周作 アメリカと日本におけるスポーツ市場の比較と展望  
 大坂 蒼一郎 キャッシュレス決済の現状と推進  
 庄司 健悟 1964年の東京五輪の前後を比較した経済動向と2020年に向けた予想と対策  
 井上 乃愛 日本における人口減少の実態について  
 渡邊 来夢 GAFA の独占状況に対応している日本の企業はあるのか  
 辻 海人 残業は必要なのか？  
 武田 侑佳 貧困問題について  
 小谷 竜弥 日本におけるキャッシュレスの現状と課題

## 5組 住吉教授

森垣 步	なぜ CD 不況が起こったのか
小西 亮汰	インドにおける産業と貧困
嘉儀 夏名	オリンピックの経済効果
須山 二葉	日韓関係と経済について
徐 萱彤	商店街の衰退と再起
★宮林 凜輝	香港民主化デモの意義と影響
矢守 幸太	スポーツ産業の市場とこれからの展望について
黒瀧 聖惇	経済と幸せの関係
石牧 賛太	戦争国の経済はどのように回るのか
石牧 香里	ふるさと納税による地域活性化を考える
酒井 優樹	日本サッカーによる地方創生と経済の関連性
柳 亜蓮	ネット通販と経済
武 夏鋒	香港の経済変化
清水 唯花	田舎で暮らそう—地域活性化のために—
今津 紅杏	SDGs から考える今後の課題
瀬島 悠介	経済と職業意識
井村 菜美	キャッシュレス化と日本経済

根木 洸希	スポーツによる経済効果
手束 栄作	貨幣と経済について
友綱 晃汰	日本の農業を守るために
清水 大誠	子供の貧困について
森 彩也香	日本の震災による経済影響について
西 惟稀	就職と景気の連動性
鶴田 皓大	消費税の役割と経済への影響
西林 泉美	インバウンド経済効果



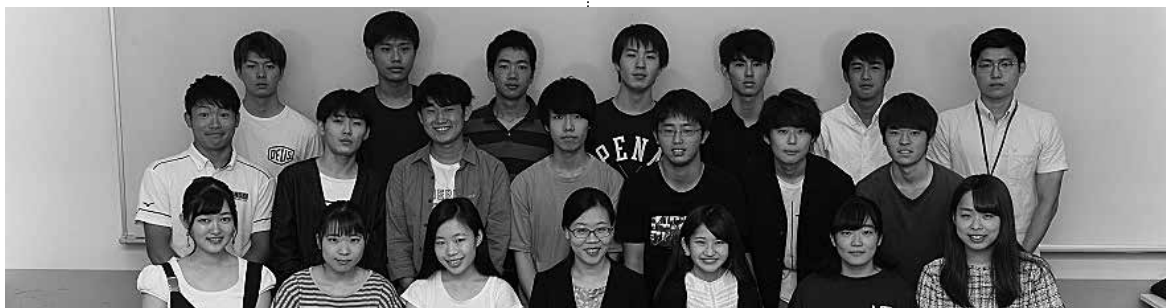
## 6組 趙教授

日浦 壮平	GAF A について
岡田 味弥	くらしの変化—日本と世界の家について—
濱口 莉奈	コーヒーが及ぼす経済効果
布施 拓真	古代ギリシア哲学を現代に還元するには
宮川 竜成	大学生の食生活の現状
松尾 侑介	方言はあった方がよいのか? 方言の意味～ 様々な視点からみたとき～
峯島 愛実	今後の日本の音楽ビジネス
★平井 佑典	私はなぜひとかきひと蹴りが遅いのか
和田 彩希	豊中市が今後さらに魅力的な街になるためには
石塚 龍太郎	オリンピックはどうすれば歓迎されるのか
松田 紘	京阪電車はプレミアムカーをつけるべき だったか
横田 浩人	「論語と算盤」・「雨夜語」を読んでまとめ
大西 杏佳	化粧と心の繋がりについて考える

岡田 吉功	なぜ日本では HIPHOP が流行しないのか
新垣 太基	21 世紀における「体罰」の現状
齋藤 まひろ	Disney 映画アラジンの実写化成功における一考察
中村 友哉	奈良の新たな観光
北田 大貴	世界から児童労働をなくすことは可能であるのか～私の行ったミャンマー・マレーシアの観点から～
小山 凌雅	SNS でバズるために何をすべきか
廣田 朱音	韓流が日本国内に及ぼす影響と今後の展望
溝田 晃生	テーマパークにおけるアメリカへの影響力～「ウォルト・ディズニー」夢のための経営戦略～
寺井 睦	児童虐待と看護師の役割
崔 健	教育制度の改善

## 7組 カオ専任講師

瀧 虎ノ介	日本の野球の未来	五月女 裕亮	世界の音楽経済市場
片岡 遼太	車のレースはどのようなものか	西村 凌	オリンピックの経済効果について
有光 慶展	少子高齢化が日本経済に与える影響	角一 遼輔	消費税について
波多江 めい	SNSによる共感が経済に与える影響	久國 航盟	日本の貧困と教育格差
奥谷 慶太	スポーツ産業は地域経済にどのような影響を与えるのか	中川 脩太郎	プロ野球の人気上昇と経済効果について
坪田 圭一郎	車の技術と環境性の進化	住田 友加子	収入と学歴
渡邊 碧人	西宮市について	小松 多瑛	日本のコンビニの現状
佐野 佑斗	HIP HOP が世界に与える影響		
三宅 紗矢	シンガポールの多文化共生社会に関する研究		
★福山 祐史	第四次産業改革と日本		
八川 遼	阪神淡路大震災と東日本大震災の決定的違いと共通点を被害状況から考える		
松谷 優也	ジャガイモが食糧不足を救う可能性		
津田 真里亜	心理学と食の関係性		
鴻野 光希	食と経済効果		
中野 沙彌加	LGBT の労働		



## 8組 小川教授

★松本 涼太	航空自由化	梁 世宗	教育における真の平等—日本の教育格差の原因と多様な教育へ—
山口 健輔	日本におけるラグビー人気	宮坂 達也	仮想通貨 (バーチャルマネー)
轟 凱	最終レポート	中上 咲英	人はなぜやりたくないことを先延ばしにしてしまうのか
落合 凌	ゴルフ場利用税の廃止	今坂 優志	電子マネー—とこれからの決済市場
上野 優寿希	食料廃棄物半減のために	野村 佳陽	将来の AI のあり方—経済に変化をもたらす AI の予測—
清水 亮有	仮想通貨について	杉立 真一	不人気商品を人気商品へと変える為に～行動経済学を用いて～
會川 叶夢	アフリカはどうして経済の中心といわれるのか?	中津川 功祐	ユダヤの歴史と経済
玉田 真衣	テレビコマースの経済的成長とは		
羅 明勲	1990年代からの大学進学率の上昇の原因と特徴		
戎谷 綾華	芸術と経済		
上野 将也	ニセ医学について		
鄭 志允	最終レポート		
劉 佳平	日本の男女賃金格差について		
長尾 侑雄	行動経済学		
森 加那太	人工知能とこれから～私の将来ビジョン～		
白須 健太郎	AI に奪われる仕事、無くならない仕事の相異について		

学生氏名・論文タイトルの順に掲載しています。★印は優秀論文です。

## 9組 山田准教授

三宅 大樹 AI に仕事は奪われるのか  
永田 莉子 アメリカと中国の激突：日本の在り方から考えられるいま私たちがすべきこと

香山 絢 働き方改革に努めねばならないのは誰か：改革実行に必要な多角的な観点

宮本 ソアレスリノ イギリスのEU離脱：共同体への拒否と「自国ファースト」の潮流

石塚 幹大 電子化する書籍：問われる本のとらえ方  
吉村 紗也加 プラスチック汚染：世界に及ぼすプラスチックの危険性

池田 聖哉 AI がもたらす未来：AI に勝つためには  
吉井 健次朗 ネットカフェ難民について  
元永 将司 バブル経済と日本の変遷：世界各地で繰り返すバブルと大規模バブルを経験した日本

堀田 裕史 オリンピック2020は日本（東京）で開催すべきなのか：オリンピック開催による運営内外で山積している課題

恒藤 和磨 5G がもたらす暮らしと経済への影響：新たな時代の幕開け

岡 航大 今の若者は読書離れなのか  
森川 紗帆 経済学は私たち人間を幸せにしてくれるものか否か  
桑原 梨央 都市と地方：それぞれの魅力  
★酒井 智玄 日本の安楽死合法化について：安楽死は魅力的か  
藤橋 克政 公共放送の在り方：テレビ離れの現代社会におけるNHK

鍾 文杰 高齢ドライバーの現状とその対策  
清水 祥太 日本の社会保障問題：年金の存続のために  
太田 裕貴 高齢化社会と自動車運転：増加する事故  
藤田 宏太 AI と人間社会の未来：AI によって人間の仕事は奪われるのか

吉田 朱里 「うつ」は本当に病気なのか：現代のうつを知る  
治良 愛里 高齢ドライバー：急増する高齢ドライバーのこの先  
岸部 哲也 Bリーグがさらに成長するには：先行研究をもとに  
永田 理帆 日本はチョコレート輸入量を減らすべきか：チョコレートが流す涙

二木 佑介 あおり運転問題：危険運転撲滅のために  
周 東奇 中日キャッシュレス化過程の比較と日本のキャッシュレス化の遅れ及び阻害要因



## 10組 高島専任講師

筒井 凜 コーヒーが日本でたくさん飲まれる理由  
覚前 蓮太 タバコがもたらす経済的効果と身体的影響  
深江 萌花 地球温暖化への取り組みと対策  
山本 凌雅 交通事故問題と免許返納  
山本 貴太 現代世界と承認欲求  
古川 陽平 日本は大麻を合法化すべきか  
山口 和佳奈 サブスクリプションによって私たちの暮らしはどう変化するだろうか

★金 昭賢 ジェントリフィケーションから、オーバーツーリズムへ

佐藤 大志 意志表現における「言葉」の重要性  
永田 航平 大阪に外国人が集まる理由  
東 誠士 なぜこの世には天才が存在するのか  
唐山 明大 Jリーグの経営のこれから  
永瀬 琢己 部落差別について  
大城 健 スマホによる影響と依存  
行俊 亮佑 カップラーメンは健康に悪影響を及ぼすのか  
島田 美悠 コーヒーはなぜ世界中で愛されているのか

中川 寛大 カブトムシからわかる異常気象  
西中 実菜乃 日本のお笑いについて  
黒田 萌未 アパレル経済が抱える問題  
塩見 優介 死刑は廃止すべきなのか  
戸下 由羽 食品ロスの原因と対策  
三木 彰馬 キャッシュレス  
中川 千晟 スポーツにおけるプレッシャーによる影響

★胡 才乾 中米貿易問題の解明  
耳田 恵里花 なぜUSJが人気テーマパークになることができたのか

仁木 駿 日本のアニメが及ぼす影響とは

## 11組 利光教授

池光 章輝 これからの自動車産業の変化  
 重村 浩人 原子力発電の展望と課題  
 大野 裕香 日本におけるIR・カジノ開設による影響  
 安藤 菜穂 日本の食品ロスが減少しない理由  
 香山 瑛紀 着地型観光における地域活性化  
 青木 愛華 消費税増税とそれに伴う軽減税率とキャッシュレス決済のポイント還元制度の意義と必要性

武村 裕里 日本のキャッシュレス化は今後推進していくのだろうか

★石井 克樹 ドイツの労働方法を取り入れた日本の労働時間改革

廣田 星莉 スターバックスの実績と経営戦略～スターバックスは人気なのか～

大橋 健正 5Gがもたらす経済的効用

李 世真 日本における新たな教育政策

佐藤 太智 原子力発電所は無くすべきか

森山 詩遠 救急車の有料化について

水野 真紀 インターネット広告について  
 林 宇妮 中国におけるモバイル決済  
 佐藤 遼太郎 地方の若者の流出問題  
 溝渕 建太 TPPによる日本の影響  
 久岡 陽香 ファストファッションが経済に与える影響  
 図師 奈々美 なぜ、現在の音楽市場の売り上げは増加傾向となっているのか

中村 隼人 AIの発展による雇用の変化  
 崔 在佑 アベノミクスは日本の経済にどのような影響を与えるか



## 12組 厳准教授

高貴 萌音 言葉による心理変化—言葉が与える影響について—  
 今井 健斗 ラグビー選手の動機付けの実証研究  
 小田切 颯人 ヨーロッパと日本のサッカークラブチームにおける経営戦略とその比較分析

田川 遼介 中華人民共和国はソビエト連邦と同じ結末をたどるのか—政治的・経済的観点からの比較—

★平田 光希 インド社会における不可触民と江戸時代における穢多・非人の比較  
 雑誌 POPEYE に見る文化消費

高田 和季 日本のプラスチック問題とその解決策  
 高橋 萌里 人が得画に価値をつける基準—バスキアの魅力ととも—to  
 中川 優里子

田中 佑都 聴衆のニーズと日本でのヒット音楽の推移  
 西岡 沙耶 Instagramが消費行動に与える影響  
 藤井 颯志 マネジメントの視点から見るこれからの音楽業界の新しいアイコン

多田 悠華 「香り」が人々に与える影響  
 木村 翔 THE RITZ CARTON HOTELにおける経営戦略

橋本 知樹 中国から来た客寄せパンダが与える社会影響  
 山本 大輔 PPAPの流行の要因  
 山根 凜太郎 フリマアプリ利用者の消費行動の変化  
 梁 琰雯 日本と中国のシェアリング・エコノミーの発展現状の比較

池口 綾 「恋愛」がもたらす経済効果について  
 河村 希 消費者にとっての合理的な購買活動について  
 藤井 開斗 格闘技と武道について  
 出射 里咲 グローバル化と格差の相互関係  
 板敷 駿希 メンタルトレーニングを行うことによる運動パフォーマンスの向上について

山本 瑠香 SNSの普及に伴うアイドル産業の発展と衰退

## 13組 小川教授

★上田 昂輝 これからの英国の通商政策の予測  
 藤塚 陸空 橋下徹の実行力とは  
 半田 有里恵 社会の変化と未来の私の働き方  
 上田 楽 “はたらく”について考える  
 森田 唯 最終レポート  
 中野 誉志仁 韓国 行き過ぎた資本主義  
 宮崎 隼 5Gと私たちの未来  
 佐々木 優有 100円ショップが儲かるための工夫～ダイ  
 ソーから見るマーケティング戦略～  
 岡崎 綜太 日本人はなぜ英語ができないのか？  
 寺井 悠真 なぜビルゲイツは世界一の億万長者になれたのか？  
 小林 拓未 電気自動車と自動運転の未来とその対応  
 遠藤 翔 サッカーは世界最悪のビジネス～何故サッ  
 カークラブは儲からないのか～  
 杉本 安珠 マーケットデザインからの視点  
 石附 真実 身近な疑問が解ける経済学  
 速水 翼 スマートフォンは子供の教育と社会にどの  
 ような影響を与えているか

川田 唯人 日本のオリンピック開催の是非  
 藤原 悠太郎 最終レポート  
 下畦 紗弥 地震保険  
 小澤 将秀 「お金」消滅  
 村瀬 真央 第4次産業革命における地方創生  
 荻野 愛 活性化を通じたまちづくり  
 大島 将也 ガラパゴス化する日本  
 永利 陸斗 基礎演習最終レポート  
 金子 晋人 アメリカのスポーツがもたらす経済効果  
 佐々木 宙 ブラックボランティア



## 14組 秋吉教授

朴 徹淳 政策や指導を通して不登校は減らせるのか？  
 山本 敬太 不登校といじめに関しての考察  
 三戸 湧稀 日本人はなぜ英語が苦手なのか  
 金森 優華 2025年の大阪・関西万博は成功するのか。  
 飯田 歩 日本のゴミ問題  
 小谷 優宇 日本のリサイクル率の本当のあげ方と海外  
 との比較  
 小野 力矢 なぜ不登校になるのか、政府や学校の取り  
 組みとは  
 金野 隼人 自動車の交通事故と解決策  
 澤 昌磨 高齢者の交通事故増加とその対策  
 上田 亜希子 東京オリンピックは開催すべきか？  
 別所 優 2025年大阪万博は成功するか？  
 徐 永謙 中学生の不登校  
 三宅 菜月 2025年大阪万博は成功するのか  
 ★松井 直哉 2020年度リサイクル率目標値は達成可能か？

荻野 優菜 no！ 東京オリンピック開催  
 濱本 開 利益、不利益を考えた場合、東京オリンピッ  
 クは開催すべきか、開催すべきではないか？  
 養性 菜智 2025年の大阪万博は成功するかどうか  
 田島 優大 なぜ日本人は長年英語を勉強しているのに  
 英会話ができないのか  
 吉田 壮作 日本人はなぜ長年勉強しているのに英会話  
 ができないのか？  
 山城 智輝 これ以上市民でリサイクルは増やせるか？  
 高波 寛生 不登校（登校拒否）の原因・心理・支援  
 竹中 一翔 日本人はなぜ長年勉強しているのに英会話  
 ができないのか？  
 栗生 太陽 利益、不利益を考えた場合、東京オリンピッ  
 クは開催すべきか？  
 保田 泰誠 高齢ドライバーの尊厳

## 15組 高島専任講師

村松 大誓 スポーツの発展  
 石川 史也 コンビニエンスストアの24時間営業について  
 株本 咲 喫煙を見つめ直して  
 園田 隼太郎 5Gのビジネススタイル  
 ★中川 竣斗 「自動運転」が生み出す新たな可能性  
 和田 颯一郎 アメリカンフットボールのプロ化は可能か  
 市川 綾華 日本の菓子の変遷  
 中村 秀磨 東京オリンピックの行方  
 神田 浩平 なぜ日本の学生は本を読まないのか  
 山口 侑希 日本食の海外展開について  
 峯 愛美 捕鯨の必要性・意義について  
 秋葉 勇二 睡眠の大切さ  
 吉野 蒼汰 GAFAの世界への影響力またブロックチェーンの存在  
 千田 海希 空き家問題の要因や対策  
 桑原 圭汰 憲法改正への意識変化  
 山田 昇太郎 太平洋戦争時の兵士達の餓死の実態とは  
 小林 蒼衣 キャッシュレス決済について

吉田 一貴 ブランド構築  
 塚本 甲弥 「本当に近い国」へ  
 花井 和司 健康経営について  
 前田 淳奈 アニメについて  
 岡本 昂大 消費税の正体  
 齋藤 昂 人口減少問題



## 16組 田教授

竹中 菜々海 本当の待機児童ゼロの実現に関する現状と対策  
 佐宗 すみれ 日本における中高教員の労働環境改善に向けて  
 北川 璃子 ビートルズが世界に与えた影響とは  
 魚住 みなみ トヨタとホンダ—中国進出から比較する—  
 羽田 佳乃 外国人労働者と共生するためには  
 吉田 伸 フェイクニュースの拡大  
 森本 千晴 犬猫の殺処分対策について—日本とドイツの比較を通じた解決策—  
 石 蘭 野菜ジュースについて—消費者が買う要因と実効的な効果—  
 小松 龍之介 日本の社会的格差はどのように変化しているのか  
 前田 篤志 生分解性プラスチックでプラスチック問題は解決するのか  
 赤間 階冬 令和元年7月九州南部豪雨による被害と防災対策

宮井 陽菜里 日本の少子高齢化の現状と対策  
 梶田 翔太 音楽産業のこれからの行方  
 小池 杏侑 日本の女性労働の現状—アメリカの女性労働と比較しながら—  
 有田 昂平 最低賃金のこれから  
 菊池 和登 イギリスのEU離脱の背景と影響  
 安井 康太郎 ひきこもりと不登校問題  
 岩田 直弥 マリファナの真の怖さ  
 中前 拓海 子どものスマホどこまで制限するか  
 高橋 慎太郎 AIによる自動運転の実現に向けて  
 吉川 由真 環境経営が企業へ与える影響  
 大北 葉月 大学入試制度—世界の入試制度と日本を比べて—  
 ★川乘 涼生 米中経済と日本への影響  
 野原 香音 遣伝子組み換え作物の論争はなぜ続くのか  
 卜部 佑飛 経営学について

学生氏名・論文タイトルの順に掲載しています。★印は優秀論文です。

## 17組 趙教授

藤村 泰臣 ヒット映画要因分析  
 竹田 祐也 マルチ商法は悪なのか  
 川崎 将吾 キラキラネームの是非  
 原田 ひより モスバーガーキセラ川西店が売れる理由と今後の考察  
 中田 雄斗 スポーツにおいてホームはなぜ強いのか  
 金關 翔大 AI がもたらす社会  
 赤坂 希望 ランドセルはこれからも使われ続けるのか  
 山崎 涼太 たばこの存在価値  
 ★阪井 美友 ユニクロの成長と人々の関わり  
 若林 宏樹 AI 社会の中に生まれるところ  
 西村 咲乃 タピオカ人気の理由  
 松竹 孝輝 将来残る続ける職業と消える職業の違いとは  
 貞森 葉月 進化する缶詰めのカラクリ  
 小川 結 動画投稿サイトは日本のメディアにどのような影響を与えるのか  
 原田 将太郎 クールジャパン政策は今後、日本の経済政策に良い影響を与えるのか

石堂 泰基 なぜラグビー W 杯は成功したのか？また如何に日本のラグビー普及につなげるか。  
 森口 悟志 「プレミアムフライデー」が社会に定着していないのはなぜか？  
 高瀬 龍司 人口減少が我々に及ぼす影響とは？  
 田中 美咲 なぜ人はネット依存になるのか  
 林 昇炫 日本の教育格差の状況について  
 喜多山 穂香 プロ野球の観客動員数が増加し続けているわけ～横浜 DeNA ベイスターズの事例～  
 坂田 伊織 万博とは一体何なのか  
 林 廉 AI の発達に伴う社会構造の変化（携帯の普及によるコミュニケーションの低下）  
 荻原 翼 サッカーチームの経営  
 山崎 貴之 自然災害と経済



## 18組 カオ専任講師

神澤 瑠璃 サマータイムが国民に及ぼす影響～睡眠と健康～  
 岡 尚吾 経済発展と環境保全は両立できるのか～中国のモデルを考える～  
 福村 悠渡 スポーツと経済～スポーツとこれからの社会～  
 前西 将宏 日本の消費増税の歴史とその影響～増税のメリットとデメリット～  
 早川 暁大 EU で起こっている移民問題は政治・経済にどのような影響を与えているのか  
 上田 勇輔 日本が誇る「温泉文化」の有効活用～裸の付き合いをもう一度日本中～  
 大内 美月 地域政策と地域の活性化  
 西野 るな 銀行業界の現状と将来  
 林 民泰 塾の流行から引き起こした教育の機会の不平等問題  
 原田 英和 救急車の有料化と日本における財政問題  
 早瀬 泉綺 香港デモの経緯と今後について  
 和田 陽太郎 サッカーというスポーツが与える経済効果

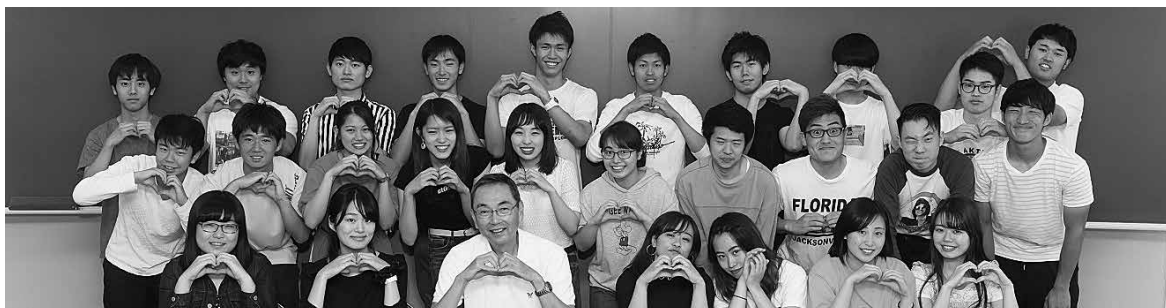
金銅 和希 スケートボードと東京 2020 について  
 山中 知奈津 インバウンドが日本にもたらす経済効果～日本の未来は果たして～  
 新田 雄飛 日本の投資信託の現状と今後の課題  
 奥村 太郎 日本のアイドル文化～ブームをおこしたのは秋元康～  
 佐々木 光春 IoT のメリット・デメリット、今後の見通し  
 崎坂 翼 日本における e スポーツの現状について  
 中島 暉人 知的障がい者の雇用の現状と今後の展望  
 ★古謝 文哉 沖縄県子どもの貧困化～脱貧困化に向けて現状の考察と対策計画～  
 森下 智彩 「笑い」がもたらす健康効果  
 ディーガン ジャック大樹 川端康成と日本の美  
 福島 祐太郎 EU 離脱で混迷を極めるイギリス経済～イギリスの課題～  
 稲田 優花 茶道の国内外の活動について



## 19組 大高教授

高田 弥生	日本で少子化が進む理由
榎本 祥太	現代資本主義と食品ロス
藤原 美月	現代資本主義社会における食品ロス問題
亀井 大智	現代資本主義と技術革新
坂本 一晟	過労死
高月 真帆	AIの進歩による資本主義社会の変容～ベーシックインカム導入は可能か～
小西 梨香子	年取と格差社会
小濱 千怜	資本主義とスポーツ
山川 友綱	YouTubeと資本主義
松田 恭輔	外国人労働者の雇用とAIの活用は日本の少子高齢化の問題を解消するか
畑 翔斗	スポーツと経済
森田 拓樹	資本主義文化による格差
稲葉 俊貴	マンガ経済
★松岡 詩歩	現代資本主義文化の本質を考える
北川 喬章	アイドル資本主義の戦略と構造

北澤 愛	資本主義社会においてAIによってもたらされる影響
山中 秀馬	日本の労働生産性と世界との比較
井上 正崇	日本社会における男女格差
大野 龍史	現代資本主義の特徴
江 山	信用社会の現状と今後
小西 宏明	資本主義の安定性とは
竹内 隆登	サッカーJリーグから考察する現代資本主義
堀 敬貴	水泳と経済
稲野 和輝	グローバル課税の導入により世界の経済格差は縮まるのか
岡島 温希	サッカーが与える影響
永田 唯華	現代の日本の資本主義経済が生み出す負のスパイラル～教育格差と所得格差～
的場 涼	スポーツと格差・不正問題



## 20組 増永教授

奥田 大介	ウォルト・ディズニーの理念—アメリカンドリーム—の体現者
宇仁 柊一朗	起業を通して見るアメリカ
寺川 萌香	農業から見たアメリカ—アメリカ農業の経営戦略
久米 あゆみ	健康から見るアメリカ—医療保険改革制度は正しかったのか
岩田 結衣	危険が一杯！—アメリカからの輸入食品
長谷川 朔也	畜産から見たアメリカ
福田 凜太郎	健康から見るアメリカ—食生活から紐解くアメリカの国民性
後藤 亮平	健康から見るアメリカ—肥満の現状と対策
濱本 杏奈	YouTubeを通して見えてきた現代のアメリカ社会とは
横田 慶明	アメリカの余暇と労働
曹 秀旻	教育から見るアメリカ—何故アメリカは日本より卒業が難しいのだろうか
垣内 拓馬	教育から見たアメリカ—教育認識が起こす影響
川崎 えりか	企業から見るアメリカ—GAFAについて

大塩 佳正	農業から見たアメリカ—遺伝子組み換え農業の広がりから分かるアメリカの今
★山本 佳奈	教育から見るアメリカ—“機会均等”は建前なのか？
真崎 純奈	買い物大好きアメリカ人—なぜアメリカ人は大量に消費するのか
上田 瑞葵	ウォルト・ディズニー—成功の秘訣
安原 猛恭	アメリカの治安—より良い社会の創造へ
土橋 由大	余暇の歴史からみたアメリカ
中村 吏緒	ウォルト・ディズニーの成功の秘訣
久保田 雅貴	農業から見たアメリカ—農業の違いから見えてくるアメリカの狙い
辻本 大祐	YouTubeからアメリカと経済を見る
福井 萌々花	農業から見たアメリカ—食の背景

## 21組 小林教授

中野 有理	アイドルオタクによる消費行動
合田 藍人	インターネットゲーム依存症が身体・社会に与える影響
★松本 淳輝	男女の所得格差から見るこれからの行動
山田 龍一	ロックフェスティバルによる地方への経済効果
松村 海斗	オタ経済
藤本 優樹	キャッシュレスの拡大
山中 寛幸	FIFA ワールドカップによる経済効果～2002年日韓ワールドカップと2018年ロシアワールドカップの経済効果の比較～
李 在益	キャッシュレスに伴う経済効果
高野 拓海	5Gによる新たなビジネス
國頭 愛	プライダル市場が抱える問題
小西 遼弥	逆進性とその緩和策
上杉 美咲	世界文化遺産・大仙古墳の経済活性化のために
清水 大生	野球の経済効果
廣瀬 龍弥	マンガの今とこれから

西森 隆人	猫の与える経済効果
松井 洸平	ビットコイン (BTC) の無限の可能性
加賀 誠人	ラーメン屋さん生き残り戦略
松村 美沙希	モバイルゲームが普及した現代とこれからの家庭用ゲーム機～家庭用ゲーム機をヒットさせるためには～
石原 嵩大	電子マネー社会におけるクレジットカードの必要性
大西 萌絵	100円コーヒーが出てきた今、喫茶店やカフェが生き残るためには～どのようなカフェを消費者は求めているのか～
牛尾 海	なぜNFLの経営システムが優れているのか
田中 志歩	低価格外食チェーン店の価格と経営戦略
占部 雄軌	スニーカー市場の経済効果
山口 里奈	EC化による経済効果～オムニチャネル戦略とは～



## 22組 殿准教授

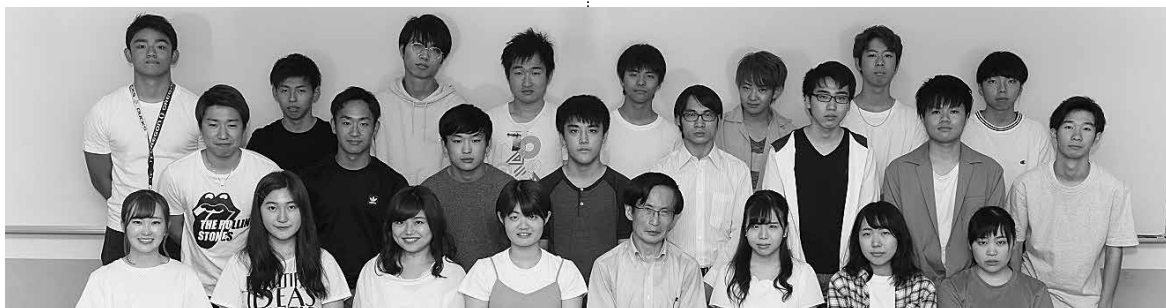
庄 晋一郎	チケットの高額転売における実情について
丸岡 史弥	日本の食品ロス問題
一貫田 裕貴	チームスポーツにおける強豪チームと弱小チームの練習の比較
菅村 悠里	終末期を迎えた患者とのコミュニケーションにおいて医療者のあるべき姿
★奥野 広大	日本の「伝統」からみる伝統と因習の境界
細川 大翔	日本におけるサッカーと野球の文化・人気の違い
大出 壮太郎	インターネットが人々に与える影響
佐治 宗一郎	理想の指導者になるための人を取り込む方法
松山 カノン	日本とアメリカでの教育制度の違い
蒲田 怜央	「春琴抄」の真犯人について
★平山 湧喜	関西圏出身ではない大学生における関西弁に対する意識
小牧 真輔	東京オリンピックを開催するに際しての経済効果—主に国内での影響—
竹中 実咲季	日本の税金制度の欠点、解決すべき点とは

藤森 菜々子	親の経済的格差による子供の学歴の格差とその対策
森下 大輝	深夜に営業するお店はなくなってしまうのか—24時間営業はなくなってしまうのか—
芝本 尚暉	大手広告代理店のインターネットへの広告媒体の変化がもたらす利益と私たちの生活における影響について
原田 樹一	日本とスウェーデンにおける待機児童問題の比較研究
入江 梨花	ファストファッションが抱える問題—「早くて安い」の裏に隠された現実
松谷 大紀	日本における英語教育
岩槻 ひなの	日本における英語教育とその考察
孫 志遠	高齢者ドライバー問題における日本と韓国の比較
岡林 龍太郎	日本と海外の構造面における年金制度の比較
西川 美波	英語と日本語の敬語表現
牧野 有華	相対的貧困についての論文

## 23組 井口教授

奥中 大嘉 地方創生 若者が住みなくなる地域とは  
 呉田 穂乃花 外国人労働者を取り巻く諸問題について  
 熊 農 AIは人々の仕事を奪うのか  
 山内 利観 農業と技能実習生及び外国人労働者  
 田之上 勇翔 オリピック開催に伴う開催国内の変化は  
 どのようなものか  
 三宅 晴大 労働市場の構造変化と外国人労働者政策の  
 方向性  
 葛谷 慎太郎 日本で働く外国人労働者  
 小林 龍斗 外国人労働者の受け入れ方  
 堀内 祥平 日本市場における雇用ミスマッチ発生原因  
 及び対策  
 本川 竜 外国人労働者の受け入れについて  
 吉原 里菜 地域社会の未来  
 沖 咲良 ラグビーとは  
 佐保 健太郎 日本経済と感情価値  
 鎌田 凌太 日本の人手不足  
 徳田 梨央奈 少子高齢化社会について

野村 祐斗 人口減少がもたらす様々な問題  
 岸岡 明日香 これからの働き方  
 金谷 菜楓 これからの世代が生きていく問題点  
 上野 弘成 晩婚化と出生率の低下  
 山口 若菜 少子化の現状と対策～女性と社会の関わり方～  
 徳永 陽介 仮想通貨について  
 青木 優和 環境汚染は私たちの暮らしにどのような影  
 響をもたらすのか  
 渡部 蒼大 日本の未来をどうするか  
 ★梁 錦俊 激突する米中貿易摩擦



## 24組 小林教授

中田 絢巴 地震が起こす経済影響  
 稲田 真子 KPOPの経済戦略  
 小川 史穂 日本のキャッシュレス経済の動向  
 増家 圭 嵐が及ぼす経済効果  
 美濃羽 紗世 つくる責任つかう責任～SDGsから考える  
 食品ロス～  
 久胡 壮生 日本バスケットボール産業の現状と今後の展望  
 大田 航平 なぜアメリカで銃の規制が進まないのか  
 島山 秋生 プロ野球の経済効果  
 本島 仁乃 フロイド・メイウェザー・ジュニアのファ  
 イトマネーはなぜ高額なのか  
 筒井 洸士郎 日本の自動車産業はどのような方法で発展  
 していけばよいのだろうか  
 蔡 定炫 日本の映画館と映画産業の問題と考察～韓  
 国との比較から～  
 田淵 凜太郎 兵庫県の消費行動について  
 北奥 優芽 ファストファッション市場で生き残るブラン  
 ドとは

松井 萌香 現代の少子化対策とは  
 長谷部 朋香 ブライダル業界にAIは参入可能か  
 ★神野 翠 男性の育児支援は少子化対策として有効か  
 酒井 彩菜 ふるさと納税返礼品問題について  
 齊藤 泰世 北陸新幹線開業による石川県への影響  
 渡辺 莉子 読解力低下と書籍の経済  
 熊谷 有起 煙草がもたらす経済効果  
 南 駿介 資本主義経済と社会主義経済はどちらの方が  
 幸せになることができるのか  
 中谷 早希 2019ラグビーワールドカップの経済効果  
 について  
 大西 凌太 スマートフォンが消費者に与える影響  
 菊田 陽香 ソーシャルキャピタルから考察する過疎地  
 域の現状と今後の展望

## 25組 松枝教授

明保能 弘翔 スマホ依存症  
上田 雅人 なぜ「名選手、必ずしも名監督に非ず」なのか  
森 夏穂 ロックスターの寿命と社会への影響  
津守 壮大朗 イップスについて  
日暮 龍之介 ユマニチュードの有効性と認知症患者のヘルスケア  
大室 充央 スポーツ業界の盛り上がり  
藤本 樹林タウン 国際化による堺市活性化計画  
青木 龍大 開発途上国の教育について  
大久保 菜々子 体育会と就職活動の関係性  
妹尾 尚吾 日本バスケットボール業界の経済効果について  
永尾 友希 ゆるキャラの実態について  
森井 啓之 塾講師のアルバイトにおける仕事量の格差問題  
平野 華琳 夢のメカニズム  
岩本 拓真 地方でカジノを誘致したときの影響

中村 真理亜 犬派と猫派による癒し効果・恋愛傾向の違い  
★坂入 楓花 子供にしか見えないイマジナリーフレンドとは  
南海 真帆 ペットボトルのお茶について  
小松 稜梧 野球人口の減少について  
林 優希 ディズニーが愛され続けられる理由  
本多 莉子 なぜスターバックスは人気なのか  
後藤 研志郎 サッカー選手の相対的年齢効果  
芦田 直人 サーフイン界のレベルが昔に比べ上がったのはなぜか  
陳 家鈺 日本はこれから消費税を増税し続けるべきか  
影井 和騎 シティ・ポップの再燃とJ-popのこれから  
栄坂 祐輔 自転車の地位が向上すると日本にどのような便益があるのか



## 猪野 弘明ゼミⅡ

## 経済学士力

募集時に掲げた本ゼミの目的は「経済学の理論と応用を勉強し、経済学的思考力を身につけた人材を輩出する」「その証として卒論を書く」ことであった。そこで、経済学的なものの見方を実践して卒業論文を作成できたかという独自基準で、毎年、成績とは別にゼミ全体の経済学士力を測っている。結果、この学年の経済学士力は58%であった。去年度の38%と比べても高く、卒論が必修だった時代の63%にさえ迫る高水準となった。原因としては、今年は途中で卒論作成を辞める者が少なかったことも挙げられるが、多くのゼミ生が当初の目的を忘れずに勉学を積み重ね、コツコツと卒業研究を進めてきた結果であろう。大学生活を自身の研究で締めくくろうと頑張った学生は、真の「経済学士」である。最後に、今年の卒業研究は、猪野ゼミ自体にも有益な面白い内容に溢れていたことに、お礼を言いたい。優秀論文「高齢者限定免許」は最新の時事問題に見事に経済学的に答え、これと最後まで優秀論文を悩んだ次点の「転売におけるスクリーニング」は新しい経済理論となり得るアイデアを提示していた。また、「マイクロファイナンス」と「収入同値定理」は、それぞれサーベイ論文・実証論文として、後のゼミ生のお手本になると考えられる。

## 卒業論文一覧

宮地 祥太	ソーシャルゲームの理論的分析
三宅 真由	転売と流通について
米澤 佳伊	混合寡占市場で捉える郵政民営化
諏訪 航大	マイクロファイナンス理論
内田 成美	リニア中央新幹線建設を巡るJR東海と静岡県 の対立～コースの定理を用いて分析～
中山 七海	チケット転売におけるスクリーニング活用
★伊崎 陽一郎	高齢者向け限定免許の導入に関する費用便 益分析
松本 久輝	マクドナルドとモスバーガーを二次元差別 化モデルを使って考察
山下 真司	スニーカー転売市場における収入同値定理 の実証
小川 公大	私立中学校・高校設置の要因分析

## 秋吉 史夫ゼミⅡ

## 4期生のみなさんへ

卒業おめでとうございます。4期生のみなさんが、こうして卒業の日を迎えられたことをうれしく思います。

みなさんには授業だけでなくさまざまな課外活動にも取り組んでもらいましたが、しっかり頑張ってくれました。特にゼミ生全員が各チームに分かれて取り組んだビジネスアイデア・コンテストでは、丸尾君・昇君・矢倉君・山田君・北田君のチームが二次審査に進むという結果を残すことができました。このビジネスアイデア・コンテストへの挑戦はこれからも後輩のゼミ生に引き継がれていくと思います。

またゼミ合宿(滋賀高島、京都大原、和歌山加太)、同志社大学との合同ゼミ、ゼミ縦コン(思いがけず誕生日を祝ってもらい、嬉しかったです)は、私にとって思い出に残るイベントです。世話役を務めてくれたゼミ役員のみなさん(松本さん、岡野君、坂本君、丸尾君、雪本さん、大藪君)、参加して盛り上げてくれたみなさん、ありがとうございました。

卒業論文では、企業の財務データを分析し、企業価値を推定する研究に取り組んでもらいました。どの論文も、みなさんの成長が感じられる良い論文に仕上がっていました。

では、さらに成長したみなさんに会えることを楽しみにしています。お元気で!

## 卒業論文一覧

西川 眞子	森永製菓株式会社の企業価値評価(共著論文)
★岡野 晃大	東レ株式会社の企業価値評価(共著論文)
★鄒 存洋	東レ株式会社の企業価値評価(共著論文)
北田 康平	富士通の企業価値評価(共著論文)
松本 和香	株式会社資生堂の企業価値評価(共著論文)
坂本 大雅	アサヒグループホールディングスの企業価値 評価(共著論文)
古本 萌	森永製菓株式会社の企業価値評価(共著論文)
佐々木 裕也	東宝株式会社の企業価値評価(共著論文)
増田 音織	東宝株式会社の企業価値評価(共著論文)
大藪 将貴	東宝株式会社の企業価値評価(共著論文)
丸尾 涼太郎	富士通の企業価値評価(共著論文)
矢倉 嵩士	三越伊勢丹の企業価値評価(共著論文)
永業 真平	三菱商事の企業価値評価(共著論文)
山田 翔太	三越伊勢丹の企業価値評価(共著論文)
昇 祐樹	三菱商事の企業価値評価(共著論文)
藏本 披慧	セブンイレブンの企業価値評価(共著論文)
雪本 和花	株式会社資生堂の企業価値評価(共著論文)
志田 菜月	株式会社資生堂の企業価値評価(共著論文)
砂川 礼央	セブンイレブンの企業価値評価(共著論文)

## 加藤 雅俊ゼミⅡ

### ゼミ4期生：総括

卒業論文を執筆された皆さんお疲れ様でした。「研究」はしんどい。自ら問いを立てて、それに対して自ら何らかの答えを出すというプロセスは時間や忍耐を必要とする。最後まで諦めずに何とか形にするという意味での「忍耐力」が少しは養われたと信じています。

卒業に必要な単位を揃えて就職することだけを目標にするなら、大学で学ぶ意義はほとんどないと考えています。大学では学ぶ姿勢や学び方を体感し、今後の人生における様々な場面での「学習」へと繋げてほしいと思っています。その意味では、卒論執筆というすぐには役立たない、効果としては目に見えにくい学習を通して得られるものは小さくないはずです。

卒業（できていれば）おめでとう！心身ともに健康第一で、ご活躍ください。

### 卒業論文一覧

大谷 康剛	事業多角化が企業価値に与える影響に関する実証分析
吉田 真名	労働者の個人属性が自営業者と被雇用者間の転職に与える影響
津山 健司	事業多角化が企業価値に与える影響—化学工業を事例として—

## 上村 敏之ゼミⅡ

### 上村ゼミ 10 期生に贈る言葉

今年1月の最後のゼミで、ゼミ生の皆さんには、2年半のゼミ生活を振り返り、言葉を1人ずついただきました。教員である私には、見えるところと、見えないところがあります。私には見えないところでも、皆さん1人ひとりが、ゼミについて楽しんでたこと、悩んでいたことを、皆さんの言葉から伺うことができました。

最後のゼミでは、感極まって泣き出すゼミ生もいました。皆さんにとって、上村ゼミは「コミュニティ」であり、居心地の良い「居場所」だったのでしょ。この「居場所」こそ、皆さんの大学での最大の収穫だと思います。

仕事上の友人と大学の友人は決定的に違います。大学の友人は卒業しても一瞬で学生時代の関係に戻れます。仕事とは無縁だからこそ、つながる価値が高いのです。この真の意味は卒業してから分かると思います。

そのようなコミュニティの持続には努力が必要です。是非とも、貴重な上村ゼミというコミュニティを持続させてください。新年会ではお互いの成長を喜び合いましょ。上村ゼミの「居場所」は、10期生だけでのものではありません。ぜひ、皆さんの「居場所」を、先輩と後輩を通した縦の「居場所」に拡張し、豊かな人生を送ってください。

ご卒業おめでとうございます。

### 卒業論文一覧

幸泉 愛美	心理がもたらす経済効果
小山 麻衣	過疎地域のまちづくりを考える
岩崎 杏花	ファッション市場と価値観の変化
赤田 大輔	キャッシュレス社会の現状と日本に定着させるには
切通 基晶	行動経済学的観点をういた特殊詐欺の防止法
岩満 春菜	キャラクターマーケティングについての研究
蓮佛 幸輝	日本食の経済効果
和田 佳代子	日本の食品ロスの削減
樋口 和哉	ネットショッピングがもたらす経済効果：BtoC-EC 市場の物販系分野の視点
中島 悠介	日本におけるスポーツビジネスの現状
藤塚 雄己	人材価値と日本の就業形態
西垣 圭	広告業の歴史と今後
中野 敦子	その服はあなたにとって幸せなのか：ファッションの業界の現状とこれから
杉山 貴美	テーマパークが与える経済的影響
★山井 莉那	地方創生：若者が戻りたい街とは
辻 隆之介	若者の幸福度についての調査：20～30代の幸福度について
福森 翔	マリファナ合法化の是非：経済や財政への影響を考慮して
山本 康平	商社業界が日本に与える経済効果
眞下 莉子	オリンピックの経済効果
中島 百香	日本人の幸福感を高める要因
妻鳥 幹大	総合商社が日本にしか存在しない理由
奥田 真衣	ペットビジネスの課題と改善
香山 朋花	我が国のホームレスの政策支援と諸外国の政策
石原 惠理	聖地巡礼と地域活性化

## 國枝 卓真ゼミⅡ

### 國枝ゼミ3期生のみんな、卒業おめでとう

現在緊迫した状況下にある香港城市大学（CityU）から関西学院大学に移ってきて5年目を過ごし、國枝ゼミも3期生が卒業するところまで来た。CityUと関学の学生のレベルはほとんど変わらないが、経済学に対する貪欲さは関学学生のほうが弱いかと思う。これは、香港の学生は大学での成績がもろに就職に影響することが原因なのかもしれない。國枝ゼミ3期生もポテンシャルの高い学生が数人いたが、様々な状況下、本格的な経済学をなかなか指導できなかったことは悔やまれる。年に一人くらいは専門家を目指す学生が出てこないかなと思っているのだが。ゼミ生には、早い時期に自身で「研究の問い」を立ててもらい、二度三度と中間報告をしてもらう。その中でディスカッションをして研究の完成度を高めてもらう。何のことはない、このプロセスは、ほぼプロの研究者もたどるプロセスだ。論文自体は何の制約も課さずに、自由に書いてもらう。そのため、経済学からは程遠い論文も出現するが、それでも面白かったらまあいいかと、よしとしている。今年も個性的な卒業論文がたくさん出てきた。優秀論文はアパレル産業を詳細に分析した瀬野尾論文に決めた。國枝ゼミ3期生のみんな、卒業おめでとう。

### 卒業論文一覧

中野 智貴	脱炭素化と日本の今後
森永 耕ノ介	ジェネリック医薬品の使用促進と2020年推測
★瀬野尾 安紀子	ファストファッションとラグジュアリーブランドを成功に導いたそれぞれの戦略
谷村 智	映画産業による地域活性化
池下 晴紀	老後に向けての資産形成
三浦 玲実	SNSと経済効果の関係性
中辻 俊太郎	家計における通勤コストと家賃の関係について
婦木 健生	日本アイドル史とアイドルの在り方
日比 皓介	喫煙と経済について
四宮 捷平	首都圏空港におけるハブ機能と羽田空港・成田空港の共存可能性について
繁田 尚美	ブランド力とは
井村 公俊	由利公正と明治維新

## 韓 燕麗ゼミⅡ

### お疲れ様でした！

教員不在のゼミで、皆さんよく頑張ったと思います。集中講義は大変だったでしょうけれど、教員自身の経験からすると、卒業してから十数年ないし数十年も経つと、覚えているのはこのような大変かつイレギュラーなことばかりです。ゼミ活動が少しでも関学で勉強した四年間の思い出になれば幸いです。とくに最後まで粘り強く頑張って卒論を提出したお二人、関西学院大学・経済学部史上「唯二無三」の映画関連の卒業論文に、ブラボーです！

### 卒業論文一覧

道中 祥馬	来るべき未来を視覚化すること——スピルバーグのSF映画作品に描かれる虚構の世界
藤原 雅史	1998年以降に公開されたインド映画——そのスタイルの魅力と人気について

## 栗田 匡相ゼミⅡ

### My endless Love to K6

運命という言葉をもとに大気に震わせるとき、何故か君たちのことを強く意識してしまうのは、人が生きるということの全てを君たちと共有できたからなのだと強く思うのです。セネガルの農村で少女が天に召されたときに同じ村内の大気の震えの中にいた僕たちは、つながるということに必要な物理的な距離の重要さとつながりの無意味さを同時に知り得たのだと思います。その無意味さ故に我々は合理的な無関係を選び、誰に対しても開かれていない嘆きをまき散らします。世界はそうしたうめき声によって満たされてしまっているようです。でも君たちは敢えて運命の中に踏みとどまっています。それはどこかで極めて愚かな行為として語られますが、僕たちが運命から立ち去ることをあの少女やセネガルのテランガは許してくれないでしょう。運命とは自らで受け入れ、意志によって描き、伝えられるものです。冷たい事実ではなく、あたたかな物語として、君たちの運命を生ききってください。運命を覚悟した君たちのような人間同士の邂逅から世界は新しく生まれ変わります。だから君たちと出会えて僕は本当に幸せでした。愛を希望をありがとう。

### 卒業論文一覧

寺川 楓	日本働く外国人労働者(技能実習生)の異質性が健康度に与える影響
田仲 悠介	外国人労働者の社会関係資本が幸福度や会社での満足度に与える影響～奈良県の事例を用いて～
阿部 優志	バリ島のビーチベンダーにおける情報ネットワークの利用が個人収入の安定性と向上に与える影響
佐藤 亜美	バリ島における日本人観光客の現地理解度が形成する、旅行目的地への愛着が満足度に与える影響
向井 里於	ラオスの中等教育における教師の対人行動が生徒の学力に与える影響
荒井 友理	マダガスカル農村におけるネットワークがコメの市場価格と取引価格との乖離に与える影響
小出 将宏	家計資本が消費平準化に与える影響 - マダガスカル農村の干ばつ被害を事例に -
平山 励	ケニアにおけるチーム成果連動型インセンティブ賃金が企業の生産性に与える影響
竹島 梨紗	ラオスの中等教育における保護者の学校への信頼が子どもの学習成果に与える影響
中島 宇将	夫婦間交渉力が家計の脆弱性に与える影響～インドネシアデータを用いて～
村上 絢音	セネガル農村における多次元貧困の実態と幸福度との関連
岡本 千裕	ラオス日系企業における労働生産性とパーソナリティの関係について～Big Fiveモデルを用いて～
★金澤 昂季	インドネシア零細企業におけるパートナーシップが信用制約緩和に与える影響
岩谷 桃佳	労働集約型工場におけるインクルーシブリーダーシップが従業員の非認知能力に与える影響～ラオス日系企業の事例を用いて～

## 國濱 剛ゼミⅡ

### 國濱ゼミ1期生へ

ご卒業おめでとうございます。ゼミが始まってから2年半、あっという間に過ぎた気がします。私の教員生活で初めてのゼミだったので、教材や進行方法などで試行錯誤を繰り返しながら進めてきました。今振り返れば、ああすればよかった、こうすればよかったという思いは尽きませんが、皆さんの書き上げた卒論を読むと、各々が自分なりに統計分析を行い、結果の解釈に取り組んでいる様子を感じられ、ゼミ生の知的活動の一助となるという役割は多少なりとも果たせたのではないかとホッとしています。

卒業後は仕事やプライベートなどあらゆる場面で、これまで以上に自分で考え、方向性を決め、行動に移すことが求められると思います。私自身も悪戦苦闘しながら毎日を過ごしている中で偉そうなことは言えませんが、その際には、長期的な視点を持って知識を増やし、知性を磨き続けることが大きな助けになると信じています。これからの長い人生で皆さんが充実した日々を過ごせることを願っています。

最後になりますが、将来成長した皆さんと再びスタバのコーヒーでも飲みながらお話しできることを楽しみにしています。

### 卒業論文一覧

盧 功耀	短期為替の変動による銀行株の価格変動
宮澤 真穂	消費者価値観がCMに与える影響
古家 和泉	特定の消費者グループへの広告効果に影響を及ぼすテレビCMの特徴～日本のお茶市場へのCM戦略の提案～
上野 文照	消費支出と貿易の関係性についてのデータ分析
辻 修平	賃貸住宅価格の価格決定要因の推定～甲東園駅周辺の学生賃貸住宅を事例として～
西濱 尚幸	広告効果の要因分析とテレビCMとの関係性
藤田 裕介	テレビCMにおける飲料の広告効果とその要因分析
駒田 佑太	都道府県別マクロデータを用いた全国学力・学習状況調査の分析
松下 恒一郎	飲料の広告効果について
西原 菜々	テレビCMと消費者行動に基づくマーケティング戦略
★西尾 春香	外国人人口増減率と都道府県の持つ特性との関係性



## 古澄 英男ゼミⅡ

## 三期生の皆さんへ

ご卒業おめでとうございます。毎年思うことですが、研究演習入門で初めて会ってから、あっという間に二年半が過ぎていったという感じがしています。

この学年のゼミ募集は、一次募集でゼミ生が全員決まり、二次募集をしないという自分にとっては初めてのケースでした。また、留学生を受け入れたのもこの学年が初めてでした。ゼミの運営では皆さんにいつも迷惑をかけたと思います。また、本来ゼミでは、教員が学生に対して色々なことを教えなければならぬのですが、逆にこの二年半は皆さんから沢山のことを教えてもらいました。感謝するとともに、皆さんから学んだことを次のゼミ活動に活かしたいと思います。

ゼミ三期生は、「我が道を行く」というタイプの人が多く集まったと思います。卒業後はそれぞれの道を歩まれますが、新しい場所でも自分らしさを失うことなく我が道を突き進んで行ってほしいと願っています。いつでも気軽に研究室に立ち寄ってください。

## 卒業論文一覧

- ★古性 孝陸 海洋プラスチックに起因する環境汚染問題における解決への実現性
- 吉村 卓也 「ラクロス」と呼ばれるスポーツにデータを活用したときに得られた有用性について
- 畑中 皓貴 どのようにして強いチームは生まれるのか—帝京大学、関西学院大学から見えるもの—
- 松井 克彰 少子高齢化問題
- 木下 滉士 なぜ日本は先進国の中で一番少子高齢化が進んでいるのか

## 桑原 秀史ゼミⅡ

## 経済政策の奥深さを求めて

私たちのゼミは、日本経済と経済政策をテーマに、合同ゼミを始めとする諸目標をもって、活発に勉学し、友達同志の交流を図ることに努めた。情報メディア教育センターを利用した統計や計量分析のデータ処理の実習は、今後、有用かつ実践的な技術となることでしょう。情報センターでの学習から始まり、世界とアジア経済の動向、中国経済とマーケティング、流通と産業組織の研究、公益事業の企業戦略と競争政策、今後の社会保障のあり方、企業経営のケース・スタディなどを取り上げ、充実したゼミ生活であった。

とくにブランド・マーケティングの市場調査をめぐる勉強は、関心の深い、実践的なものであった。合同ゼミナール、課題レポートの提出、工場見学など、多くの有意義な時間をもつことができた。なかでも、京都河原町での発表、洛中でのディベート、烏丸東洞院通りでの夏季合宿などは、思い出深いものでしょう。阿弥陀堂、奥の院など連なる堂塔の建築美が山あい映え、貞観のころからの日本の伝統の美しさと経済政策のあり方について、語ったことを思い浮かべるであろう。

将来、ゼミナール諸君が、大きく羽ばたくことを祈って、「[春風 江上(こうじょう)の路 覚えず 君が家に到る]

「[春風 江上(こうじょう)の路 覚えず 君が家に到る]

## 卒業論文一覧

- 森 恵倫子 AIミラー導入によるインバウンド収益の増加
- 高木 俊隆 EVへの新規参入—EV化により参入障壁は下がるか—
- 黒田 涼子 ニトリの現状と課題—32期連続増収増益に迫る—
- 久保 篤史 食品メーカーにおける戦略
- 森 里咲 日本の少子高齢化問題による人手不足を移民政策で解決できるか
- 上山 紗佳 日本とアメリカの貧困について
- 福戸山 叶恵 日本の少子高齢化問題による人手不足を移民政策で解決できるか
- 高橋 陸 CASE時代におけるサプライヤーの生存戦略
- 高島 由衣 日本とアジアの生命保険業界について
- 増田 靖子 企業が動かす日本茶のカギ
- 原田 萌 AIミラー導入によるインバウンド収益の増加
- 的場 優太 今後の日本社会における個人の生き方について
- 森永 清太郎 環境問題に向けた大学におけるキャンパスマーケット推進
- ★木村 真一郎 Society5.0の時代における地方創生
- 辻 舞雪 同一労働同一賃金について
- 西崎 祐一 米中貿易摩擦の検討
- 新海 夏実 日本におけるペット保険の展望

## 新海 哲哉ゼミⅡ

### 「慶応大学との合同ゼミ開始の第3期卒業おめでとう。」

2回生の研究演習入門では17名でスタートし5名が脱落、3回生で2人が去りましたが、第3回の慶応義塾大学商学部 大野由香子ゼミ、関学経済学部 猪野弘明ゼミと合同ゼミを2018年12月8日に金沢のTKP 金沢新幹線口会議室(宿泊は兼六荘)で行い、2つのグループ研究報告を行いました。各報告グループ論文タイトルは「ユニクロの高価格化について」、「大阪夢洲におけるIR(カジノ)の費用便益分析」でした。各班の各メンバーは、11月の学内インゼミ大会後もゼミとサブゼミに加え、それ以外の時間外に集まって努力しましたね。合同ゼミの直前までは不安を抱え見ていましたが、慶応大との合同ゼミをやり切ったときの充実感を忘れないでください。4回生は、公務員採用試験、就職活動後1名の仲間がゼミを去りました。しかし、慶応大学大野ゼミ、関学大猪野ゼミとの第4回合同ゼミ、2019年11月30日に愛知県南知多町の旅館 豆千待月(別館会議室)にも参加し、Aセッションでは、各ゼミが1報告ずつ行う単独報告では、新海ゼミからは井手誉人君が卒業研究論文「転職サービスにおける、価格設定についてプラットフォームのビジネスモデルによる考察」を報告し、また今回からBセッションで各個人の卒業研究が、テーブル部分かれて、慶応大大野ゼミ、関学大猪野ゼミの学生、先生方を前に中間報告をしました。今回は宿泊旅館でのコンパで盛り上がりました。その後諸君は頑張っており、中にはモデル分析で苦戦する人もいましたが、何とか9名が卒論を書きました。忙しい日々でしたが、諸君の大学でのしんどかったけれど、懐かしい思い出になってくれると信じます。お疲れ様。ご卒業おめでとうございます。諸君の卒業後のご活躍を祈念します。

### 卒業論文一覧

井手 誉人	転職サービスにおける価格設定について—プラットフォームのビジネスモデルによる考察
舟井 大貴	ゲーム理論を用いた宅配便市場におけるヤマト運輸の戦略分析
小玉 惇平	Jクラブの経営について—スポンサーの観点から—
★奥 暉和	副業として賃貸住宅投資に関する考察—大阪～東京間に絞った理論的研究と実証分析による検証—
北浦 靖朋	音楽産業の構造～音楽は公共財か～
土田 裕亮	「FinTech企業の参入による銀行ビジネスモデルの変革とその理論的分析」～既存金融機関の付加価値の拡大に向けた方策と提言～結婚出産の意思決定と少子化について—性別役割分業の観点から—
田口 綾華	自動車産業に対する環境規制とマツダの経営戦略について
森川 達平	ゲーム理論を用いた宅配便市場におけるヤマト運輸の戦略分析
孫 慶浩	ゲーム理論を用いた宅配便市場におけるヤマト運輸の戦略分析

## 小林 伸生ゼミⅡ

### 「愚直さ」を肝に銘じて

研究期間の関係でゼミ募集を一時停止し、また対象者が休学していた関係で、今年はマンツーマンのゼミとなりました。例年とは異なり、研究室で定期的に進捗の報告を聞き、コメントをフィードバックし、次回の分析に活かし、報告する……という繰り返しを、幾度となく行いましたね。

能力の高さは不可欠です。しかし、社会に出る人間が信頼を得るために求められる、最も重要な資質は「愚直さ」です。社会に出て揉まれて初めて、この言葉の意味をかみしめるかもしれませんが、将来、地道に、愚直に頑張っており、信頼を勝ち取り、何事かを成し遂げた姿を見られることを楽しみにしています。

### 卒業論文一覧

内田 優希	シェアリング・エコノミーが及ぼす経済への影響
-------	------------------------

## 高林 喜久生ゼミⅡ

## 個性派・実力派揃いの23期生

高林ゼミの23期生は個性的な実力派揃いでした。「超短期集中型」の頑張りからポテンシャルの高さは十分認識させてもらいましたが、普段は「出し惜しみ」していると感じました。社会に出れば「出し惜しみ」せずにフル回転してみてください。

研究面でも3回生のとき、4大学合同ゼミ（同志社大学、関西大学、大阪商業大学、関学）や経済学部インゼミ大会で見た粘りはすばらしかったですし、最後の集中力は相当なものでした。その中で「勉強することも面白い」ということをわかっていただけたでしょうか。

卒論のテーマは以下の通りで、毎年ながらのことでちょっと財政学のゼミとは思えません（笑）。ただし、オリジナルなデータ分析を織り込むことを卒論作成の基本としました。社会に出ても、「分析結果を踏まえて政策提言する」という姿勢は持ち続けていただきたいと思います。

本当にこの2年半の間、いろんなことがありました。甲子園球場にみんなで繰り出したことや台風の間隙を縫って7大学合同ゼミ（琉球大学）で沖縄遠征したことなども楽しい思い出です。語り出すと、尽きませんが、まずは5年後を目指し、さらに成長した姿でお目にかかることを楽しみにしています。

## 卒業論文一覧

桑嶋 明友香	日本でのSDGsの取り組みの企業と教育の面からの分析（共同論文）
重松 莉緒	日本でのSDGsの取り組みの企業と教育の面からの分析（共同論文）
田子 智士	自動車関連企業での女性の労働環境と少子化問題との関連性—愛知県において—
濱田 悠吾	地域別玩具売り上げの特徴
宮村 翔瑠	なぜ新卒採用にミスマッチが起こるのか？（共同論文）
長谷川 歩紀	どうしたら少子化を抑えられるか—地域分析からの考察—
宇都 晴香	若者のビール離れ問題について
土肥 花那子	飲食店の人手不足
畠山 樹	部活動の問題—部活の変革—
澁谷 しえり	セクシュアルマイノリティーを社会はどのように受け入れるべきか
渡邊 泰心	なぜ新卒採用にミスマッチが起こるのか？（共同論文）
番匠 実裕司	外来種が環境に及ぼす影響—ブラックバスに注目して—
松尾 和佳	なぜUSJの売上げはTDRに勝ったのか（共同論文）
★堀尾 幸央	なぜ大阪は名古屋に地価で負けたのかそして再逆転したのか
花村 美咲	なぜUSJの売上げはTDRに勝ったのか（共同論文）
久我 俊介	今後の喫煙者・非喫煙者の在り方

## 大洞 公平ゼミⅡ

## ゼミの総括

学生と教員の適切なマッチングがゼミでは重要であると考え、私のゼミでは必ず説明会に出席してゼミの内容を十分に理解した上でゼミに入ることを求めている。しかし、今年度卒業のゼミ生は、誰もその要件を満たさず、多くの学生が卒論までたどり着かずにゼミを後にしました。その中で一人だけ、卒論を完成させた学生がいました。彼は、ゼミ開始当初から自分の弱点を理解した上で、それを補うべくゼミ活動を続けてきたのではないかと思います。不慣れなことに関しては人の意見に素直に耳を傾け、やるべきことを粘り強くやり続けることが一定の成果につながるということを、身をもって示してくれたと思います。

## 卒業論文一覧

★竹村 奨馬 長時間労働とろくじろう制度

## 田畑 颯ゼミⅡ

### 田畑ゼミ第4期生へ

皆さんは私が関西学院大学から送り出す4回目の卒業生となります。研1の時点での在籍人数は27名と私のゼミとしては大変人数が多く、ゼミの運営に若干不安を持っていました。しかし同志社大学のゼミとのインゼミ活動(ディベート、論文報告)や卒業論文の作成などの節目、節目において、こちらが強制をしなくても、自然とリーダーを務める人、それを何らかの形サポートしてくれる人が出てくれて、比較的スムーズに、ゼミ活動を行うことができました。研究活動に深く没頭し真理を追究することができたかと問われれば、私も皆さんも返事に困ってしまうところだと思いますが、明るく和気あいあいとした雰囲気でも、個性豊かな面々がそろい、勉強の場でも、それ以外の場でも、楽しい時間を過ごすことができました。果たして皆さんのお役に立てたのか心許ない気持ちしかないのですが、ゼミで学んだことが今後の皆さんの人生に多少でも役立つ機会があればいいなと願っております。皆さんとの交流を通じて、教員として多くのことを学ばせていただきました。この場を借りてお礼を述べたいと思います。今後の皆さんの活躍を期待しています。

### 卒業論文一覧

小山 拓希	幼児教育無償化政策に関する考察
佐伯 梨紗	高等教育無償化政策に関する考察
前田 祐一	幼児教育無償化政策に関する考察
谷口 雄紀	高等教育無償化政策に関する考察
堀 寛将	高等教育無償化政策に関する考察
谷口 絢音	幼児教育無償化政策に関する考察
阪江 遼太	幼児教育無償化政策に関する考察
船岡 大暉	幼児教育無償化政策に関する考察
居石 萌子	幼児教育無償化政策に関する考察
倉田 恵介	幼児教育無償化政策に関する考察
武田 有紀	幼児教育無償化政策に関する考察
角田 樹	幼児教育無償化政策に関する考察
★山根 いつき	幼児教育無償化政策に関する考察
山田 ひとみ	幼児教育無償化政策に関する考察
北坂 杏莉	幼児教育無償化政策に関する考察

## 田中 敦ゼミⅡ

### たなあつと愉快的仲間たち

先生や先輩ゼミ生との面接を終え、二回生の秋学期からスタートしたたなあつUゼミ。始めはみんながみんな大人しく、真面目そうな雰囲気に緊張していました。ですが、合宿や社会研修等のイベントを通して知り得た新たな一面も多く、個性あふれる愉快的なゼミ生と出会えたたなあつゼミが大好きです！

新たな一面と言えば先生にも言えることで、普段の講義中も物腰が柔らかく、笑顔の素敵な先生でしたが、大好きなお酒を酌み交わす場面ではさらに笑顔が溢れ、周りにも伝染するほどでした。

思い出深いのは三回生の夏の東京研修で、日本銀行や国会議事堂など、普段は見学できない機関での学習は、たなあつゼミの醍醐味のひとつでもありました。日頃、新聞などで見聞きする機関の方のお話を伺い、日本経済の根幹となる仕事について学びを深めたことは、大変貴重な経験でした。

あつという間の二年半で、気づけば私たちUゼミ生も卒業となりました。たなあつゼミでは金融に関する知識から社会人としての振舞い方など、多くを学ばせていただき本当に感謝しています。たなあつゼミ生の名に恥じないよう、一同精進いたします。先生におかれましては、お体にお気をつけてお過ごしください。

### 卒業論文一覧

溝下 莉奈子	ESG投資の今後の展望
梅村 千裕	同上(共同研究)
周防 智子	日本の証券化市場の発展における適切な規制
湊 なつみ	同上(共同研究)
袈裟丸 みのり	長期化する異次元金融緩和と政策の目標と実態、今後の展望について
高畑 愛	少額投資非課税制度「NISA」の制度普及に向けた最適な施策
清竹 美央	同上(共同研究)
松田 滉平	日本の投資家はESG投資を推進するべきか
野尻 明宏	同上(共同研究)
内田 圭祐	同上(共同研究)
★神垣 友一	日本とアメリカの金融市場の相関分析とそれをういた投資手法の有用性検証
★西本 夏琳	同上(共同研究)
★飛田 篤彦	同上(共同研究)
★小林 千紗	同上(共同研究)
★長濱 彰政	同上(共同研究)
大宅 未紗	J-REITにおける外部運用方式は適切か
蜂谷 亜都子	同上(共同研究)
藤田 隼矢	同上(共同研究)
濱田 祐輔	同上(共同研究)

## 寺本 益英ゼミⅡ

## ゼミの総括

研究演習入門の段階では20名以上在籍していましたが、最終的に卒業論文を提出したのは、下記の3名にとどまりました。3編の論文は、活発な意見交換を重ねながら完成にたどり着いたもので、4年間の学びの集大成にふさわしい力作ばかりです。最後までよくがんばってくれました。なおこの3名のゼミ生は、私が担当していた経済史系科目の受講者でもあり、経済学部では少数で貴重な経済史専攻者です。

経済史を研究する本質的意義は、民主主義、人権の尊重、法による支配、国際協調体制など、人類が長い歴史を通じて築き上げてきた普遍的価値の重要性を再認識し、経済・社会をよりよい方向に導くための指針を示すことだと考えています。本来この役割は、政治家が先頭に立って果たすべきですが、政治不信が蔓延している現状では、期待できそうにありません。

そこで令和新時代の主役であるみなさんに、「良識ある社会の担い手」として、力を発揮してほしいのです。その際、講義や卒論作成で身につけた歴史の分析手法は、大きな強みとなるはずで、それぞれの進路でのご活躍をお祈りいたします。

## 卒業論文一覧

- ★庄 宏樹 戦前昭和の農本自治思想の研究  
 安部 善行 子どもの貧困から考える教育支援政策  
 西尾 涼太 これからの総合商社の未来

## 田村 翔平ゼミⅡ

## 1期生の皆さんへ

卒業おめでとうございます。1期生の皆さんは私が大学の教員になってから初めて受け持つゼミ生だったので、自分の学生時代を思い出しながら色々手探りでやってきましたが、皆さん色々スキルが高いので、教員の至らぬ部分は適度にスルーしつつ、超個性的なゼミ長を中心に学生主体で今日までよくやってくれたと思います。おかげさまで最初から最後まで一緒に楽しく学習することができました。このゼミの1期生が皆さんで良かったと思います(本当です)。卒業研究も全員、自分自身で興味関心のあるテーマを設定したうえで主体的に取り組んでくれたので、指導する側も一緒に楽しく考えることができました。書き上げられた卒業論文はどれも後輩たちにとって良い指針となると思います。皆さんが勉強してきたゲーム理論ですが、社会に出てから役に立つと実感することがより多くなるでしょう。ON・OFFに関わらず、社会は駆け引きで溢れていますから。皆さんが関学で勉強したことや得られた経験を糧に世界で大活躍することを期待しています。また息抜きしたいときはいつでも大学に遊びに来てください。コーヒー1杯くらいであればよろこんで馳走します。西北や梅田等にお酒を飲みに行ってもいいです(その場合は割り勘をお願いします)。

## 卒業論文一覧

- 浅野 満帆 SONYにおけるオンラインゲームサービスの適切な価格設定について(共著論文)  
 小宮 亮太 SONYにおけるオンラインゲームサービスの適切な価格設定について(共著論文)  
 南開 淳志 SONYにおけるオンラインゲームサービスの適切な価格設定について(共著論文)  
 新井 万葉 YouTube VS テレビ～企業にとって最適な広告戦略を探る～  
 ★伊東 桃花 百貨店と通信販売における販売競争とその展望  
 岡内 望 Jリーグクラブにおけるユニフォームスポンサー契約～ミスマッチの解消に向けて～  
 岡山 明日香 ゲーム理論で読み解く日本の女性の雇用環境(共著論文)  
 滝口 真結 ゲーム理論で読み解く日本の女性の雇用環境(共著論文)  
 黒川 実結 幸せを掴むために(共著論文)  
 鈴井 絵里香 幸せを掴むために(共著論文)  
 佐藤 悠介 ロックフェスティバルにおけるバンドマンの重要性-失敗しないアーティスト戦略-  
 富崎 弘郁 スポーツにおけるドーピングが行われる要因とゲーム理論で導く最適な対策  
 松岡 栄志 ゲーム理論から見る株式投資  
 松山 渚 ゲーム理論から見る日本のプライベートブランド戦略(共著論文)  
 間宮 啓太 ゲーム理論から見る日本のプライベートブランド戦略(共著論文)  
 万力 亮介 グローバル展開のゲーム理論  
 山根 あずさ チームにおけるインセンティブ契約と労働者のモチベーション構造

## 西村 智ゼミⅡ

### 総括

2年半お疲れ様でした。以下に、活動記録（私の感想入り）を記します。2年次のディベート大会で2戦2勝を果たし幸先のよいスタートを切りました（2勝したら三田屋で奢るといったたまさかの勝利）。3年に上がる前に南淡路で春合宿。3年次は、京都の宿にパソコンを持ち込んで夜中まで勉強しました（宿からうるさいとお叱りをうけ反省をする羽目になりましたが大変よい思い出でもあります）。4年次前半は、就職活動をしながら株の勉強をしました。（バーチャル投資で競い合ったのもよい思い出）。後半は卒論論文を仕上げる傍ら、関学 OBOG との勉強会@丸の内に向けて働き方改革の勉強（社会人の前でのプレゼンは緊張しましたがおおむね堂々とできました。さすが4年生。）また、インゼミのディベート大会に出場しましたがこちらは惨敗（まだまだ力不足……）。その他、サブゼミ（からのクラフトビール!）、留学に行く仲間の壮行会、ボーリングなどイベントも多数ありました。

卒業後はそれぞれの道を歩まれますが、たまに集まり、学生時代の思い出話や近況報告に花を咲かせ、元気をもらって、またそれぞれの生活を頑張る、そんな関係が続いていくとよいですね。

### 卒業論文一覧

中島 詩織	色彩の行動経済学
竹内 洋人	所得連動型奨学金制度の拡大が与える影響
小谷 理希也	香りと行動経済学
南雲 勇輝	香りと行動経済学
田中 大也	女性の結婚意欲の決定要因
渡辺 正哉	若者の未婚に伴う少子化
中谷 大志	ナッジによるハーディング抑制
鈴木 連太郎	視覚情報が与える消費行動への影響
加藤 ひかる	女性の結婚意欲の決定要因
八幡 佳介	視覚情報が与える消費行動への影響
藤田 敦寛	明石市の子ども政策は人口V字回復に影響を与えたのか
上野 潤一郎	介護労働者の就業継続決定要因と就業継続に向けた政策提言
田中 佑樹	介護労働者の就業継続決定要因と就業継続に向けた政策提言
★山下 将史	子育て世帯における家庭背景と子どもの学力の相関関係
田森 尚樹	色彩の行動経済学
安福 生	WLB ～同業他社比較より
吉田 麻里子	香りと行動経済学
★乾 美咲	子育て世帯における家庭背景と子どもの学力の相関関係
松下 友紀	色彩の行動経済学
川上 裕也	色彩の行動経済学

## 豊原 法彦ゼミⅡ

### データを分析するために

ゼミではまず EXCEL や R を用いて各自関心のあるデータについて最小二乗法などの分析を実際に行うことから始めました。そして得られた結果が考えていた仮説に当てはまるかを考え、能動的に学びました。さらに数式を簡単に計算できる Maple を用いて、理論モデルの分析のためにコンピュータソフトがどのように役立っているかを体験しました。

次にインゼミ大会で「IR（統合型リゾート）の経済効果について」について発表するためにネットでデータを集めて、レジュメを完成させました。またプロセス管理も学びました。

最後に卒業論文では、各自が選んだテーマをについて各学期それぞれ2回のプレゼンを行い、論文の内容が深めました。

身の回りでは society5.0 といわれるように、少し前に想像できなかったことが AI を通じて進行しておりますが、その背後では厳密な統計分析が行われています。そこから生まれるビジネスチャンスについて思いを巡らし、需要サイドと供給サイドの両方の立場から現状を捉え、しっかりとリスクを考慮した上で意思決定することが重要になってきます。そのためにゼミで学んだスキルを存分に発揮してください。

### 卒業論文一覧

上村 真帆	ライブ市場が生み出す消費者行動
★渋谷 有理奈	高齢化社会の目指すべき将来像
岩熊 友哉	日本におけるキャッシュレス化について
和氣 裕弥	造船業界の現状と今後
西山 隼矢	日本財政と MMT 理論
飯田 隆之介	阪神タイガース
澤 拓実	南海トラフ地震が日本に与える影響と対策
吉田 華	NFL が米国に与える経済効果

## 長谷川 哲子ゼミⅡ

### 今年度卒業ゼミの総括

経済学部に着任して以来、今年度は初めて卒業生を送り出すこととなった。

経済学部において日本語や日本語教育に関心を持つ学生が集まるゼミ、ということ、学生、教員ともに終始手探りであった。研究演習入門としてゼミを開始したころの不安は、研究演習Ⅰなかばで、やっと消え出した。最終的には、当初私が予想したよりも多様なテーマが提出され、それぞれ卒論として結実させられたことは、私にとっても喜びであった。調査や分析を通じて得た知識、結論として自ら見出した知見以上のものを学んでくれていれば、それはさらなる喜びである。

### 卒業論文一覧

奥野 結衣	笑いの原因からみた上方漫才の変遷
今井 菜々子	忌み言葉の変化についての考察
井面 慈子	LINEにおけるふき出しの特徴—どのよう
	に区切っているのか—
福田 幸大	使い分けによる方言衰退の是非—雲伯方言
	は使い分けにより衰退するのか—
高橋 祐太	人類の言語特有の機能
林 浩平	日記の質的分析とその解釈—自己のリーダ
	ーシップ感はどのように変化したのか—
吉田 圭佑	タグラインから見る言語表現の特性

## 野村 宗訓ゼミⅡ

### 夢をつかむ

「大学生生活で何がいちばん印象に残っていますか？」と質問されて、即答できるでしょうか。

キャンパス生活の他、アルバイト、サークル、留学、旅行、恋愛等、数えきれないほどの経験を重ねたことが思い浮かぶはず。夢をつかむために限られた時間を有効活用してきたものの、やりたいことが多すぎて悩んだこともあると思います。就活で内定をもらえた時の喜びや、内定をとれずに周囲の友人や家族に支えてもらったありがたさをあげる人もいるでしょう。夢を追い求めて実現した人はもちろん、結果的に最初の目標とは異なる進路を歩むことになった人も、自信を持ってようになったのではないのでしょうか。

みなさんは就活解禁時期で揺れた世代ですが、これから大学受験を乗り越える高校生は入試の実施方法が変わるために不安を抱えています。世界の動きではイギリスのブレグジットがどのように社会を改善するのか、香港の日常生活が以前通りに戻るのはいつなのか、未だ明確になっていません。また近年、広範囲で甚大な被害を招く自然災害が多発しています。今後不確定な事態に直面するかもしれませんが、将来に向けた夢を描く意欲を持ち続けてほしいと願っています。

### 卒業論文一覧

直田 桃佳	最先端事例から見る日本の宅配業界の現状と課題—海外・国内の過疎地の事例を参考に—
古園 果菜	日本における農業の現状と今後の展望—成熟農業輸出大国であるオランダ・デンマークを参考に—
吉鶴 陽	海外依存しないエネルギー—社会の実現のために—水素と宇宙の活用—
浅田 菜月	自動運転によるスマートモビリティの構築
中井 涼華	5G普及とスマートフォン時代
太田 菜月	神戸の経済活性化—観光・交通面からの考察—
赤木 宏穂	日本の旅行業界
荒木 朋子	日本のIRとは—日本が目指すべきIRの形について—
近谷 僚太	再生可能エネルギーの普及のための戦略—ドイツとの比較を踏まえて—
★内藤 敬太	我が国における航空機産業のゆくえ—航空機市場の現状と課題、および将来展望について—
池田 将規	日本におけるエネルギー構造の変化の推移—2040年の短期的展望を見据えて—
坂下 和駿	国家におけるロジスティクス効率化—人手不足の観点から—
田中 佐依	日本の物流業界の現状と課題
藤本 咲子	令和時代の新マーケティング—世界をもっと面白くする『戦略PR』とは—
向 芳輝	人口減少社会におけるモビリティの在り方
山口 実央	キャッシュレス決済の日本普及について
杉原 野々花	日本にウーバーを誘致するべきか—日本とアメリカのライドシェアリング市場の違いから—
隅田 季波	日本の水道事業の民営化—他国と比較して—
柵木 理沙	日本のエネルギー変革—再生可能エネルギーの普及・発展—
山本 多恵	日本におけるライドシェア導入の可能性—海外の現状と比較して考える—
西川 知里	事業承継の選択としてのM&Aの効果
奥平 真希	日本におけるIC技術の発展とその効果—観光立国日本の交通系IC技術—
飯阪 未佳	日本におけるキャッシュレス化の課題と展望—
巽 千穂	PFIによる空港経営改革—官民連携で地域活性化する空港—
細見 美紗	航空業界の発展
古賀 啓太	主要国における鉄道経営—現状把握と国際比較で見える今後の可能性—
黒塚 えのか	モビリティ革命とMaaS—課題先進国日本にMaaSはどう貢献していくか—
渡邊 紗耶香	日本における地域公共交通について—今後存続していくための手段とは—
岡田 莉子	IT技術から考えるインフラ整備
伊関 菜穂	スマートシティへ向けて—被災地から考える—
市村 真紅郎	水素エネルギーによる低炭素社会の実現—水素社会の可能性—
辻 彩香	自動車産業のこれから—AI(人工知能)を活用した自動運転の実用化について—

## 東田 啓作ゼミⅡ

### 卒業論文執筆への努力の成果

4回生で卒論を執筆されたゼミ生の皆さん、お疲れさまでした。他にもやるべきことがたくさんある中で、最後までくじけることなく卒業論文を仕上げられたことはとても素晴らしいことだと思います。しかも、5人中3人は、個人研究であるにもかかわらずアンケート調査を実施しました。少人数でのアンケート実施は本当に大変だったことと思います。さらにそのデータを分析して、アウトプットを出したことは高く評価できます。アンケート調査をしなかった2人も、資料を念入りに集めてそれらを読破したり、自分の経験を正確に記録したりして、とても面白く質の高い論文を仕上げることができたと思います。

1年間にわたって卒業論文に取り組み続けた努力は、将来必ず皆さんの力になります。最も重要なことは、一見短期的には役に立ちそうもないかもしれないこと、モチベーションを維持しにくいことに、知的探求心を持って向き合い続けることができた強さです。この知的探求心と芯の強さは、長期的には必ず役に立つことと思います。最後になりましたが、ご卒業、本当におめでとうございます。これからものびのびと自分の人生を歩んでいってください。

### 卒業論文一覧

- ★天野 凌 近年のEU市場における日本産加工食品の販売戦略について
- 柳澤 ゆきの 単位の売却価格とその決定要因
- 反橋 七海 関西学院大学の学生は単位をいくらか購入するか
- 足立 遥 留学から得られる効用
- 賀来 知宏 Analyzing factors associated with smartphone addiction: A cross sectional study among college students

## 原田 哲史ゼミⅡ

### 明治維新150周年のゼミ4期生

3回生のときに明治維新150周年を迎えたこの学年は、社会思想史のゼミとして「吉田松陰の思想と弟子たちによるその実現——150周年のいま思想の時代として明治維新を考える」というテーマで共同の論文を仕上げた。そのテーマで、春学期は長崎大学経済学部で南森茂太ゼミと合同ゼミをし、秋学期の学内インゼミでもプレゼンを行った。現在の日本では思想が国を変革することが稀な状況にあるが、そうした変革がいつあったのかと言えば、幕末・明治維新の時期であり、しかも実践へと移行したほどの大思想を有していたのは吉田松陰であろう、という判断によるものであった。松陰には天皇制を有する日本の外国勢力への対決やある種の平等の思想があり、それによる弟子たちの変革運動つまり明治維新への歩みを追うとともに、その思想に近隣諸国への侵略に通ずるものがあつたのではという問いも立てて探求した。どこまで明らかにできたか心もとないし、4年次に移る際に2人になったことも残念であつたが、その探求から何がしかを学び取っていただけたなら、と思っている。ちなみに、長崎のゼミ合宿のことや共同論文は、学部のサイトでいつでも見ることができる。

### 卒業論文一覧

- ★深見 樹 伊藤博文の思想と功績
- 梶田 将暉 木戸孝允の生涯と思想



## 藤原 憲二ゼミⅡ

## 3は強い

卒業おめでとうございます。3人で始まったゼミですが、同じメンバーでゼミを終えられることをうれしく思います。

3といえば思い出すことがあります。私が大学院生の頃、非常にお世話になっていた先生から「論文を国際的な査読付き雑誌に掲載してもらうには、既存の研究やアイデアを3つ以上組み合わせなさい」と言われました。つまり2つのアイデアを組み合わせることはそれほど難しくなく、そこから得られる結論もインパクトが弱い。しかしそこに第3のアイデアを加えれば斬新さやインパクトが大きくなる。いつもこれが奏功するとは限りませんが、「三人寄れば文殊の知恵」という格言にも通じるものがあり私は大事にしています。

下記の卒論の執筆には苦勞し、毎回私の研究室で3人の激しい議論の応酬が行われました。みなさんにはこのゼミでの経験を今後の実社会で存分に活かして頂きたいと思います。

## 卒業論文一覧

- 井之上 馨太 日本 の 幸福度 の 分析 と 比較  
★井下 晴貴 日本 の 幸福度 の 分析 と 比較  
羽岡 裕太郎 日本 の 幸福度 の 分析 と 比較

## 藤井 英次ゼミⅡ

## Consistency 一貫性

卒業論文を完成させて自由の身となったゼミ生と談笑していると、二年半にわたる研究演習の学びを思いがけず一つの言葉で締め括ってくれた。曰く、「一貫性」。英語で言うところの“consistency”。

計量経済学にも consistency という概念がある。「一貫性」という言葉が用いられる。直接観察することのできないものを何とか推し量ろうとする際には、バイアス（偏り）のない推量が望まれる。とは言い、現実には我々はバイアスに塗れて生きているといっても過言でない。誰も無意識のうちに様々な情報に影響されてしまうもので、何事に関しても一切偏った見方をしないというのは容易いことではない。しかし、その時々で多少偏った物の見方をしてしまっても、より多くの事象を観察して経験を豊富に積み重ねることで目を養い、結果的に物事の本質を偏りなく捉えることができたとすれば、それは素晴らしいことだろう。そのような性質のことを計量経済学では consistency と表現する。

より一般的な文脈においては、consistency は「言行一致」とも訳される。自らの主張と行動の乖離を是とせず、その時々や相手次第で主張がころころと変わることがない。二年半にわたる研究演習と骨の折れる卒業論文執筆を通じて体得したものの本質を、consistency という言葉で締め括ったゼミ生をととても頼もしく思った。

コーヒーを飲み終えて、雨降る真冬の朝の歩道に踏み出した瞬間、ゼミ生が発した言葉は「ああ清々しい」(!)。冷たい雨の降る薄暗い冬の朝ですら清々しく感じるができる。そう、研究演習を通して自ら体得したものは、卒業後も決してあなたを裏切りません。

卒業、心よりおめでとう。

## 卒業論文一覧

- ★佐内 佑基 諸外国に学ぶ移民労働問題：受け入れ拡大を急ぐ日本の課題

## 本郷 亮ゼミⅡ

### Endurance produces character

六期生の皆さん、卒業おめでとう！ 本当におしゃべりで愉快な学年でした。土砂崩れで甲山に登れなかったことや、ディベート中のマナーの悪さ、就活中のゆるゆるのゼミなど、ついこないだの出来事のように思い出されます。

皆さんの新たな出発にあたり、次の聖句を贈ります。“Endurance produces character”（ローマの信徒への手紙：第5章4節）。characterは人格・品性という意味なので、この句は「忍耐は人格を磨きあげる」という意味です。ちなみにこの句の続きは“and character produces hope.”です。忍耐のもとで生み出される希望は、なるほど強靱な本物の希望と言えるものでしょう。

人生は大小の冒険の繰り返しです。私も教員として学生の手本にならねばならないと考え、リスクを冒して諸々の冒険、すなわち一見するところの「愚行」を繰り返していますが、愚行は突き抜ければもはや愚行でなくなります。能動的人生は「真剣な愚行」の繰り返しにならざるをえず、真剣なのでむしろ楽しいばかりではなく、一面では苦みの繰り返しです。そして苦しみには、人間を確かに成長させるというポジティブな面がある。

周囲に惑わされない自主独立の精神を、どうか保ってください。いざという場面で、恐れず、皆があっと驚く（良い意味での）「愚行」を選択できる大きな人物になってください。同窓会を楽しみにしています。

最後に、(研Ⅱの正規履修生ではないが) わがゼミ生である2名の氏名と卒業論文名をここに記す。大熊俊夫「衰退産業 復興のためには」、神崎未来「ディズニープリンセスと結婚観」。

### 卒業論文一覧

柳本 有輝	偏見と相互理解について
鈴木 大輝	「食」を目的とするツーリズムの移り変わり と今後のビジネスチャンス
歌原 成哉	付録付き雑誌における消費者行動分析、 並びに今後の提案
村上 一誠	経済動物 競走馬の宿命と今後の可能性： 海外との産業構造の比較から
★村田 知貴	(共著)太宰春台著『産語』の要約と『経済録』 『経済録拾遺』との比較、及び経済思想の 転換の考察
小田 祐之介	アジアの生命保険市場の考察
★野原 充香	(共著)太宰春台著『産語』の要約と『経済録』 『経済録拾遺』との比較、及び経済思想の 転換の考察
廣田 雅志	学生指導による生産性の向上
日根野 茜	北九州市の人口減少への対策と検討
楠山 大貴	経済による文化改変
藤原 颯汰	ANAはアジア一位の航空会社になれるのか
岡部 早希	ファシリテーションと経済の関連性：組織 変革の観点から

## 堀 敬一ゼミⅡ

### ご卒業おめでとうございます

本年度、私が担当する研究演習Ⅱの受講生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは私が関西学院大学で担当する演習の第1期生ということになりますが、お互い慣れな中で2年半演習を続けてきて、まずは無事に卒業することができて良かったと思います。ただ担当者として2年半皆さんを見てきて、経済学の基礎学力はまだまだ十分ではないというのが率直な感想です。研究演習のゴールは卒業論文を書くことですが、ここまでたどり着いたのがわずかに2名という結果がそれを物語っています。私は卒業論文を書くのが決して簡単ではないということを言い続け、卒業論文に対して要求する水準を下げることはありませんでした。そのような中で努力して卒業論文を書いた2名の受講生は立派だと思います。何か具体的に説明することは難しいけれど、卒業論文作成のために試行錯誤したり考えたりすることは、今後必ず役に立つでしょう。また卒業論文を書かなかった受講生もその代わりに意味のある時間を過ごしていたのなら、それもまた悪くない一つの選択なのでしょう。いずれにせよ関西学院大学経済学部は、より経済学を勉強したい人のために扉をいつでも開けています。何かがかぎっかきで、再び勉強したくなったらいつでも戻ってきてください。

### 卒業論文一覧

★島上 恭翔	兵庫県内での地域活性化における観光業の 必要性
鎌田 真守	生命保険会社と人工知能に関する研究

## 宮脇 幸治ゼミⅡ

## 2019年度のゼミ総括

ゼミ四回生の伊藤君、卒業おめでとうございます。社会に出てから様々なことがあるかと思いますが、少しずつ前に進めることを願っています。これからの活躍に期待しています。

ゼミ三回生の皆さん、もう少し統計学に興味を持って学んでもらいたいと思います。数式が多く見られるので苦手を感じるかもしれませんが、背後にある考え方は社会に出てからも十分役に立つものであると考えています。ゼミ二回生の皆さん、今年度は時間をかけて統計学を学ぶことができたかと思ひます。来年度は期末レポートを書くために、自分で色々考えることも多くなります。答があるかどうか分からないことを手探りで進むこととなりますが、その過程を楽しんでもらえればと思います。

## 卒業論文一覧

提出者無し

## 前田 高志ゼミⅡ

我が道は方<sup>いま</sup>や未<sup>たいら</sup>まだ夷かならず

皆さんは兵庫自治学会、関西広域連合協議会意見交換会、関西大学・南山大学・同志社大学との4大学合同研究報告会、最終研究報告会、兵庫県観光まちづくり研究会、議員インターンシップ、フィールドワーク等と、2年半のゼミ生活をとても精力的に過ごしてくれました。また、皆さんの卒論は全員のそれが前田ゼミの十年間を通じて最高のクオリティでした。皆さんの能力の高さとゼミに対する真摯な姿勢に敬意を表します。

10期生の皆さんの旅立ちにあたり、韓愈の出門（門を出て）の一節を贈ります。

出門各有道 我道方未夷  
且於此中息 天命不我欺

門を出ては各々道有れど  
我が道は方（いま）や未だ夷（たいら）かならず  
且つは此の中に於いて息わん  
天命我を欺かじ

（吉川幸次郎・桑原武夫『新唐詩選続篇』より）

皆さんは門を出られます。門の前方に、はるかに道が続きます。その道は、皆さんが苦しくても、平坦でなくても、歩み続ける道です。それぞれの道は異なります。しかし、皆さんの道は皆さんの前方にあります。一步、一步ふみしめ、ふみしめて歩むしかありません。

皆さんのこれからの人生の幸多く、安寧なることを。

## 卒業論文一覧

- |         |  |
|---------|--|
| 前田 海咲   | 日本における食品ロスの削減について～若者にできることは何か～         |
| 川口 涼太郎  | 南海トラフ地震に備えて～地域防災力とコミュニティ～              |
| 平岡 知樹   | マラソン大会の開催と経済効果                         |
| 山口 果奈   | オーバーツーリズムとどう向き合うべきか                    |
| 谷口 清太   | ポケモンGOに学ぶヒットコンテンツの生み出し方                |
| 飯尾 真行   | フードロス問題における課題と展望                       |
| 松端 航平   | 公共施設の今後の在り方について～PFIを活用して～              |
| 久治 香波   | 人口知能（AI）の進化による雇用の影響                    |
| 西森 大晟   | 中山間地域における現状、課題とその対策事例                  |
| 西村 鞠伽   | お金革命～日本のキャッシュレス化の未来～                   |
| 矢吹 なつみ  | 観光地経営による名古屋市の地域振興～手法としてのシビックプライドに関する研究 |
| 深川 理子   | 日本での選択的夫婦別氏制度の導入を目指して                  |
| 川中 康平   | テレワーク活用による働き方改革                        |
| 大河内 諒亮  | 高齢者の免許返納促進のために                         |
| 赤塚 ひなた  | コンビニエンスストアの24時間営業の継続について               |
| 岡崎 隆洋   | 観光戦略のための観光心理学                          |
| 宿野 晃弘   | 基礎自治体における学校教育バウチャー事業の効果と課題             |
| 内堀 真依   | ICTを活用した観光活性化の展望                       |
| 井上 紗良   | 小さな銭湯がもたらす人々の幸せ                        |
| 淡路 紗希   | 人口減少時代におけるまちづくりのあり方                    |
| 山崎 裕太   | インバウンド観光による関西への訪日外国人観光客の誘致             |
| 合田 温    | 地域振興における観光土産のあり方                       |
| 山淵 日向恵  | 大阪市の待機児童は解消できるのか                       |
| 田中 麻椰   | 民泊による社会効果                              |
| ★佐々木 将人 | 兵庫県丹波篠山市後川地区に学ぶ限界集落への関わり方と生活満足度向上策     |
| 山形 真紀   | MaaSを使った新たな観光のあり方                      |

## 山鹿 久木ゼミⅡ

### 卒業おめでとうございます。

出席、欠席も自由というかなりのんびりしたゼミでした。(笑) そして、卒業を前に少しずつ変化していく自分を感じてきたと思います。一見、厳しいと感じる大学生活も、社会からすればとてもゆるい環境です。これまでうまくいった人もそうでない人も、社会に出てから、立ち止まって自分を見つめるときが来ると思います。そんな時に、今までよりも少しだけよく生きるにはどうしたらいいのだろう、と考えてみてください。そして、マイペースでいいですので、少しずつ前に向かって進んでいってください。みなさんの人生、まだまだ相当長そうですよ。のんびりやっていってください。

### 卒業論文一覧

井谷	優梨香	日本のペット産業
萬谷	翼	日本がキャッシュレス国になるには—中国はなぜキャッシュレス大国になれたのか—
山中	里咲	インターネット広告の現状と課題
★砂場	柊平	これまでの日韓問題と今後の課題
中本	圭哉	Testosterone が生み出す個人と社会への影響
藤田	直人	漫才の歴史
山口	尚輝	日本の食料排気と飢餓について
森田	有香	日本人の非投資傾向についての現状と対策
飛田	祐之介	人口減少社会の年のあり方

# 懸賞論文の選考について

経済学部では、1985年から研究演習Ⅰ・Ⅱの在籍者を対象として、懸賞論文を募集している。本年度は、個人執筆論文部門に8本、共同執筆論文部門に9本の応募があった。応募点数は例年に比べて多い。いずれも意欲的に取り組まれた論文であった。選考委員会の審査と教授会の議を経て以下の論文に賞を与えることになった。

## 経済学部懸賞論文受賞者と論文名

### 入賞

#### < 個人執筆論文部門 >

伊東桃花（田村ゼミ）

「百貨店と通信販売における販売競争とその展望」

中山七海（猪野ゼミ）

「チケット転売におけるスクリーニングの活用」

### 佳作

#### < 共著執筆論文部門 >

逸見光咲・岡響生・福田大和・政安梨紗（栗田ゼミ）

「マダガスカル農村において女性のエンパワーメントが子どもの栄養状況に与える影響  
—パネルデータを用いた分位点回帰による実証分析—」

植村優菜・大崎勇・岡直樹・川戸若葉・富田佑莉亜（栗田ゼミ）

「一時的な所得ショックが家計の教育投資に与える影響とリスクシェアリングの効果  
—マダガスカル農村部を事例に—」

岡山明日香・滝口眞結（田村ゼミ）

「ゲーム理論で読み解く日本の女性の雇用環境」

#### < 個人執筆論文部門 >

岩谷桃佳（栗田ゼミ）


「労働集約型工場におけるインクルーシブリーダーシップが従業員の非認知能力に与える影響  
—ラオス日系企業の事例を用いて—」

### < 講評 >

学部学生の学術論文として優れた水準に達しているという理由から、入賞は個人執筆論文2編に与えられた。1つめの論文「百貨店と通信販売における販売競争とその展望」は、対照的な特徴を持つ百貨店と通信販売を比較し、商品価格や消費者にとっての買物時間の変化がそれぞれの戦略にどのような影響を与えるかをゲーム理論における戦略形ゲームの枠組みを用いて分析し、関係性を明らかにしている。身近なテーマを理論的に整備し、委員から好評を得た。2つめの論文「チケット転売におけるスクリーニングの活用」は、先行研究を考察し、スクリーニングを利用した会員制のチケット販売方法を組み込んだ新しいモデルを提示している。これら2つの研究は、問題意識の明確さ、理論的整合性等の点で高く評価された。

なお本年度は入賞した論文に次ぐ優れた共著論文3篇と単著論文1編が佳作に値するものとして評価された。共著論文の「マダガスカル農村において女性のエンパワーメントが子どもの栄養状況に与える影響」は、パネルデータを使用し、エンパワーメントが子どもの栄養改善を通じての影響を、分位点回帰分析によって研究している。時間選好を組み込んだ新しい試みである。共著論文の「一時的な所得ショックが家計の教育投資に与える影響とリスクシェアリングの効果」は社会関係資本と組織との関係をプーリング回帰モデルで検証し、緊急度の高いテーマに取り組んでいる。他の2論文も研究の熟度等において評価された。以上の佳作4編は、それぞれ入賞作に比べても遜色のない論文である。

（懸賞論文選考委員会委員長 桑原秀史）



エコゼミ委員会って？

団体紹介・代表インタビュー

最新情報/活動レポート

皆さんは、エコゼミ委員会にどんなイメージを持っていますか？  
エコゼミ委員に入った感想を聞いてみました！！

### 1回生

入学式後のオリエンテーションで、エコゼミについて熱く語る先輩に惹かれてエコゼミに入りました。最初は不安もありましたが、先輩方が優しく接して下さって、すぐに馴染む事ができました。楽しむときは楽しみ、真面目にやるときは真面目にやる。そんなカッコいい先輩の姿を追いかけて私も頑張りたいです。

### 3回生

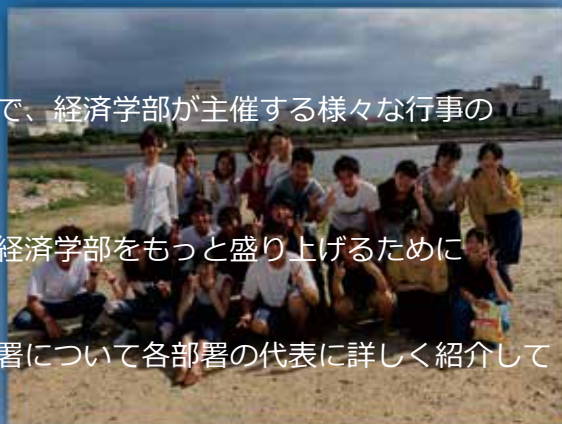
人の役に立つことがしたい。また、人前に立つ機会に慣れたいという思いからエコゼミに入りました。3回生になってリーダーを務め、仕事を分担することの大変さを学びました。活動を通して自身の主体性や責任感が身につき、エコゼミに入って本当によかったと感じています。

## 【エコゼミ委員会】

関西学院大学経済学部公認の学生団体で、経済学部が主催する様々な行事の運営・管理を行っている団体です。

部員数は現在約60名です。  
個性のあるメンバーが一丸となって、経済学部をもっと盛り上げるために日々活動しています。

以下では、エコゼミ委員会の行事・部署について各部署の代表に詳しく紹介してもらいました。



## 【スポーツ大会】

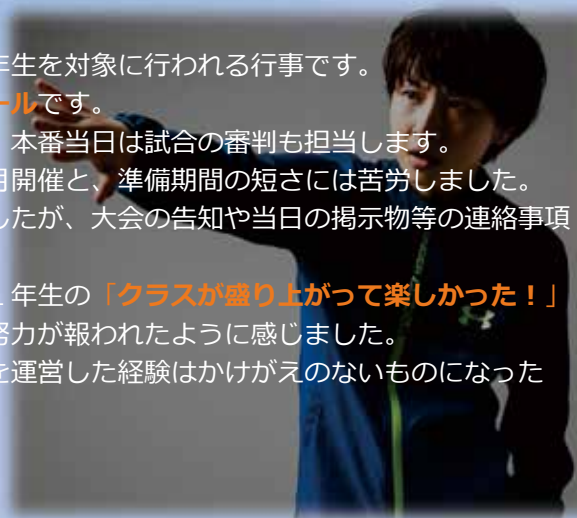
スポーツ大会は毎年5月に、経済学部1年生を対象に行われる行事です。  
基礎演習のクラス対抗で種目はバレーボールです。

エコゼミ委員会は、事前に対戦表を作り、本番当日は試合の審判も担当します。

入学したばかりの1年生対象で、かつ5月開催と、準備期間の短さには苦労しました。  
運営側として慣れないことも多くありましたが、大会の告知や当日の掲示物等の連絡事項は簡潔に伝えられるよう工夫しました。

反省すべきところは多くありましたが、1年生の「クラスが盛り上がり楽しかった！」という言葉聞いて、やってよかったと努力が報われたように感じました。

自分の大学生活において、スポーツ大会を運営した経験はかけがえのないものになったと思います。



## 【オープンキャンパス】

オープンキャンパスは**毎年8月**に開催され、高校生に関西学院大学経済学部の魅力伝えるために、エコゼミ委員会でプログラムを提供しています。

プログラムでは「**経済学部生**の一日」についてプレゼンテーションを行ったり、**現役大学生との交流会**を実施します。

プレゼンテーションでは3年生と1年生がペアとなって、大学入学前と入学後の生活の違いや、大学生活の楽しいことなどを話しました。交流会では大学生生活に関する疑問に答えたり、合格するための勉強法のアドバイスをしました。

オープンキャンパス当日は、委員全員が一丸となって協力し、忙しい時間帯も乗り越えることができました。

自分達が行った活動に関する成果は分かりませんが、少しでも多くの高校生に経済学部の魅力が伝わっていると幸いです。

## 【インゼミ大会】

経済学部インターゼミナール大会（通称：インゼミ）は、**毎年11月**に開催されている行事です。

例年、基礎演習受講生は基礎演習のクラス対抗で**ディベート**を行います。また、研究演習受講生は**研究発表・ポスターセッション・ディベート**のいずれかの形式で、各ゼミでの学習成果を発表します。

ディベートは6月頃の第1回連絡会から、約半年の準備期間があります。SNSを用いた連絡網をつくり、正確で迅速な情報伝達に努めました。

10月下旬には、エコゼミ委員会主催で、1年生の基礎演習受講者を対象にした模擬ディベートを行い、本番に向けての指針となる取り組みもしています。本番当日は、些細なトラブルがいくつか発生したものの、概ね円滑な運営ができたと思います。

参加者の方にとって、よりよい行事となるよう、反省点は次年度へ受け継ぎ精度を上げていきたいと思っています。



## 【広報】

広報の主な活動は、本誌「エコフォーラム」の作成です。

エコフォーラムは毎年、どのような記事をつくるかを一から話し合い、1年間かけて作り上げます。

教授や事務室の方との打ち合わせや、企業の方のインタビューなど多くの方と接する機会もあり、社会性も身についたのではないかと思います。

完成したエコフォーラムを手にしたときの達成感はとても大きなものです。

また、Twitterではエコゼミ委員会を知ってもらうために、エコゼミ委員会の仕事を紹介したり、経済学部の方の行事の告知を行っています。

アカウントは@ecosemiなので是非見てみてください。



広報担当→



## 【番外編】各部署メンバー



←スポーツ大会担当



オープンキャンパス担当→



←インゼミ大会担当



内助の功、会計です→

## 【おわりに】

本誌学生ページの作成にあたり、インタビューやアンケートにご協力いただいた多くの経済学部生、教職員の方々、本当にありがとうございました！  
皆様のご協力のおかげで本誌をつくりあげることができました。

今年度のエコノフォーラムは、現役学部生のみならず、学部出身の企業家・業界人の方々の声を聞くことも意識して記事を作ってきました。  
本学経済学部を、より知っていただける本誌になったのではないのでしょうか？

**今後ともエコゼミ委員会をどうぞよろしく願いいたします。**

### <2020年3月 エコゼミ委員会>

#### 4年生

石黒 宏太	乾 美咲	窪田 椋太	田中 大也
原田 紬希	速見 昂希	前川 友吾	舛本 裕一
森 恵倫子	横山 紅花		

#### 3年生

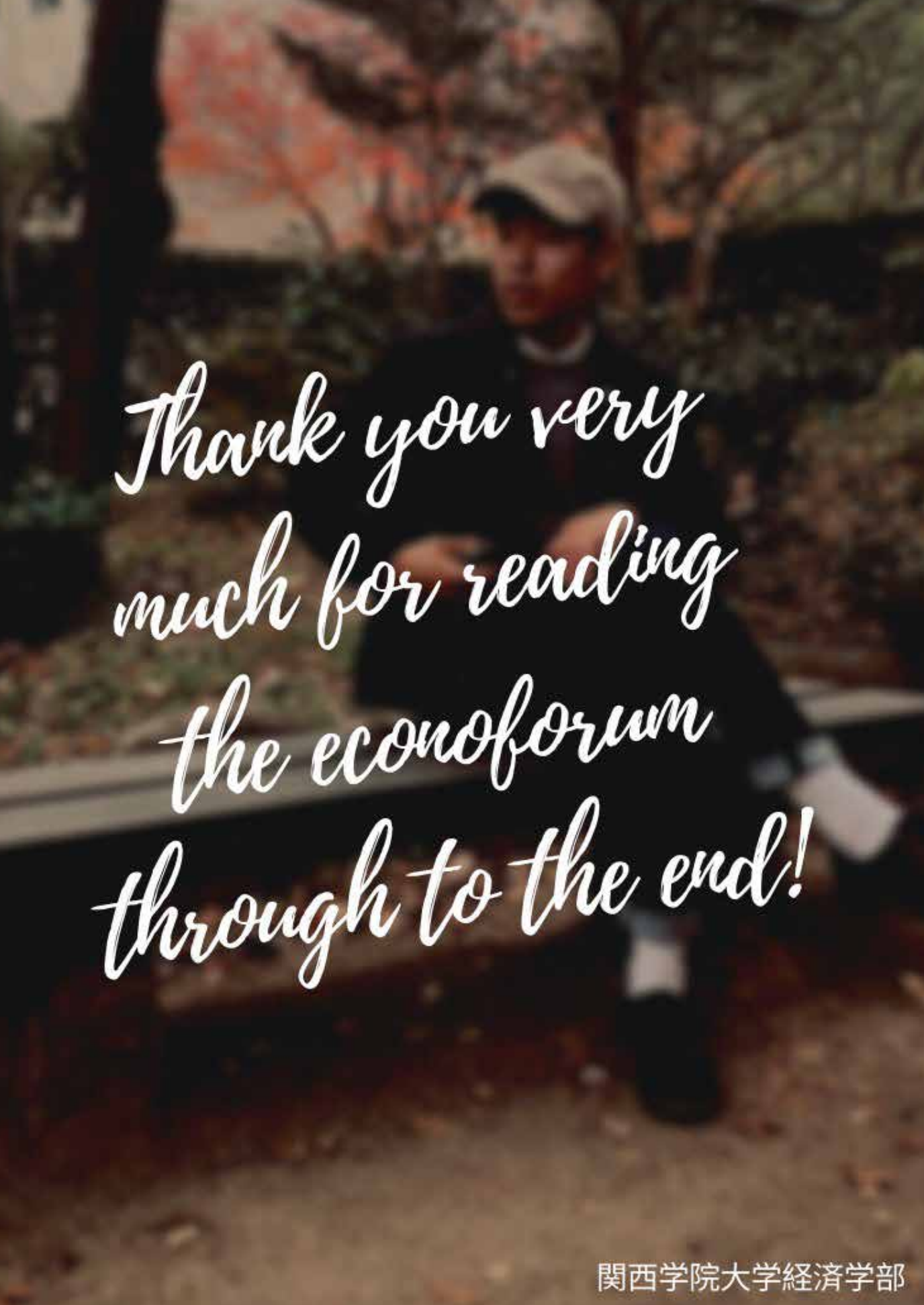
稲田絵理紗	木村 優斗	酒井 藍美	塩谷 和樹
堀 敦子	山本 一統	吉本茉佑子	

#### 2年生

生田 浩資	一山 僚汰	大塚 俊吾	岡野 晶
小川 良太	越智 達志	川本 双葉	岸部 桃子
肥塚日菜子	齊藤 光汰	阪口 真唯	大文字弘行
常陰 有咲	西口 陽向	林 史奈	藤川 奈々
藤平 優衣	前田慶一郎	宮田梨咲子	米澤 慧
脇本 泰成			

#### 1年生

岩田 結衣	上杉 美咲	魚住みなみ	海藻 健太
川崎えりか	神澤 瑠璃	岸部 哲也	國頭 愛
小手川菜波	作本 育海	神野みどり	高谷菜々子
早瀬 泉綺	原田ひより	布施 拓真	宮坂 達也
宮田 雅之	山本 萌	吉田 壮作	

A person wearing a light-colored cap and a dark jacket is sitting on a dark-colored bench outdoors. They are holding a book and appear to be reading. The background is slightly blurred, showing trees and foliage. The overall scene is peaceful and focused on the act of reading.

*Thank you very  
much for reading  
the econoforum  
through to the end!*